

保存用1

御津町埋蔵文化財発掘調査報告 3

原 遺 跡

圃場整備事業に伴う
発 掘 調 査

1988年3月

岡山県御津町教育委員会

原遺跡調査前全景（南東上空から）



序

御津町宇垣の原遺跡は県下周知の遺跡である。

この遺跡は、御津町をほぼ北から南へ貫流する旭川の西岸、町の中心的平地である宇垣地区原にあり、氾濫原の微高地、自然堤防上に立地している。その発見は昭和26年3月当時の岡山県立金川高等学校教諭であった故人江坂進氏が瓦土採取現場で眼をとめた土器片がその最初の発見であった。

それ以来現岡山理科大学鎌木義昌教授等研究者によって調査研究が進められた結果、貝塚をともなわない内陸部の縄文時代晩期の遺跡として注目されてきたのである。

今回、県営圃場整備事業（河内地区）の実施に当たり、この遺跡の歴史的・文化的重要な性に鑑みその損傷を最少限に留めるべく岡山地方振興局・岡山県教育庁文化課・御津町農業土木課等関係諸機関と協議を重ね、全体として盛土工法によることとし、用水路、排水溝等止むを得ない部分について、「トレンチ調査」・「表層部分調査」を実施して記録保存をすることとした。

そして、昭和60年4月から3カ年間、岡山県古代吉備文化財センター職員二宮治夫主事の派遣により発掘調査を進めた結果、当初の予想以上の石器・土器類・住居址・建物跡等貴重な発見が相つぎ、御津町の古代史解明の上に誠に重要な資料を与えてられているのである。

出土品の保護と活用については、本年度中に整理・保存し一般に紹介いたします予定である。

ここに、この報告書を発刊するに当たり、その意義と成果の一端を述べ関係各位のご協力に対し深く感謝申し上げます。

どうぞ、この報告書が古代史解明の一助となり、併せて文化財保護と活用の資ともなりますよう念願いたします。

昭和63年3月

御津町教育委員会
教育長 宮本久雄

例　　言

1. 本書は、県宮圃場整備事業に伴い、御津町教育委員会が昭和60・61年度国庫補助を受けて実施した「^{はら}原遺跡」の発掘調査概要報告書である。
2. 遺跡は御津郡御津町大字宇垣に所在する。
3. 発掘調査は御津町教育委員会職員二宮治夫が担当し、昭和60年4月～昭和61年5月31日、昭和61年10月31日～昭和62年3月31日まで実施した。
4. 発掘調査においては、岡山県教育委員会、御津町役場農業土木課、地権者等より援助を受けた。特に発掘作業に従事していただいた地区の方々には大変おせわになりました。記して感謝の意を表します。
5. 遺物の整理は宇垣コミュニティーセンターで二宮が行った。尚、遺物、実測図、写真等は御津町教育委員会において保管している。
6. 本書の作成にあたっては、岡山県古代吉備文化財センター職員 正岡睦夫氏の協力を得た。
7. 本書に使用したレベル高は海拔高であり、方位は第1～3図が真北、他は磁北である。
8. 本書第2図に用いた地形図は建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図（金川）を複製したものである。
9. 図版中の遺物番号は本文中の遺物番号と同一である。

目 次

第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯	5
第3章 原遺跡の調査	9
第1節 D12区の調査	9
第2節 D19区の調査	28
第3節 D21区の調査	51
第4節 D22・D23区の調査	55
第5節 D13・D28区の調査	70
第6節 D25区の調査	76
第7節 D20区の調査	80
第8節 D26区の調査	117

表 目 次

表1 遺跡分布表	3
表2 原遺跡水田層花粉分析表	123
表3 原遺跡出土土器観察表	124

図 目 次

第1図 位置図 (1/1,320,000)	1
第2図 原遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)	2
第3図 原遺跡微高地範囲図 (アミメ部分)	6
第4図 園場整備前地形図 (1/4,000)	7
第5図 園場整備後地形および調査区	8
第6図 D12区遺構配置図 (1/400)	9
第7図 D12区1号住居址平・断面図 (1/60)	10
第8図 D12区2号住居址平・断面図 (1/60)	11
第9図 D12区3号住居址平・断面図 (1/80)	12
第10図 D12区1~3号住居址出土遺物	13
第11図 D12区4号住居址平・断面図 (1/60)	14

第12図	D12区 5号住居址平・断面図(1/60)	15
第13図	D12区 5号住居址出土遺物	16
第14図	D12区 6号住居址平・断面図(1/60)	17
第15図	D12区 7号住居址平・断面図(1/60)	18
第16図	D12区 8号住居址平・断面図(1/80)	19
第17図	D12区 8号住居址他出土遺物	20
第18図	D12区住居址内出土遺物	21
第19図	D12区井戸-1平・断面図(1/60)	22
第20図	D12区井戸-1出土遺物	23
第21図	D12区建物-1平・断面図(1/80)	24
第22図	D12区土器溜り出土遺物	25
第23図	D12区土器溜り・包含層・表採遺物	26
第24図	D12区住居址他出土遺物	27
第25図	D19区上段全体図(1/200)	28
第26図	D19区1号住居址平・断面図(1/80)	29
第27図	D19区2号住居址平・断面図(1/80)	31
第28図	D19区3号住居址平・断面図(1)(1/80)	32
第29図	D19区3号住居址断面図(2)(1/80)	33
第30図	D19区3号住居址断面図(3)(1/80)	34
第31図	D19区4・5号住居址平・断面図(1/80)	35
第32図	D19区6号住居址平・断面図(1/60)	36
第33図	D19区1・2・3号住居址出土遺物	37
第34図	D19区3・4号住居址他出土遺物	38
第35図	D19区2号住居址出土遺物	39
第36図	D19区1・2号住居址出土遺物	40
第37図	D19区2号住居址出土遺物	41
第38図	D19区3～9号住居址出土遺物	42
第39図	D19区住居址出土遺物	43
第40図	D19区7号住居址平・断面図(1/60)	44
第41図	D19区8号住居址平・断面図(1/60)	45
第42図	D19区袋状土壤平・断面図(1/30)	46
第43図	D19区土壤基平・断面図(1/40)	46

第44図	D19区土壤－2平・断面図（1／30）	47
第45図	D19区土壤－1・2出土遺物(1)	48
第46図	D19区土壤－1・2出土遺物(2)	49
第47図	D19区他住居址・包含層出土遺物	50
第48図	D21区1号住居址平・断面図（1／60）	51
第49図	D21区土壤－1平・断面図（1／30）	51
第50図	D21区1号住居址内土壤－2平・断面図（1／30）	51
第51図	D21区住居址内土壤出土遺物(1)	52
第52図	D21区住居址内土壤出土遺物(2)	53
第53図	D21区住居址内土壤出土遺物(3)	54
第54図	D22区1号住居址平・断面図（1／80）	55
第55図	D22区2号住居址平・断面図（1／60）	56
第56図	D22区3号住居址平・断面図（1／40）	57
第57図	D22区4号住居址平・断面図（1／80）	58
第58図	D22区5号住居址平・断面図（1／60）	59
第59図	D22・23区6号住居址平・断面図（1／80）	60
第60図	D23区7号（右）・8号（左）住居址平・断面図（1／60）	61
第61図	D22区土壤－1平・断面図（1／30）	62
第62図	D22区土壤－2平・断面図（1／40）	62
第63図	D22区2・3・4・6号住居址出土遺物	63
第64図	D22・23区6・8号住居址・溝－2出土遺物	64
第65図	D22区溝－3出土遺物	65
第66図	D22区土壤－1出土遺物	66
第67図	D22区柱穴出土遺物	67
第68図	D22区P－59出土遺物	68
第69図	D22区柱穴・包含層出土遺物	69
第70図	D13区溝－1遺物出土状況（1／20）	70
第71図	D13区溝－1～3断面図（中央部南壁）（1／60）	71
第72図	D13区P－3・溝－1出土遺物	72
第73図	D13区溝・土壤・包含層出土遺物	73
第74図	D28区水田址平・断面図（1／60）	74
第75図	D28区水田層出土遺物	75

第76図	D28区土器溜り出土遺物	75
第77図	D25区縄文土器出土状況平・断面図(1/20)	76
第78図	D25区造構配置図(1/400)および東西土層断面図(1/80)	77~78
第79図	D25区溝・斜面出土遺物	79
第80図	D20区1号住居址平・断面図(1/60)	81
第81図	D20区1号住居址出土遺物	82
第82図	D20区2号住居址平・断面図(1/60)	83
第83図	D20区3号住居址平・断面図(1/80)	84
第84図	D20区3号住居址(上)平・断面図(1/80)	85
第85図	D20区3号住居址内遺物出土状況(1/80)	86
第86図	D20区3号住居址出土遺物(1)	87
第87図	D20区3号住居址出土遺物(2)	88
第88図	D20区3号住居址出土遺物(3)	89
第89図	D20区3号住居址出土遺物(4)	90
第90図	D20区3号住居址出土遺物(5)	91
第91図	D20区3号住居址出土遺物(6)	92
第92図	D20区3号住居址出土遺物(7)	93
第93図	D20区3号住居址出土遺物(8)	94
第94図	D20区3号住居址出土遺物(9)	95
第95図	D20区3号住居址出土遺物(10)	96
第96図	D20区3号住居址出土遺物(11)	97
第97図	D20区3号住居址出土遺物(12)	98
第98図	D20区3号住居址出土遺物(13)	99
第99図	D20区3号住居址付近柱穴他出土遺物	100
第100図	D20区4号住居址平・断面図(1/60)	101
第101図	D20区建物-1平・断面図(1/80)	101
第102図	D20区建物-2平・断面図(1/80)	102
第103図	D20区井戸-1平・断面図(1/30)	102
第104図	D20区井戸-2平・断面図(1/60)	103
第105図	D20区井戸-3平・断面図(1/30)	104
第106図	D20区井戸-4平・断面図(1/30)	105
第107図	D20区井戸-5平・断面図(1/40)	105

第108図	D20区井戸-1・2・4・5出土遺物	106
第109図	D20区土壤-1平・断面図(1/40)	107
第110図	D20区袋状土壤平・断面図(1/30)	107
第111図	D20区土壤墓-1平・断面図(1/20)	107
第112図	D20区土壤他出土遺物	108
第113図	D20・21区出土遺物	109
第114図	D20区西侧南北平・断面図(1/100)	110
第115図	D20区溝-1平・断面図(1/60)	111
第116図	D20区溝-4・5平・断面図(1/60)	111
第117図	D20区溝-6平・断面図(1/60)	112
第118図	D20区溝-8・9平・断面図(1/60)	113
第119図	D20区溝-10平・断面図(1/60)	113
第120図	D20区溝出土遺物	114
第121図	D20区東端南北北側平・断面図(1/60)	115
第122図	D20区東端南北四部・土器溜り出土遺物	116
第123図	D26区・同拡張区全体図(1/200)	117
第124図	D26区拡張区住居址平・断面図(1/100)	118
第125図	D26区土壤-1平・断面図(1/60)	120
第126図	D26区土壤-2平・断面図(1/40)	120
第127図	D26区土壤出土遺物	121
第128図	D26区拡張区内土壤・包含層出土遺物	122

付 図 原遺跡D13区・D20区・D22区・D23区・D28区遺構全体図

図 版 目 次

- 図版1 1. 調査前(北東丘陵上から)
2. 第2期工事区域(北西から)
- 図版2 1. D12区遺構検出状況(東から)
2. D12区遺構検出状況(北から)
- 図版3 1. D12区1号住居址完掘状況(東から)
2. D12区2号住居址完掘状況(南から)
- 図版4 1. D12区2号住居址北壁土層断面(南から)
2. D12区3, 4, 5土器溜り完掘状況(北から)

- 図版5 1. D12区5号住居址内遺物出土状況・南北土層断面（西から）
2. D12区土器滴り全景（北西から）
- 図版6 1. D12区下層遺構検出状況（北から）
2. D12区6号住居址炭化物検出状況（南東から）
- 図版7 1. D12区6号住居址完掘状況（南東から）
2. D12区7号住居址検出状況（北東から）
- 図版8 1. D12区7号住居址検出状況（北東から）
2. D12区住居址かまと検出状況（南東から）
- 図版9 1. D12区井戸（下）8号住居址（上）完掘状況（北から）
2. D12区8号住居址完掘状況（西から）
- 図版10 1. D12区井戸検出状況（北から）
2. D12区井戸南北土層断面（西から）
- 図版11 1. D12区井戸完掘状況（西から）
2. D12区建物全景（北から）
- 図版12 1. D12区下層遺構完掘全景（北から）
2. D19区（一次）遺構検出状況（東から）
- 図版13 1. D19区（一次）1・2号住居址完掘状況（東から）
2. D19区（一次）2号住居址床面出土遺物近影
- 図版14 1. D19区（一次）3号住居址床面遺構検出状況（南から）
2. D19区3号住居址完掘状況（南から）
- 図版15 1. D19区（一次）3号住居址完掘状況（南から）
2. D19区（一次）完掘状況（東西部分）（東から）
- 図版16 1. D19区4号住居址検出状況（西から）
2. D19区4号住居址床面遺構検出状況（西から）
- 図版17 1. D19区4・5号住居址完掘状況（北から）
2. D19区下段東西完掘状況（西から）
- 図版18 1. D19区袋状貯蔵穴半掘断面（西から）
2. D19区袋状貯蔵穴完掘状況（南から）
- 図版19 1. D19区（下一次、上二次）二次遺構検出状況（南から）
2. D19区（二次）8号住居址検出状況（南から）
- 図版20 1. D19区8号住居址完掘状況（南から）
2. D19区土壤-1・2遺物出土状況（東から）

- 図版21 1. D19区土壤－2 遺物出土状況（東から）
2. D19区土壤－2 完掘状況（東から）
- 図版22 1. D19区1・2号住居址等完掘状況（南から）
2. D19区2号住居址完掘状況（南から）
- 図版23 1. D19区3・5号住居址検出状況（東から）
2. D19区3・5号住居址掘り下げ状況（東から）
- 図版24 1. D19区東西（上段）完掘状況全景（東から）
2. D19区東西（上段）3号住居址完掘状況（南から）
- 図版25 1. D19区6号住居址完掘状況（南西から）
2. D19区土壤墓完掘状況（南南西から）
- 図版26 1. D19区2号住居址柱穴内石器出土状況
2. D19区2号住居址床面石器出土状況
3. D19区3号住居址南北土層断面（西から）
4. D19区3号住居址壁体溝内遺物出土状況
5. D19区3号住居址中央土壤半掘状況（南から）
6. D19区3号住居址埋土中管玉出土状況
7. D19区3号住居址床面ガラス玉出土状況(1)
8. D19区3号住居址床面ガラス玉出土状況(2)
- 図版27 1. D13区全景（西から）
2. D13区溝－1 検出状況（東から）
- 図版28 1. D13区溝－1 完掘・溝－2 土壤検出状況（東から）
2. D13区溝－1 内遺物出土状況（南から）
- 図版29 1. D13区溝－1 内遺物出土状況
2. D13区溝－1 東西南壁土層断面（北西から）
- 図版30 1. D13区溝・土壤完掘状況（東から）
2. D13区完掘状況（一次）遺構検出状況（二次）（東から）
- 図版31 1. D13区完掘状況（一次・二次）（東から）
2. D28区土器溜り（東から）
- 図版32 1. D28区完掘状況（南側）（南から）
2. D28区水田部分（北から）
- 図版33 1. D28区水田畦畔・水口部分検出状況（南東から）
2. D28区北壁土層断面（畦畔）（南から）

- 図版34 1. D28区土層断面(1)
2. D28区土層断面(2)珪質検出状況
3. D28区土層断面(3)
4. D28区土層断面(4)（南南西から）
5. D28区土層断面(5)（南南西から）
6. D28区土層断面(6)（南西から）
- 図版35 1. D25区溝状遺構検出状況（西から）
2. D25区溝状遺構完掘状況（南東から）
- 図版36 1. D25区北壁土層断面（南から）
2. D25区北壁珪質部分（南から）
- 図版37 1. D25区北壁土層断面（南から）
2. D25区北壁土層断面（南東から）
- 図版38 1. D25区凹部完掘状況（南から）
2. D25区斜面遺物出土状況（南から）
- 図版39 1. D21区住居址・土壤検出状況（東から）
2. D21区土壤-1 遺物検出状況（南から）
- 図版40 1. D21区土壤-2 完掘状況（南から）
2. D21区住居址・土壤完掘状況（南東から）
- 図版41 1. 調査前（D19区から北東側を望む）
2. 調査前（D19区から北々東側を望む）
- 図版42 1. D22区住居址・土壤検出状況（西から）
2. D22区1号住居址掘り下げ中（西から）
- 図版43 1. D22区1号住居址完掘状況（西から）
2. D22区2号住居址完掘状況（南から）
- 図版44 1. D22区3号住居址完掘・土壤-1半掘状況（南から）
2. D22区3号住居址内遺物出土状況（北から）
- 図版45 1. D22区3号住居址完掘・土壤遺物出土状況（南から）
2. D22区土壤-1半掘断面（南東から）
- 図版46 1. D22区土壤内遺物出土状況（南東から）
2. D22区3号住居址より東側遺構検出状況（西から）
- 図版47 1. D22区4号住居址床面遺構検出状況（北から）
2. D22区4号住居址西側部分（北から）

- 図版48 1. D22区4号住居址完掘状況（北から）
2. D22区4号住居址西側中央ピット半掘状況（東から）
- 図版49 1. D22区4号住居址東側中央ピット半掘状況（東から）
2. D22区1号住居址より東側遺構完掘状況（東から）
- 図版50 1. D22区中央部分柱穴完掘状況（東から）
2. D22区5号住居址検出状況（北東から）
- 図版51 1. D22区土壤-59（南から）
2. D22区土壤-54（北から）
- 図版52 1. D22・23区6号住居址土層断面（西から）
2. D22・23区6号住居址柱穴内遺物出土状況
- 図版53 1. D22・23区6号住居址完掘状況（北北西から）
2. D23区7号（下）8号（上）住居址完掘状況（北から）
- 図版54 1. D20区南北部分調査状況（南から）
2. D22区南北部分西壁土層断面（東から）
- 図版55 1. D20区南北部分西壁土層断面（東から）
2. D20区南北部分西壁土層断面（北東から）
- 図版56 1. D20区南北部分落ち込み部土層断面（東から）
2. D20区南北部分西壁土層断面（東から）
- 図版57 1. D20区1号住居址・溝検出状況（西から）
2. D20区1号住居址1段掘り下げ状況（西から）
3. D20区1号住居址床面下遺構掘り上げ状況（北から）
4. D20区1号住居址完掘状況（西から）
- 図版58 1. D20区2号住居址検出状況（南東から）
2. D20区2号住居址床面遺構検出状況（南東から）
- 図版59 1. D20区2号住居址完掘状況（南東から）
2. D20区3号住居址検出状況（南から）
- 図版60 1. D20区3号住居址遺物出土状況（南から）
2. D20区3号住居址検出状況（南から）
- 図版61 1. D20区3号住居址遺物出土状況（南から）
2. D20区3号住居址南部土器出土状況(1)
3. D20区3号住居址南部土器出土状況(2)
4. D20区3号住居址南部土器出土状況(3)

5. D20区3号住居址南部土器出土状況(4)
 6. D20区3号住居址北西部土器出土状況
 7. D20区3号住居址南西部土器出土状況
 8. D20区3号住居址床面石器出土状況
- 図版62 1. D20区3号住居址遺物取り上げ後全景(東から)
2. D20区3号住居址上部床面完掘状況(東から)
3. D20区3号住居址下部床面検出状況(東から)
4. D20区3号住居址下部床面完掘状況(東から)
- 図版63 1. D20区4号住居址完掘状況(北から)
2. D20区井戸-1検出状況(西から)
- 図版64 1. D20区井戸-1遺物出土状況(北から)
2. D20区井戸-1完掘状況(北から)
- 図版65 1. D20区井戸-2(上)3(手前)検出状況(東から)
2. D20区井戸-2・3掘り上げ状況(東から)
3. D20区井戸-2土壤基壌掘り上げ状況(東から)
4. D20区井戸-2完掘状況(北から)
5. D20区井戸-3完掘状況(東から)
6. D20区井戸-2・3土壤基壌完掘状況(東から)
- 図版66 1. D20区井戸-4埋土掘り上げ状況(北西から)
2. D20区井戸-4内部近景(北西から)
3. D20区井戸-4底部石組み状況(北西から)
4. D20区井戸-4完掘状況(北西から)
- 図版67 1. D20区井戸-5一段掘り下げ状況(南から)
2. D20区井戸-5完掘状況(西から)
3. D20区井戸-5遺物出土状況
- 図版68 1. D20区1号住居址・溝検出状況(西から)
2. D20区溝-9(下)・5(上)完掘状況(西から)
3. D20区溝-8・9北壁土層断面(南東から)
4. D20区溝-6完掘状況(東から)
- 図版69 1. D20区建物-1・2全景(西から)
2. D20区建物-1全景(西から)
3. D20区建物-2柱穴掘り上げ状況(北から)

4. D20区建物－2北側柱穴木片出土状況
- 図版70 1. D20区袋状土壤上層焼土検出状況（北から）
2. D20区袋状土壤完掘状況（北から）
3. D20区土壤－1遺物出土状況（東から）
4. D20区土壤－1完掘状況（東から）
5. D20区土壤墓石組み検出状況（南から）
6. D20区土壤墓－1完掘状況（南から）
- 図版71 1. D20区東端南北部遺構検出状況（南から）
2. D20区東端南北部遺構検出状況（北から）
3. D20区東端南北部遺物出土状況
4. D20区東端南北部遺物出土状況
5. D20区南半分一部完掘状況（北から）
6. D20区南側凹部完掘状況（南から）
7. D20区北端溝検出状況（北から）
8. D20区北端溝完掘状況（北から）
- 図版72 1. D26区遺構検出状況（南から）
2. D26区北端部遺構検出状況（南から）
- 図版73 1. D26区土壤－1土層断面（南から）
2. D26区土壤－1・柱穴完掘状況（南から）
- 図版74 1. D26区拡張区遺構検出状況（南西から）
2. D26区拡張区完掘状況（南西から）
- 図版75 1. D26区拡張区内土壤－2遺物検出状況（南から）
2. D26区拡張区内土壤－2完掘状況（南から）
- 図版76 1. D20区1号住居址（左下）D26区拡張区内完掘状況（南東から）
2. D27区調査区全景（南東から）
- 図版77 1. D27区土層断面（南から）
2. D27区土層断面（南西から）
- 図版78 1. ポンプ場跡遺構検出状況（西から）
2. ポンプ場跡遺構完掘状況（西から）
3. 同、畦畔部分凹状遺構完掘状況（東から）
4. 同、凹状遺構内疊検出状況(1)（東から）
5. 同、凹状遺構内疊検出状況(2)（東から）

6. 同、凹状遺構内疊検出状況(3)（東から）

7. 同、凹状遺構完掘状況（東から）

8. 同、住居址完掘状況（北から）

図版79 出土遺物(1)

図版80 出土遺物(2)

図版81 出土遺物(3)

図版82 出土遺物(4)

図版83 出土遺物(5)

図版84 出土遺物(6)

図版85 出土遺物(7)

図版86 出土遺物(8)

第1章 地理的・歴史的環境

原遺跡の所在する御津郡御津町は、岡山県の中央部を南流する旭川のほぼ中流域に位置し、1市4町（東は赤坂町・山陽町、西は御津郡加茂川町、南は岡山市、北は建部町）に接し面積は約114km²を有する。

御津町の主要な集落は北から南に流れる旭川と、北西から南東に流れ、金川で旭川に合流する宇甘川、さらに北東から南西に流れ金川で旭川と合流する新庄川によって形成された沖積平野に立地している。

原遺跡は南流する旭川の右岸に形成された広大な沖積平野上に所在している。この沖積平野上には富谷から西方の鳴集落に蛇行し、さらに、南へ向かい、東流している三谷川に合流する低位部が認められている。原遺跡は低位部によって分断され、微高地上面には全体に遺構が認められる。

御津町内で現在知られている最も古い遺物（縄文時代後期）を出土している遺跡は伊田井山

遺跡、伊田沖遺跡である。晩期においては、鹿瀬遺跡、野々口遺跡が知られている。鹿瀬遺跡は、町の北端部で旭川が大きく蛇行した西岸の段丘上に所在し、土器片が出土している。原遺跡は、沖積地上に位地し、昭和26年頃から瓦粘土採掘時に土器、石器が出土して注目され、昭和33年、鎌木義昌氏、江坂進氏によって出土した土器に関する共同研究が発表され、縄文時代晚期の「原下層式」設定の契機となった遺跡である。野々口遺跡は、原遺跡の南東約1.5kmの旭川西岸に位置し、瓦粘土採掘中に土器とともに椎の実、ドングリ、および木の葉などが見つかってい



第1図 位置図 (1/1,320,000)

原遺跡



第2図 原遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)

る。以上3遺跡はいずれも旭川の西岸で弥生時代の集落址と複合して認められている。

弥生時代の遺跡としては、旭川流域に位置する前述の鹿瀬遺跡、原遺跡、野々口遺跡が縄文時代から引き継ぎ営まれているのに加え、町の北東部を流れる新庄川を見下す山麓に中期から後期にかけての遺跡である岩井山遺跡、上伊田遺跡、宅美池遺跡、新庄尾上遺跡等が確認されている。岩井山遺跡は、昭和50年に発掘調査が実施され、中期後半の堅穴住居址が検出されている。こうした弥生時代の遺跡は、原遺跡、岩井山遺跡を除くと偶然に土器等が採集されているものが多く、実態は明らかではないが、未発見の遺跡も含め、水系を見下す丘陵、山裾にも弥生時代の人々が生活を始めたことをうかがうことができる。

古墳時代に入ると、各水系のを見下す丘陵上には多くの古墳が存在しており、その流域に広がる平野を生産基盤として古墳時代の人々が生活していたことが知られる。

分布状況は、旭川水系約20基、宇多川水系約20基、新庄川水系で約50基が確認されている。このうち旭川流域の草生、宇垣、野々口、国ヶ原の平野を基盤とする古墳は後期古墳が主体をなしている。宇甘川流域では全長44mを測る前方後円墳の菅2号墳、一辺約10mの方墳の菅1号墳や小円墳などの前半期の古墳から後期古墳が造営されている。中でも新庄川流域においては、平野を見下す丘陵上に、前方後円墳（天神鼻1号墳、八つ塚古墳）が近接して存在し、周辺にも前半期の古墳が知られている。昭和50年に発掘調査が実施された岩井山古墳群には箱式石棺、石蓋土壤を内部主体とする5世紀代の方墳であることが明らかとなっている。このような古墳のあり方から古墳時代においては新庄川流域は年代的、数量的にも他の水系に比べて卓越している地城であったと考えられる。

歴史時代に入ると、奈良～室町時代の原、岩井山遺跡がある他、五輪塔、宝篋印塔なども確認されている。とりわけ鎌倉～戦国時代においては、河川および陸上の交通の要衝地にあたる

表1 遺跡分布表

1. 原遺跡	22. 実盛山古墳	39. 熊谷城
2～8. 宇根山古墳群	23. 雲生宅跡	40. 西谷城
9. 金川古墳（調査済のみ）	24. 中泉2号墳	41～44. 天神鼻古墳群（43は前方後円墳）
10～13. みそのお古墳群	25. 中泉3号墳	45. 新庄原遺跡
14. 菅1号墳	26～31. 熊見古墳群	46. 八つ塚古墳（前方後円墳）
15. 菅2号墳（前方後円墳）	32. 徳倉城	47. 岩井山古墳群
16. 玉松城	33. 野々口遺跡	48. 岩井山遺跡
17. いかとり古墳	34. 恋坂古墳	49. 酒屋谷遺跡
18. 平野古墳	35. 蟻名古墳	50. 伊田冲遺跡
19. 宇条1号墳	36. 国ヶ原神社西古墳	51. 殿谷城
20. 宇条2号墳	37. 香雲寺1号墳	52. しんのう塚古墳
21. 鹿瀬遺跡	38. 香雲寺裏2号墳	53～56. 殿谷古墳群

原 遺 跡

こともあって、戦国期では岡山県下最大級の城郭構造をもつ金川城（玉松城）をはじめ、徳倉城、虎倉城、熊谷城、殿谷城など多くの山城が構築されていた。中でも金川城（玉松城）主松田元成は落成まで備前国西半を支配する戦国大名として永く君臨していたところである。

このように、御津町は縄文時代後期から中世に至るまでの遺構・遺物が認められ、大きな歴史の一役を担って来た地域であるといえる。

参考文献

- (1) 鎌木義昌・江坂進『岡山県御津町原遺跡－縄文晩期の土器を中心として－』瀬戸内考古学 第2号 1958年
- (2) 神原英朗他『岩井山古墳群』岡山県御津町教育委員会 1976年
- (3) 平井 勝『金川古墳』岡山県御津町教育委員会 1982年
- (4) 『岡山県遺跡地図 第4分冊』岡山県教育委員会 1976年
- (5) 松本和男『原遺跡』岡山県御津町教育委員会 1983年
- (6) 平井泰男『新庄尾上遺跡ほか』岡山県教育委員会 1986年
- (7) 光永真一『西奥遺跡』岡山県教育委員会 1986年
- (8) 御津町史編纂委員会『御津町史』御津町 1985年

第2章 調査の経緯

調査に至る経緯

御津郡御津町大字宇垣に所在する原遺跡は、縄文時代晚期、弥生時代中期、同後期の遺跡で、昭和33年に鎌木義昌、江坂進の両氏によって紹介された遺跡である。特に遺跡の下層から出土した縄文時代晚期の土器は「原下層式」と呼ばれ、瀬戸内地方の縄文時代晚期中葉の標式土器として著名なものである。

この宇垣地区一帯で県営圃場整備事業が計画されたのに伴い、岡山地方振興局長から文化財保護法第57条3にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。このため、昭和56年11月に関係者による協議を行い、(1)工事着手前に確認調査を実施する。(2)調査の結果、重要な遺構等が発見された場合は別途協議することとなった。この協議結果にもとづき、岡山県教育委員会において、遺跡の保護・保存のための基礎資料を得るために、昭和57年度国庫補助を受け、昭和57年11月4日から昭和58年2月28日まで確認調査が実施された。

確認調査は圃場整備が計画されている地区を中心にトレンチによる調査が行われた。その結果、遺構・遺物が検出される4つの微高地を確認した。遺跡全体の面積は約354,000m²におよぶ広大なものであることが判明した。

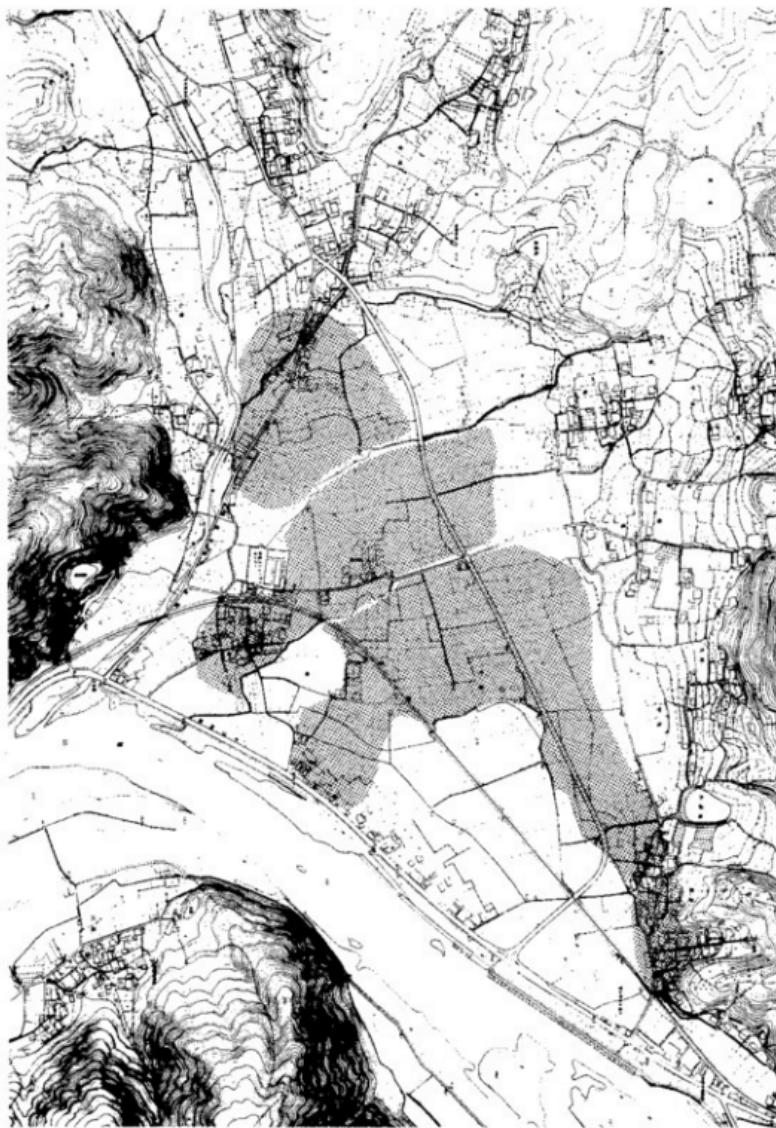
岡山県教育委員会による原遺跡の確認調査結果をもとに、岡山地方振興局、岡山県教育委員会、御津町、御津町教育委員会等で遺跡保存について協議が行われた。当初計画では遺跡の集中する微高地部分を削平して低位部を埋めて広い水田区画を造成することになっていたが、協議により、低位部に盛土を行い、削平する部分をなくすことになった。しかし、用・排水路については調整がつかず、やむをえず記録保存のための発掘調査を実施することになった。発掘調査は御津町教育委員会が担当し、昭和60・61年度の国庫補助を受け、昭和60年4月～昭和61年5月31日、昭和61年10月31日～昭和62年3月31日まで行った。報告書の作成は昭和62年度に実施した。

調査体制

昭和60・61年度

教 育 長	宮 本 久 夫	次 長	石 原 洋 昭
課 長 补 佐	藤 原 正 係	長	金 光 明 男
社会教育主事	祐 森 秀 男	社会教育主事(調査担当)	二 宮 治 夫

原遺跡



第3図 原遺跡微高地範囲図（アミメ部分）

昭和62年度

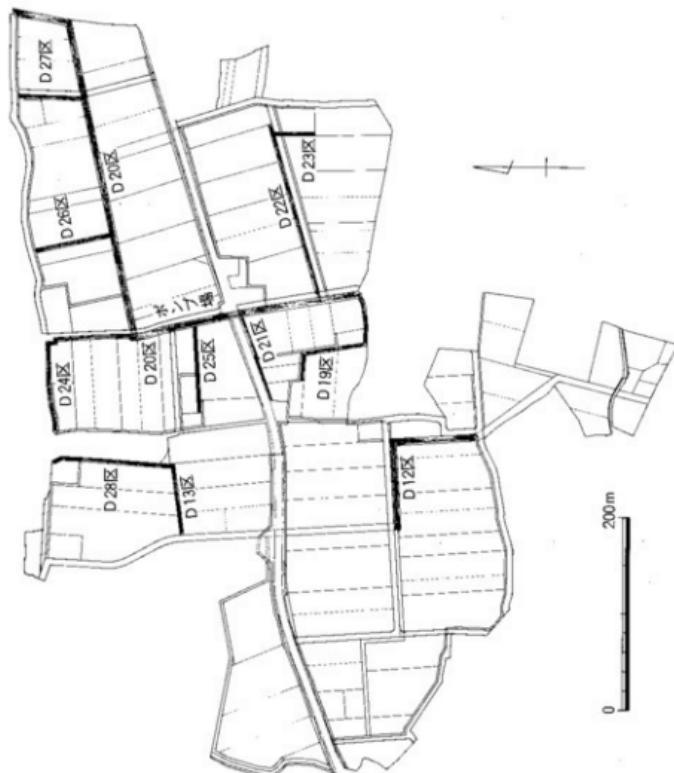
教育長 宮本久夫 教育委員会主幹 藤原 正
係長 宇野尚憲 社会教育主事(調査担当) 二宮治夫
発掘作業員 西岡定勝・西田一正・舞原一志・寺門秀夫・寺門和寿・
吉村 弘・北山謙吾・花房義質・安宗貞男・遠藤笑野・高角光恵・
田口 静子・藤原絹恵・藤原貴奴江・吉村芳子・北山君恵・寺門順子・
大森文香・松尾千鶴子
整理作業員 海野ゆかり・江見和子・信定ヤヨイ・春名年枝



第4図 地場整備前地形図 (1/4,000)

調査区の設定

原遺跡の範囲は第3図のように広大な面積となる。圃場整備前の地割は第4図のように地形に影響されながら小区画の水田がひろがっていた。第5図は圃場整備後の水田区画であるが、道路、水路、水田区画が大きく整然と整備されている。用水路や排水路については第3図に示された遺跡の範囲内について発掘調査を実施した。調査区は第5図に示すように、D○区という標示を行った。D24区とD27区については明確な遺構・遺物は検出されなかった。なお、ポンプ場跡地の調査を実施した。



第5図 圃場整備後地形および調査区

第3章 原遺跡の調査

第1節 D12区の調査

1. D12区の概要

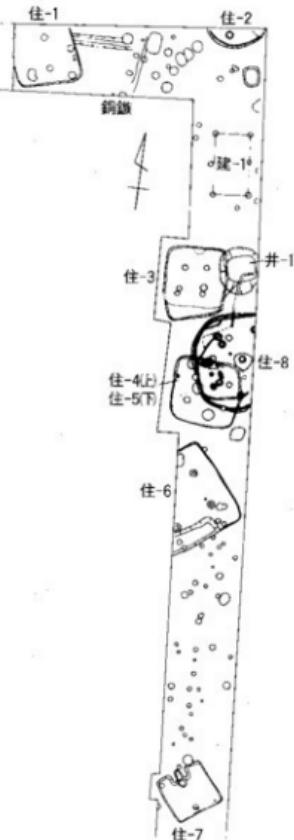
県道の南側に位置し、原遺跡全体のなかでは南西部分にあたる。県道から南へ100mのところで、東西方向の長さ100mの部分と東端部から南へ80mが調査対象地域である。東側が少し高くなっていて、西へ緩やかに傾斜する。そのため、東端部の南北方向の調査区域を中心には多数の遺構が検出された。調査前はすべて水田で、耕土下の浅いところで遺構・遺物が検出される。

検出された主な遺構としては、弥生時代の竪穴住居址2軒、古墳時代の竪穴住居址6軒、中世の建物1棟、弥生時代後期の井戸1基がある。遺物としては、弥生時代中期から同後期の土器、古墳時代の須恵器、土師器、中世の土器、弥生時代の土器、時期不明の銅鏡などがある。

2. D12区の遺構・遺物

1号住居址（第7・10図、図版3-1）

調査区の北西端部に位置する。平面形は方形を呈し、西側の一部は後世の溝によって削られている。北側の一部は調査区域外になつていて全容を知ることはできないが、概要を知ることは可能である。東側の壁の方向は北からわずかに西へふれているが、ほぼ南北方向を示している。西壁の南寄りの一部が調査されているので、この部分で測ると東西4.62



第6図 D12区遺構配置図 (1/400)

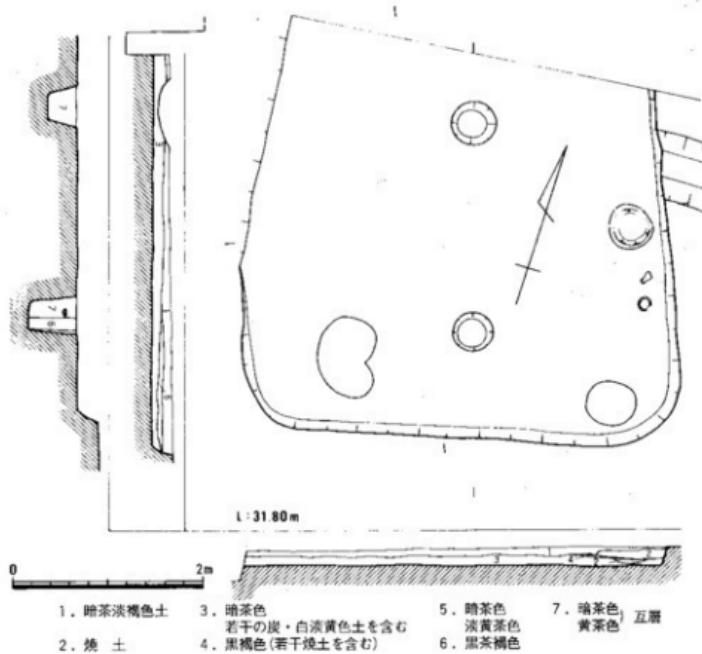
mである。中央部には南北に並ぶ2本の柱穴があり、南側の柱穴から南壁までは86cmを測ることから、北側の柱穴から北壁までの距離が同じであるとすると、南北4.44mとなり、ほぼ正方形を呈している。中央の柱穴2本の中心間の距離は2.2mである。この住居址の主柱穴は2本である。北側の柱穴は直径43cm、深さ25cm、南側の柱穴は直径22cm、深さ26cmである。南側の柱穴には柱痕跡が認められ、直径14cmである。検出面から床面までの深さは20cmである。床面はほぼ平坦である。床面の東端部、南東隅、南西隅に浅い土壤が認められる。埋土の上面に溝が東西方向に走っている。

埋土中からは第10図1が出土している。時期は出土遺物から7世紀前半に比定される。

2号住居址（第8図、図版3-2・4-1）

調査区の北西隅に位置している。円形を呈する堅穴住居址であるがほとんどは北側の調査区外にあり、南側の一部を調査したにすぎない。調査した部分から直径を復元すると約4.5mである。保存状況は良好で、検出面から床面までの深さは74cmを測る。

床面には壁に沿って、壁体溝があり、幅約8cm、深さ約4cmである。床面はほぼ平坦で、壁



第7図 D12区 1号住居址平・断面図 (1/60)

体溝から40cmの位置に1本の柱穴が検出された。柱穴の大きさは直径58cm、深さ60cmである。

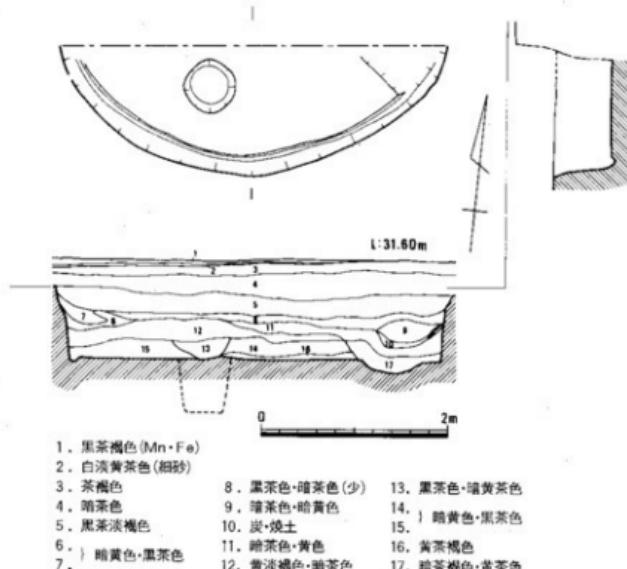
埋土中から第18図1のヤリガンナが出土している。ほかに、第10図4～11がある。4・5は甕、6・7は鉢、9～11は高杯である。

住居址の時期は埋土中の遺物から百・後・IV（百間川遺跡弥生時代後期第IV期の略、以下同様<注>）に比定される。

他 岡山県教育委員会「百間川原尾島遺跡I」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」39 1980年で用いらされた編年に準拠する。

3号住居址（第9・10図、図版4-2）

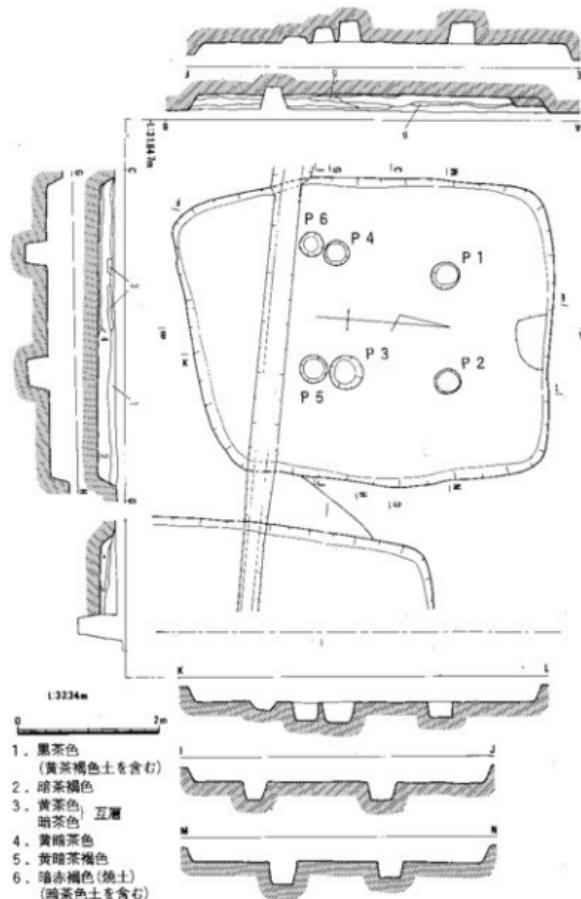
南北方向にのびる調査区の少し北寄りに位置している。平面形は方形を呈し、全容を知ることができる。南側には東西方向に走る幅60cmの溝があり、住居址の床面より深く掘られている。平面形を詳細にみると南側に少し変形がみられるが、北壁はほぼ東西方向を示している。南側は後に一部拡幅されたようで、南西隅が少し南へ突出するよう少し変形している。規模は東西4.4m、南北4.4～5.4mである。



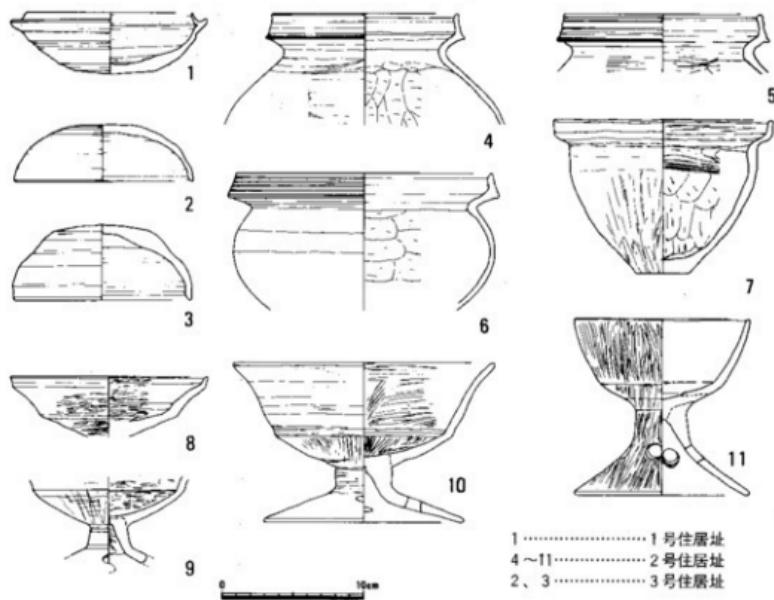
第8図 D12区 2号住居址平・断面図 (1/60)

原 遺 跡

床面はほぼ平坦で、壁体溝は検出されていない。柱穴は床面で6本検出されているが南側の柱穴は2本ずつ接近していることから建て替えに伴うものと思われる。柱穴の配置は南側の柱穴が少し西方へずれていて菱形を呈する。柱間はP1～P2が1.6m、P2～P3が1.5m、P3～P4が1.8m、P1～P4が1.6mである。柱穴の大きさは直径30～40cm、深さ20～30cmで



第9図 D12区3号住居址平・断面図 (1/80)



第10図 D12区 1~3号住居址出土遺物

ある。北壁中央部には $60 \times 80\text{cm}$ の貼り土がみとめられる。

埋土中からは須恵器の杯蓋 2・3 が出土している。住居址の時期は須恵器の特徴から 7世紀前半に比定される。

4号住居址（第11図、図版4-2）

D12区の南北にのびる調査地域のはば中央部に位置している。5号住居址および8号住居址と重なっている。平面形は方形を呈していて、北壁はほぼ東西方向である。各コーナーは隅丸になっている。南側では明瞭な掘り込みを確認できたが、北側はやや不明瞭である。

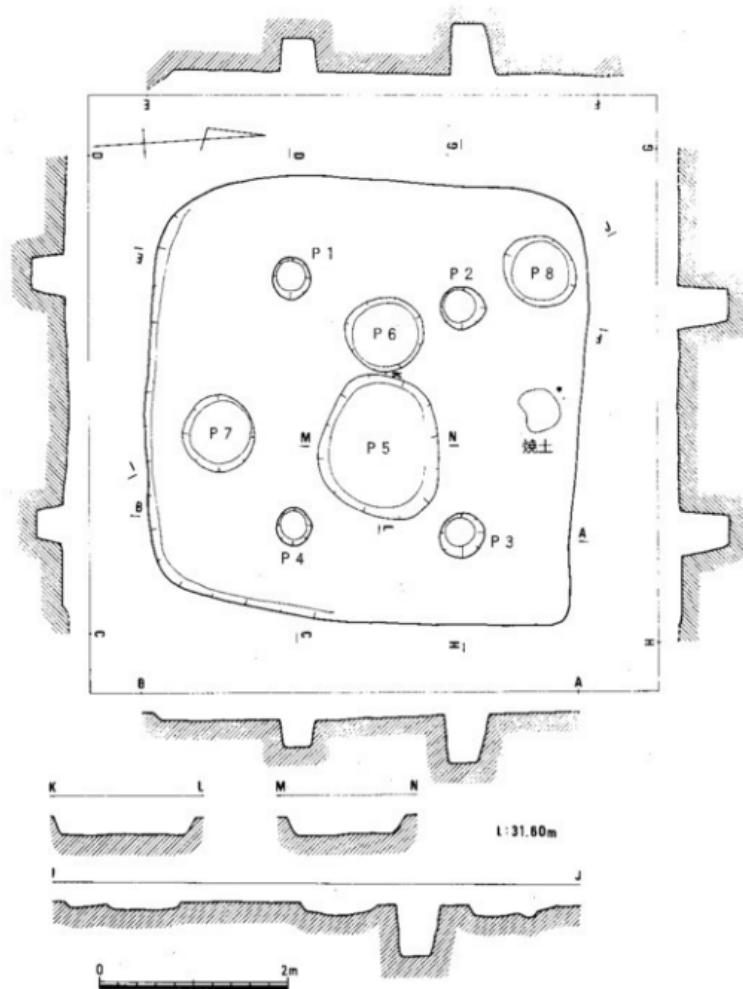
柱穴は4本あり、P1の柱穴が少し外側へずれているが、ほぼ方形である。柱間の距離は、P2~P3が2.4m、P3~P4が1.7m、P1~P4が2.7m、P1~P2が1.85mである。柱穴の人さきは直径約40cm、深さ20~50cmである。床面には中央部に2個と北西隅に1個、南側で少し東へ寄ったところに1個の浅い土壤がある。

埋土中の出土遺物に良好なものはないが、形態等から古墳時代に比定される。

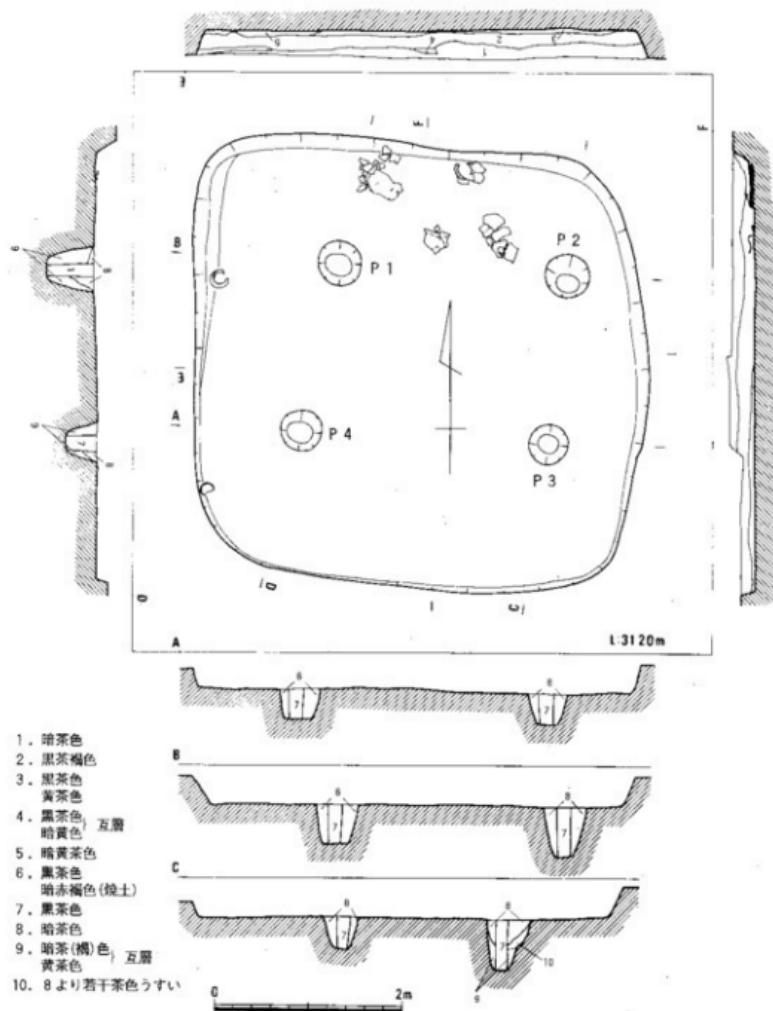
原遺跡

5号住居址（第12・13図、図版5-1）

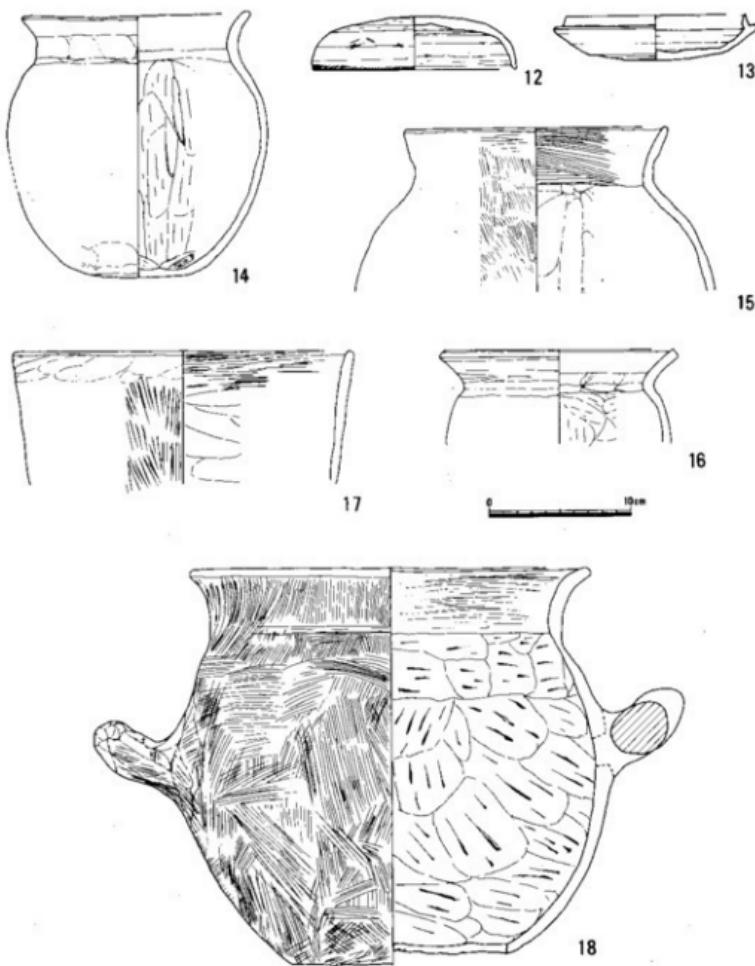
D12区の南北に続く調査区域のほぼ中央部分に位置し、4号住居址および8号住居址と重複している。平面形は隅丸方形を呈し、北壁はほぼ東西方向である。大きさは南北4.7m、東西



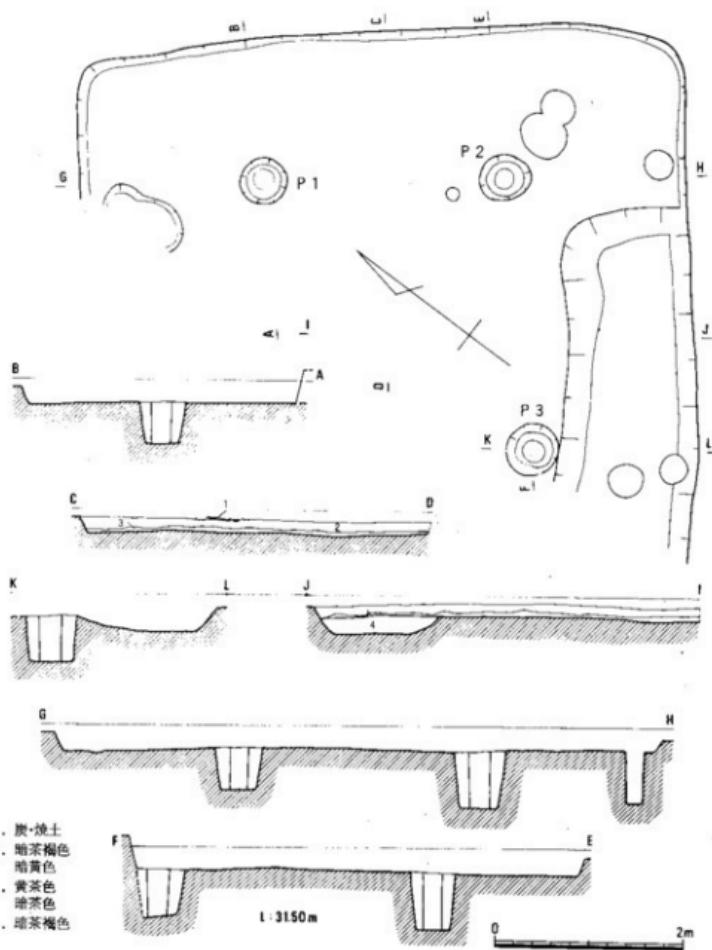
第11図 D12区4号住居址平・断面図 (1/60)



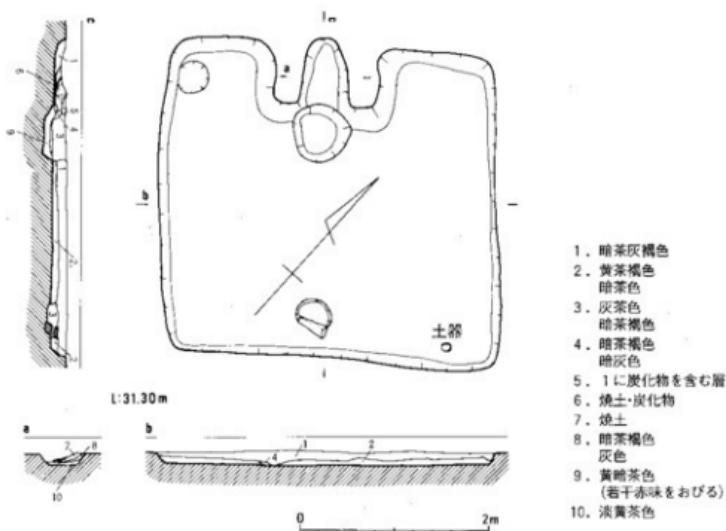
第12図 D12区 5号住居址平・断面図 (1/60)



第13図 D12区5号住居址出土遺物



第14図 D12区 6号住居址平・断面図 (1/60)



第15図 D12区 7号居住址平・断面図 (1/80)

4.8m、深さ30cmである。

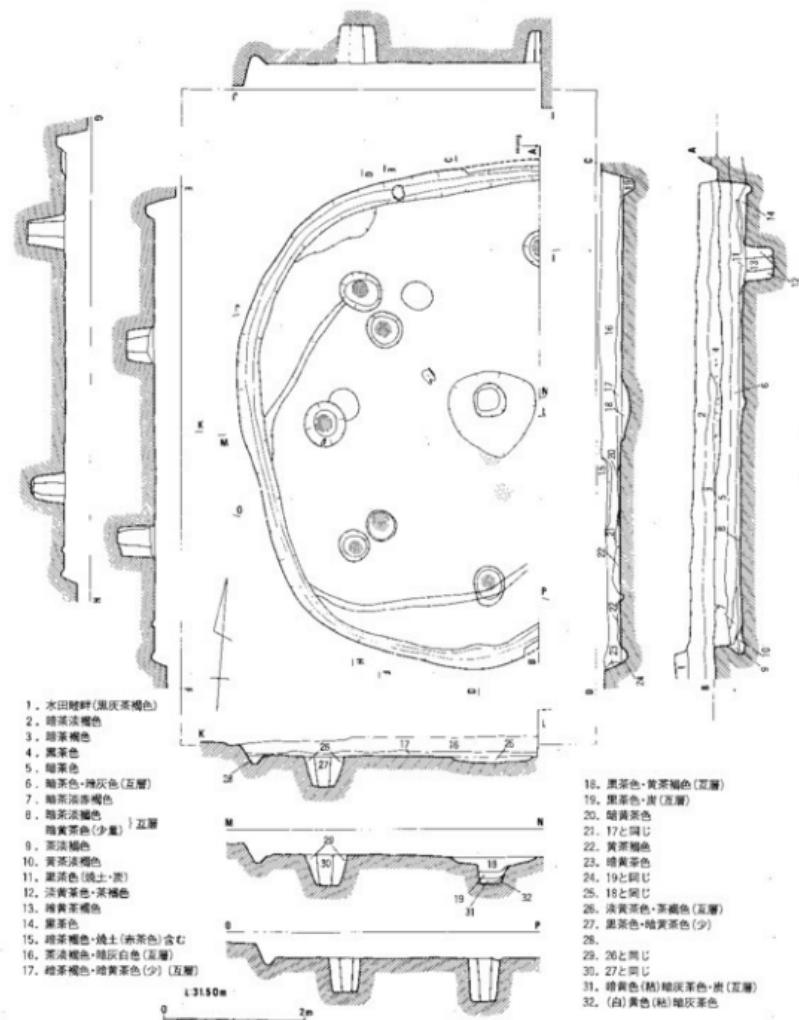
柱穴は4本あり、北側の2本が少し東へずれていて、少し菱形になる。柱間の距離はP1～P2が2.4m、P2～P3が1.8m、P3～P4が2.6m、P1～P4が1.9mである。柱穴の大きさは直径約40cm、深さ30～40cmである。4本とも柱痕跡がみとめられる。これによると直徑約10cmの柱であることがわかる。

床面から遺物が検出されている。北壁と北側の柱との間に土師器の壺、こしきがあり、西壁に接して、須恵器の杯身、杯蓋がある。

時期は出土遺物から6世紀末～7世紀初に比定される。

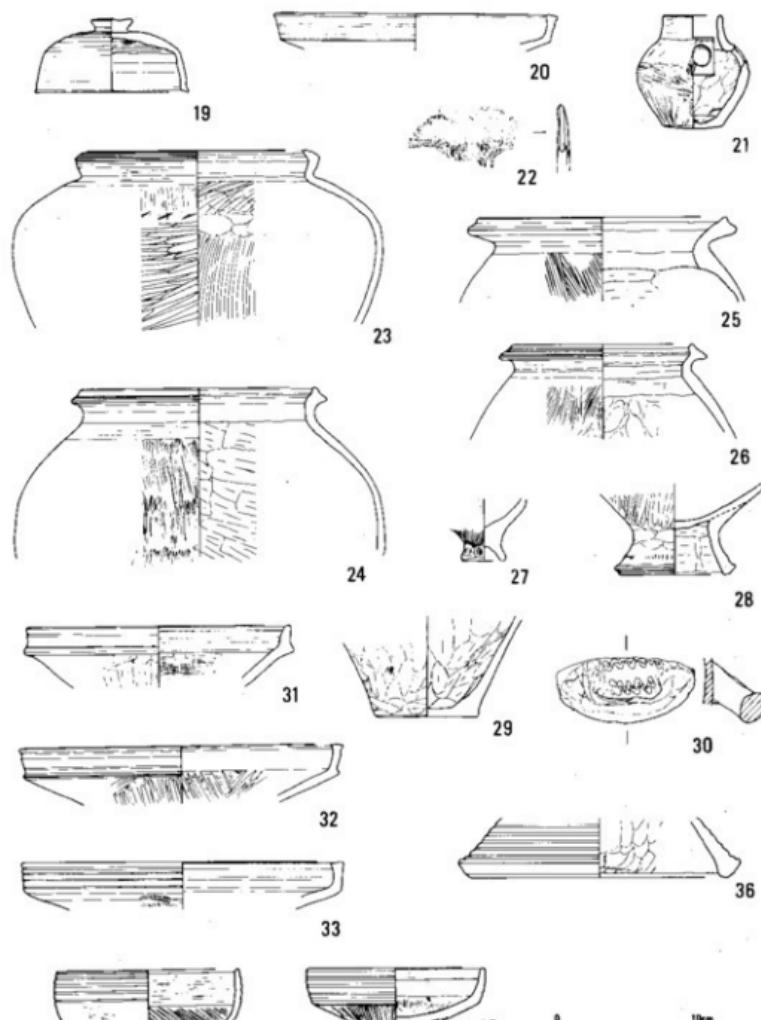
6号居住址 (第14図、図版6-2)

D12区の南北にのびる調査地域のほぼ中央部に位置し、5号居住址の南に接している。平面形は方形を呈しているが、西側の半分が調査区域外にのびている。東側の壁は全体を確認している。方位はN42°Wを示している。大きさは南北6.45m、東西5.7m以上、深さ30cmである。床面には3本の柱穴がL字形に検出されたことから未調査地区にさらに1本あって、4本柱と推定される。柱間の距離は、P1～P2が2.6m、P2～P3が2.9mである。柱穴の大きさは



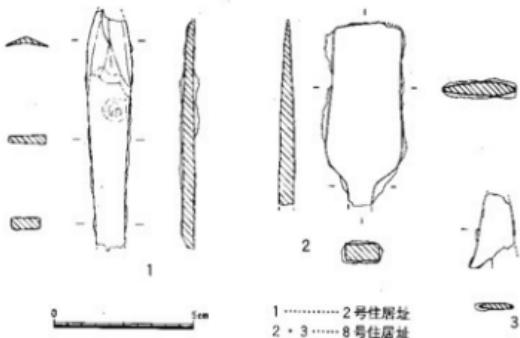
第16図 D12区 8号住居址平・断面図 (1/80)

原道跡



19.....7号住居址
20~35.....8号住居址

第17図 D12区 8号住居址他出土遺物



第18図 D12区住居址内出土遺物

直径50~60cm、深さ40~60cmである。3本の柱穴とも柱痕跡が認められる。これによると、直径約20cmの柱穴と推定される。床面には南壁に接して浅い土壇がある。幅1.3m、長さ3m以上、深さ30cmである。

この住居址は火災にあっていて、床面の少し上に炭化材がみられる。炭化物は垂木と推定されるもので放射状にひろがっている。

埋土中からは良好な出土遺物はないが、形態等から古墳時代に比定される。

7号住居址（第15図、図版7-2・8-1・2）

D12区の南北にのびる調査地域の南端付近に位置する。平面形は方形を呈し、かまどを付設している。東側の壁の方向はN43°Wを示している。北側の壁に接してかまどがあり、上部を削平されているが、ほぼ全容のわかるものである。大きさは南北3.4m、東西3.6mである。

床面を詳細に調査したが、柱穴は検出されなかった。かまどはU字形に壁が残り、内面は火を受けて赤変している。かまどの前には不整形の土壇が1基ある。大きさは径約60cm、深さ10cmである。かまどの反対側で、南側の壁に近い位置にも浅い土壇がある。大きさは30×40cm、深さ10cmのものである。

埋土中の遺物には須恵器壺蓋19が1点ある。時期は山土遺物から6世紀前半に比定される。

8号住居址（第16・17・18図、図版9-1・2）

D12区の南北にのびる調査区域の中央部に位置し、4号住居址および5号住居址の下層から

原 遺 跡

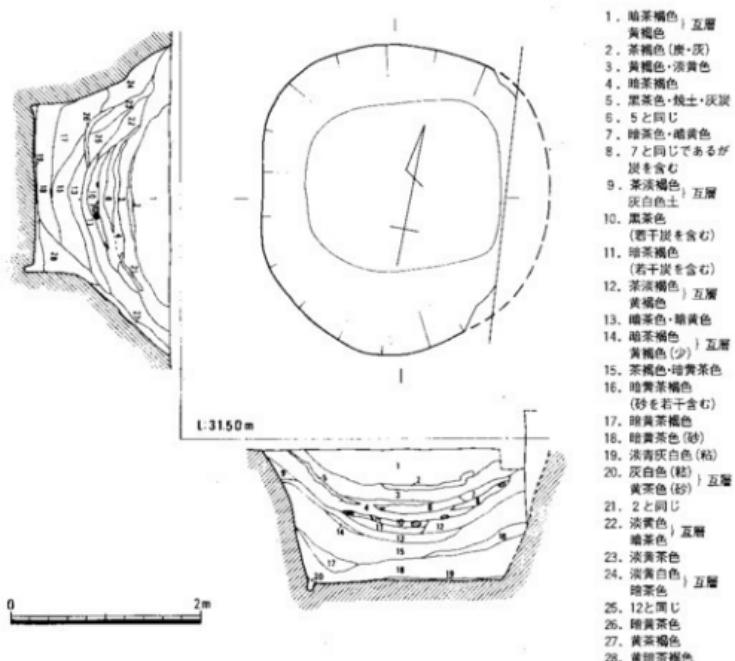
検出された。東側の3分の1が調査区域外になっている。平面形は不整な円形を呈している。壁に沿って、幅20cm、深さ約10cmの壁体溝がある。住居址の大きさは南北で7.2mである。調査した床面からは9本の柱穴が検出された。2本が隣接しており、建て替えが行われたものと判断される。当初の柱穴と推定されるものは5本あり、中央にある土壌との位置関係から推定すると7本柱と推定される。柱穴の直径は40~60cm、深さ40~60cmである。

床面の中央部には1基の土壌がある。浅くて大きな不整円形土壌の中央部に円形の深い穴が掘られている。外側の土壌は長径1.2m、中央部の土壌は長径42cm、深さ40cmである。内部には灰を含む土が入っている。中央土壌の南には2か所の火どころがあり、炉跡と判断される。

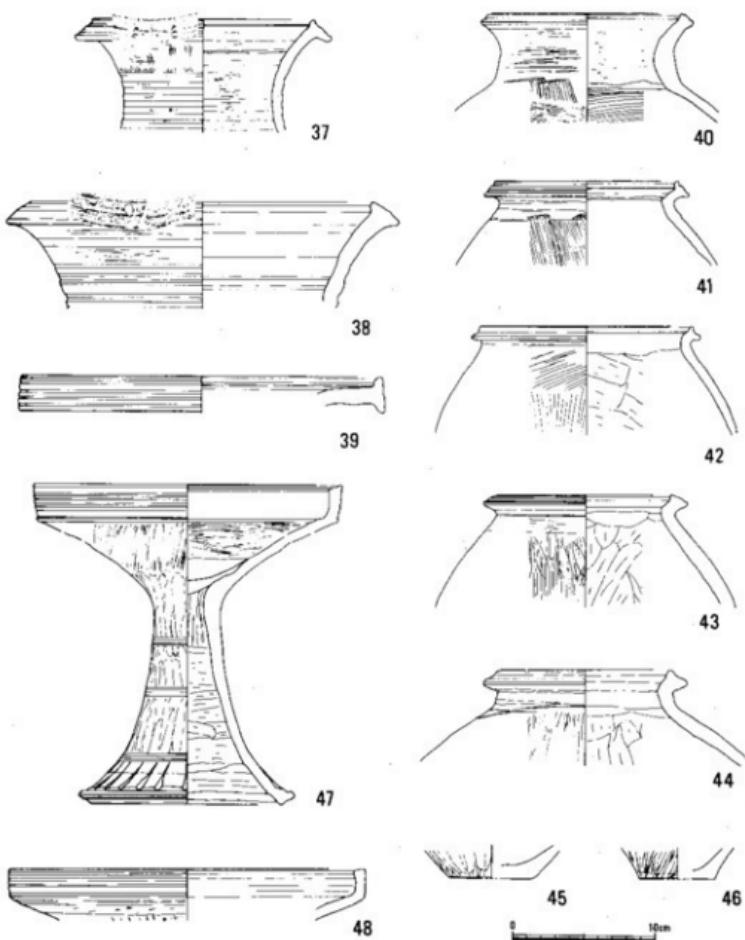
埋土中からは弥生土器20・21・23~35、分銅形土製品22、鉄鏃2・3がある。時期は出土遺物から百・後・I（弥生時代後期前葉）に比定される。

井戸-1（第19・20図、図版10-1、2・11-1）

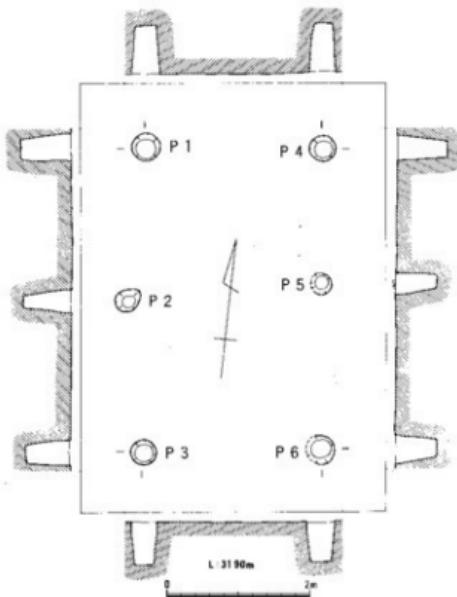
D12区の南北につづく調査区域の北寄りに位置し、3号住居址と一部重複している。東側の



第19図 D12区井戸-1平・断面図 (1/60)



第20図 D12区井戸-1出土遺物



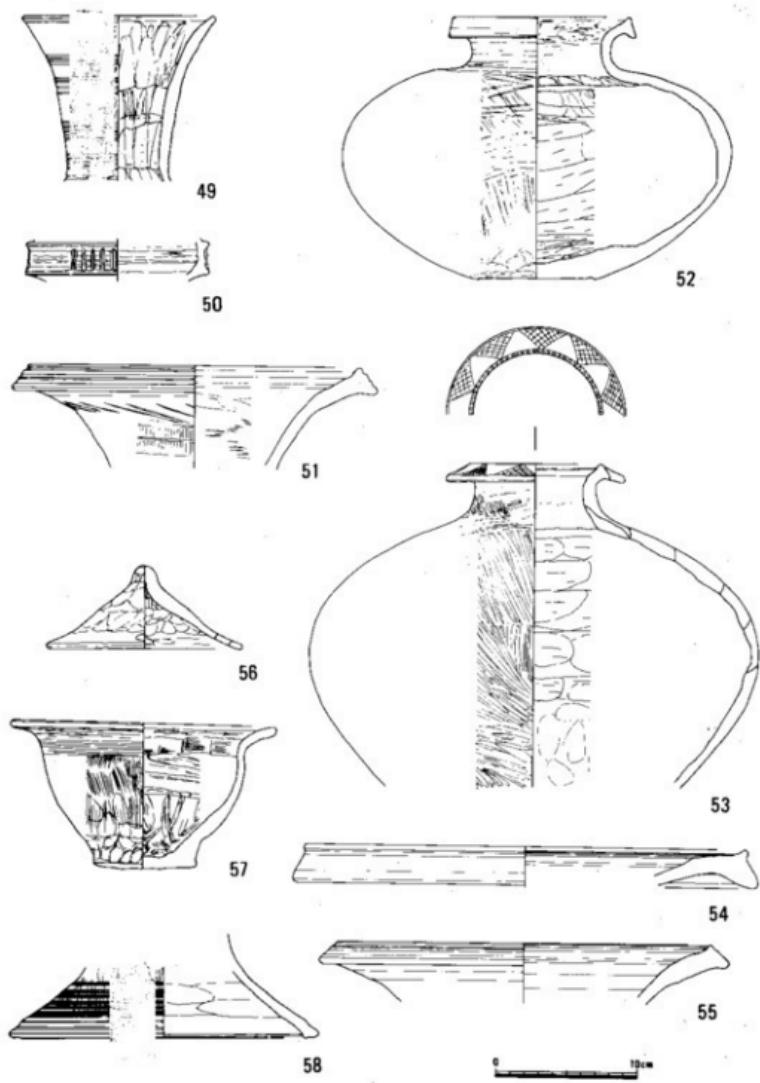
第21図 D12区建物-1平・断面図 (1/80)

一部が調査区域外へのびている。平面形は不整円形を呈し、南北3.32m、東西2.6m以上、深さ1.4mを測る。底部は隅丸方形を呈していて、周囲に土留めをしたと思われる痕跡がみられる。底部の大きさは南北1.8m、東西2.04mである。底部から50cmくらいは旧状をとどめていると推定されるが、これより上方は崩れている。埋土の状況をみるとレンズ状の堆積がみられることから、一度に埋めたものではなく、徐々に埋没したものと推測される。

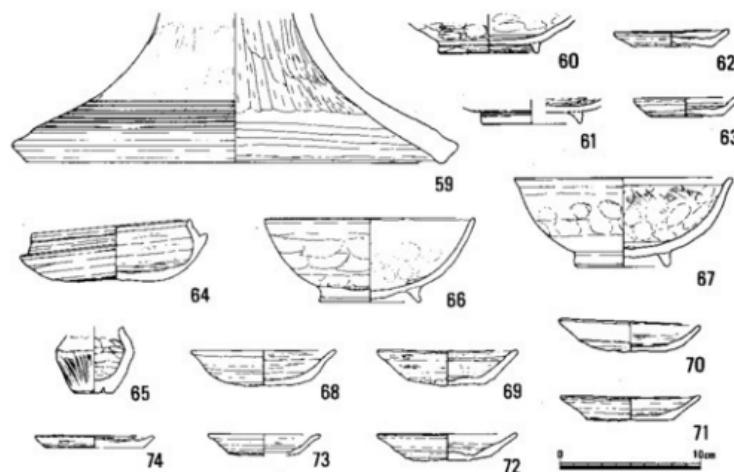
埋土中からは土器がまとまって出土している。土器には壺37~40、甕41~44、高杯47・48がある。時期は百・後・I（弥生時代後期前葉）に比定される。

建物-1（第21図、図版11-2）

D12区の南北につづく調査区域の北端部付近に位置する。南北方向に長く、桁行2間、梁間1間の建物である。西側柱列の中央柱穴が24cm外側へずれている。建物の主軸方向はN 8°Wである。柱間の距離はP1～P2が2.22m、P2～P3が2.20m、P3～P6が2.46m、P1～P4が2.46m、P4～P5が1.94m、P5～P6が2.40mである。したがって、南北に長い3.34×2.46mの建物である。柱穴は直径30~40cm、深さ30~35cmである。



第22図 D12区土器溝り出土遺物



第23図 D12区土器溜り・包含層・表探遺物

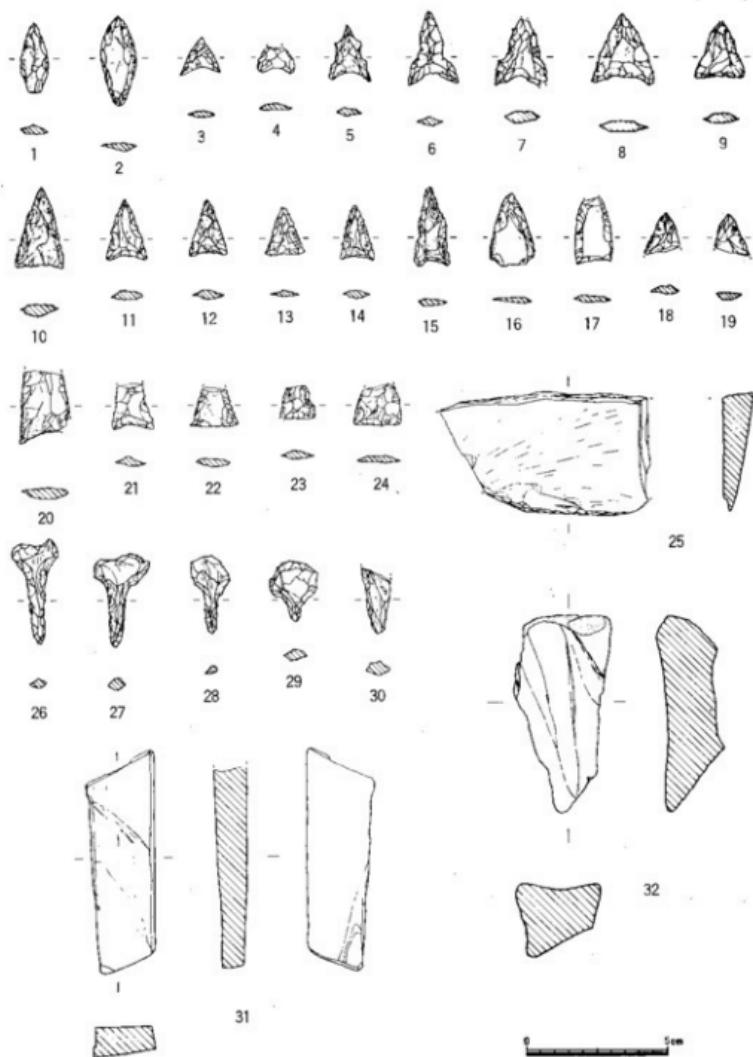
柱穴中から良好な出土遺物はないが、周辺の出土遺物等から中世に比定される。

土器溜り（第22図、図版4-2）

D12区の南北につづく調査区域の北寄りに位置する。3号住居址の南に位置し、4号住居址および5号住居址によって一部切られている。8号住居址の上層にあたり、8号住居址が埋設した後のくぼみにできた土器溜りである。土器には頸の短かい壺52・53、細頸の壺49・50、器台54・55・58、鉢57、蓋56がある。時期は百・後・II（弥生時代後期中葉）に比定される。

その他の遺物（第23・24図）

遺構に伴わない遺物には弥生土器59・65、須恵器64、早島式土器、石器などがある。



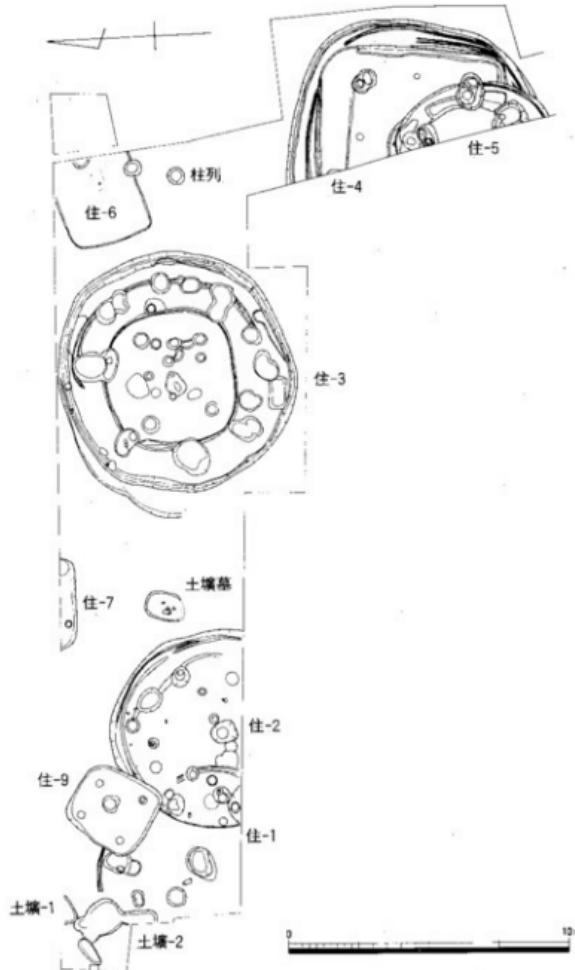
第24図 D12区住居址他出土遺物

第2節 D19区の調査

1. D19区の概要

県道の南50m付近に位置し、東西方向約30mの調査区域を中心に東端部で南へ短かくのびる。弥生時代から中世の遺構が検出されるが、特に弥生時代と古墳時代の竪穴住居址が集中している。完掘された3号住居址や8号住居址はあるが、ほとんどの住居址は未調査区域へひろがっていて、全容を知ることはできない。

西寄りに重複して検出された1号・2号住居址は弥生時代中期中葉に属し、多量の石器を出土した。石器には石鏃、叩き石、石包丁、石斧、石鎌、石錐、石槍がある。特に石錐が多い点に注目される。また、ガラス小玉、管玉なども出土している。住居址のほかに、土壤、土壤墓、柱列なども検出された。



第25図 D19区上段全体図 (1/200)

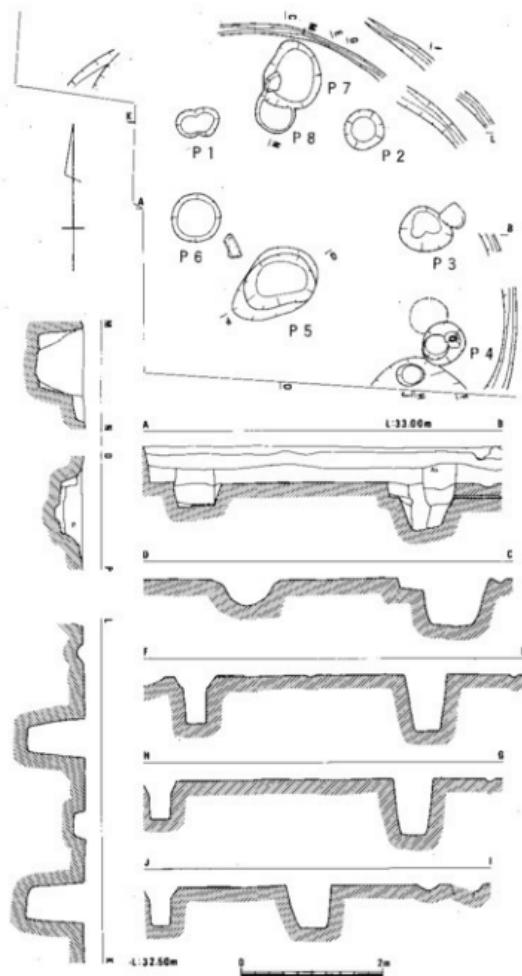
2. D19区の遺構・遺物

1号住居址（第26図、図版13-1、2）

D19区の西端部に位

置し、2号および8号住居址と重複している。西側の一部は調査区外におよんでいる。上部が削平されているため、全容はわからないが、壁体溝が円形に2本確認できること、主要な柱穴が2本ずつ確認されることがあることなどから建て替えが行われたことが確認される。

ほぼ連続的に確認される壁体溝から復元すると、直径約7.8mを測る。この外に40cmくらいのところに一部壁体溝が検出される。主要な柱穴と推定される柱穴が4本確認されることから、中央の土壤を考慮して推定すると7本柱と判断される。柱穴の直径は50~60cm、深さ60~70cmである。柱間は、P1~P2が2.4m、P2~P3が1.6m、P3~P4が1.7mである。中央部には



第26図 D19区 1号住居址平・断面図 (1/80)

不整椭円形の土壙がある。大きさは長径140cm、短径97cm、深さ64cmである。

床面から出土した遺物には分鏡形土製品(101)がある。時期は出土遺物から百・中・II(弥生時代中期中葉)に比定される。

2号住居址(第27図、図版13-1、2・、22-1、2)

D19区の西端部近くに位置し、2号および9号住居址と重複している。南側の一部は調査区域外におよんでいる。平面形は円形を呈している。壁体溝は部分的に残存しているものをみると3本確認されていることから2度の建て替えが行われたことがわかる。壁体溝の幅は10~15cmで、深さは10cmくらいの浅いもので、南寄りではとぎれている。最終段階の大きさは直径7mである。

柱穴は建て替えにともなうと思われる柱穴が多数あり、同時に存在した柱穴を推定するのは難しいが、5~7本柱と推測される。柱穴の大きさは直径25~65cm、深さ28~66cmである。中央の土壙は不整椭円形を呈し、長径98cm、短径68cm、深さ40cmである。中央の土壙の北東と東西に接するようにして各1本の柱穴がある。柱穴の大きさは直径25~65cm、深さ28~66cmである。

中央の土壙は不整椭円形を呈し、長径98cm、短径68cm、深さ40cmである。中央の土壙の北東と東西に接するようにして、各1本の柱穴がある。柱穴の大きさはP1が直径42cm、深さ60cm、P3が直径28cm、深さ60cmである。

床面から出土した遺物には、75~86の土器、1~6、45~52の石器、第47図2~5の玉類がある。78・79・82は縄文時代晩期の土器であるが、75~77・80・81・83・84は弥生時代中期の上器である。76は弥生時代中期初めに属する。85・86は土器片転用の紡錘車未製品である。石器には石鎌、石斧、石槍、石鎌、石錐がある。玉類にはガラス小玉、管玉がある。

時期は出土遺物から百・中・II(弥生時代中期中葉)に比定される。

3号住居址(第28~30図、図版14-1、2・15-1)

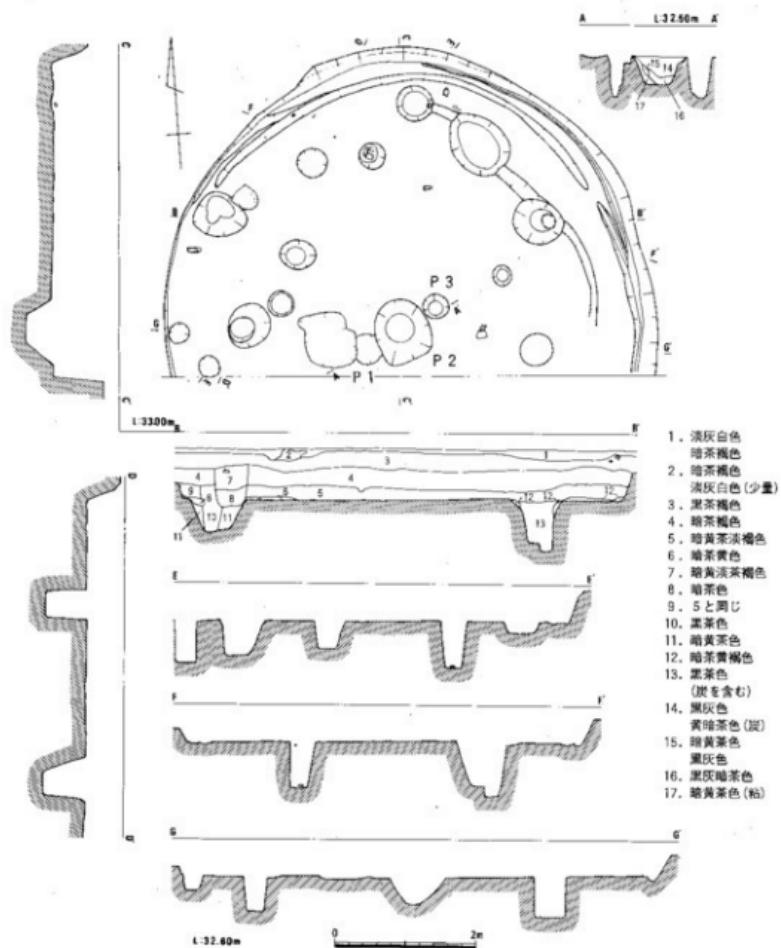
D19区の東寄りに位置している。完掘しているので全容を知ることができる。平面形は円形を呈し、壁体溝が3本認められることから2回建て替えが行われたことが判る。同心円状に壁体溝があることから、順次拡大したものと考えられる。

当初のものは直径4.98mで、4本柱と推定される。柱穴はP13~P16と考えられ、北側の柱間が少し広い。柱間はP13~P14が3m、P14~P15が2.06m、P15~P16が2.58m、P13~P16が2.26mである。柱穴の大きさは直径46~60cm、深さ58~60cmである。

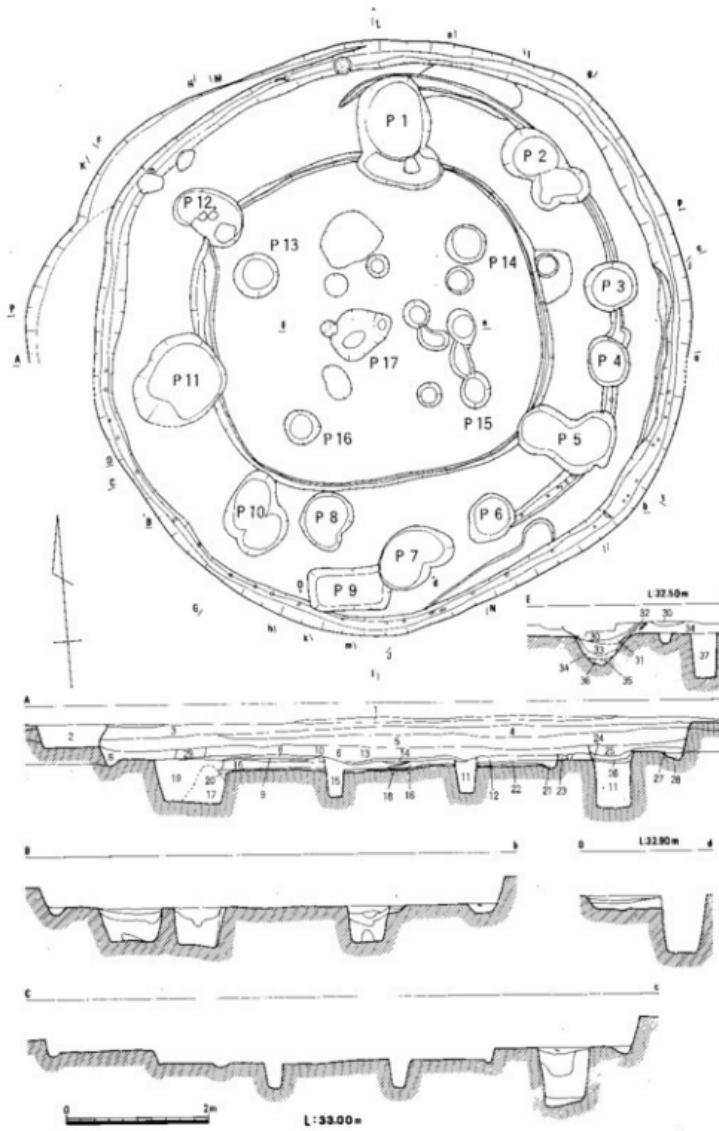
2回目のものは西半分の壁体溝が残っていないので、明瞭ではないが直径約6.8mと推定される。柱穴は6本柱と考えられ、P1、P18、P5、P8、P11、P12が推定される。最終段階のものと重複している柱穴もある。柱間はP1~P18が2.4m、P18~P5が2.22m、P5

～P 8 が3.26m、P 8～P 11 が2.6m、P 11～P 12 が2.2m、P 1～P 12 が2.94mである。壁体溝の一部に杭穴と推定されるものが検出された。

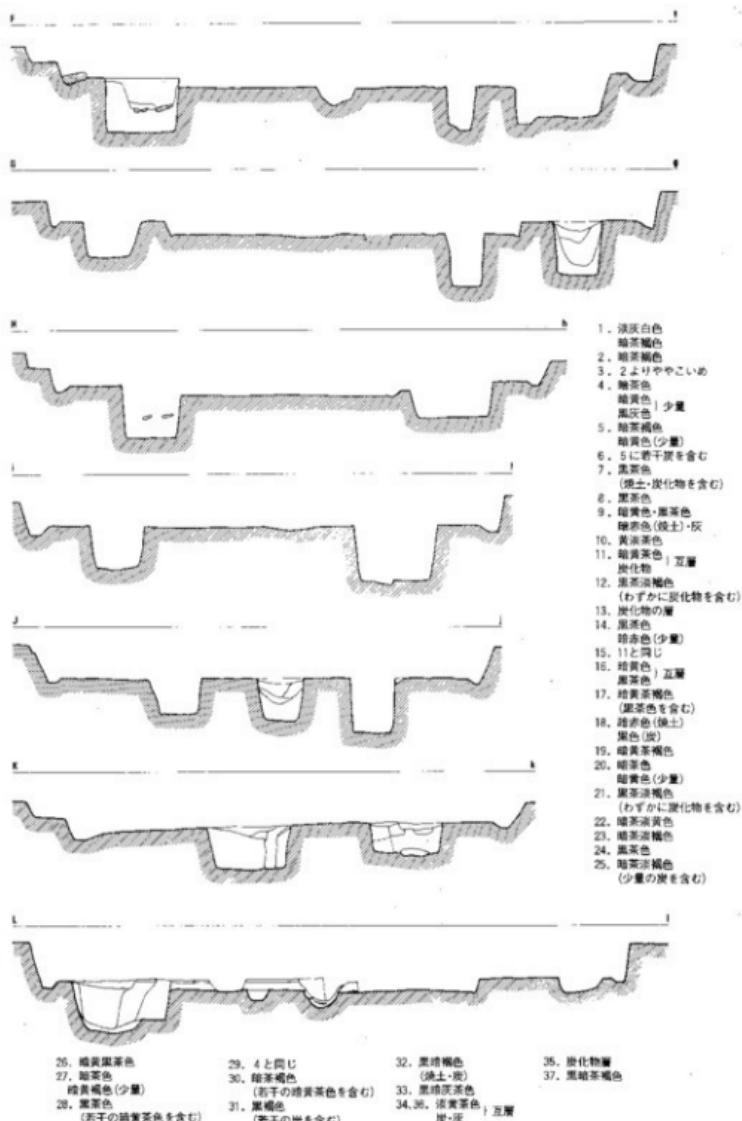
最終段階のものは直径8.5mで、やや大型の竪穴住居址である。柱穴は8本と考えられ、P 1、



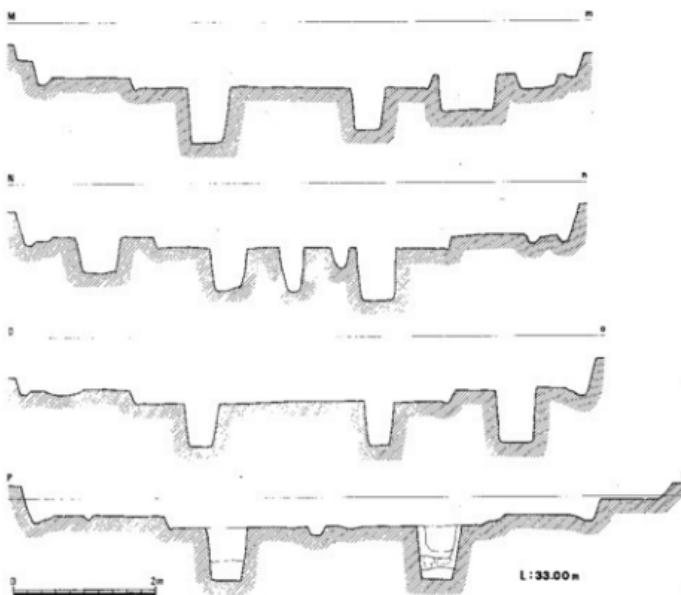
第27図 D19区 2号住居址平・断面図 (1/80)



第28図 D19区 3号住居址平・断面図(1) (1/80)



第29図 D19区 3号住居址断面図(2) (1/80)



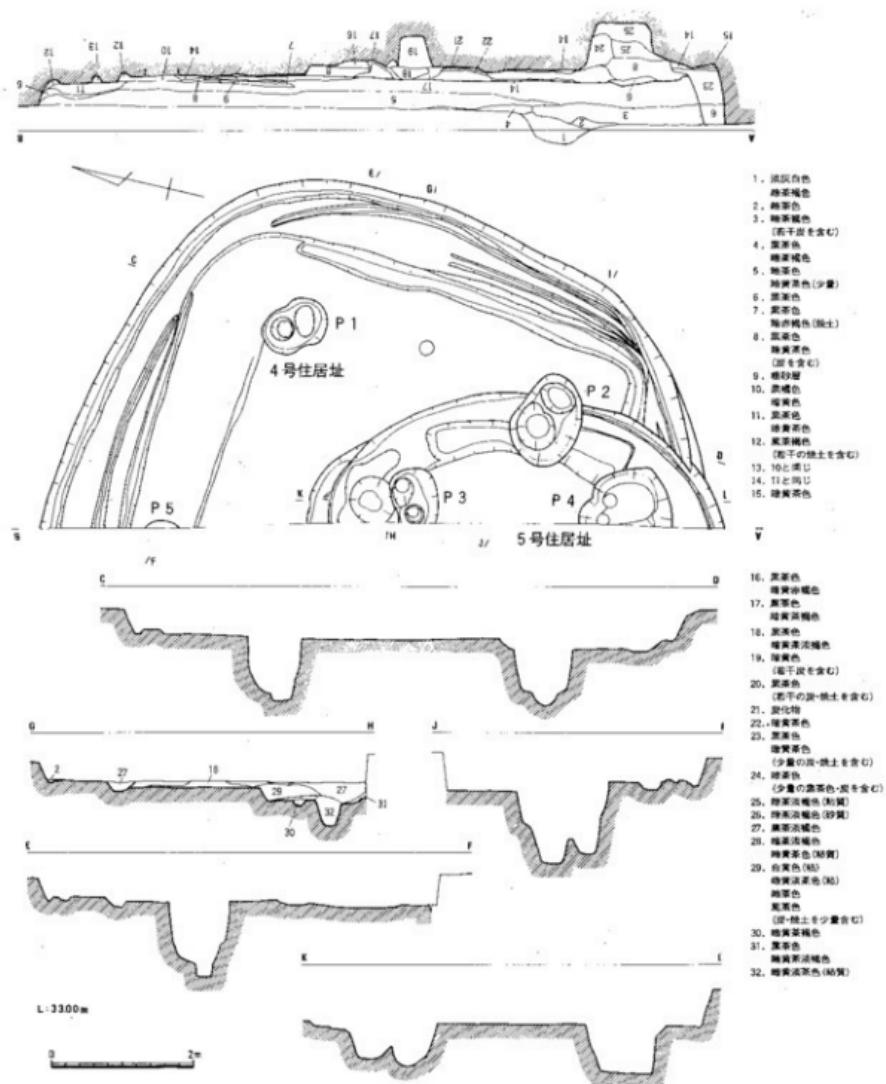
第30図 D19区 3号住居址断面図(3) (1/80)

P2、P3、P5、P7、P10、P11、P12が推定される。それぞれの柱穴には掘り直した痕跡があり、さらに建て替えが行われた可能性もある。柱間はP1～P2が2.1m、P2～P3が2.2m、P3～P5が2.2m、P5～P7が2.8m、P7～P10が2.4m、P10～P11が2.04m、P11～P12が2.44m、P1～P12が2.9mである。P4とP6の柱穴も最終段階のものに伴っていると推定されるが組み合せは明瞭でない。柱穴の規模は大きく、P11は長径1.6mを測るものもある。深さは60～80cmである。壁体溝の南側半分に杭穴と推定されるものが多数検出された。

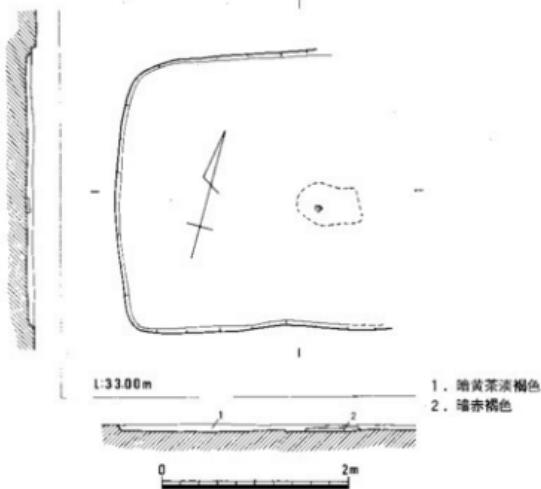
中央部の土壤はP17があてられる。長径94cm、短径62cmの不整椭円形を呈し、深さは44cmである。埋土はレンズ状になっている。最終段階のものの床面では南端部に長方形の土壤が検出された。東西112cm、南北62cm、深さ56cmのものである。

床面および埋土中からは87～94、97～106の弥生土器、95・96の土玉、第72図6～22、24～34のガラス小玉、23の管玉を出土した。

時期は出土遺物から百・後・II（弥生時代後期中葉）に比定される。



第31図 D19区 4・5号住居址平・断面図 (1/80)



第32図 D19区6号住居址平・断面図 (1/60)

4号住居址 (第31図、図版16-1、2・17-1)

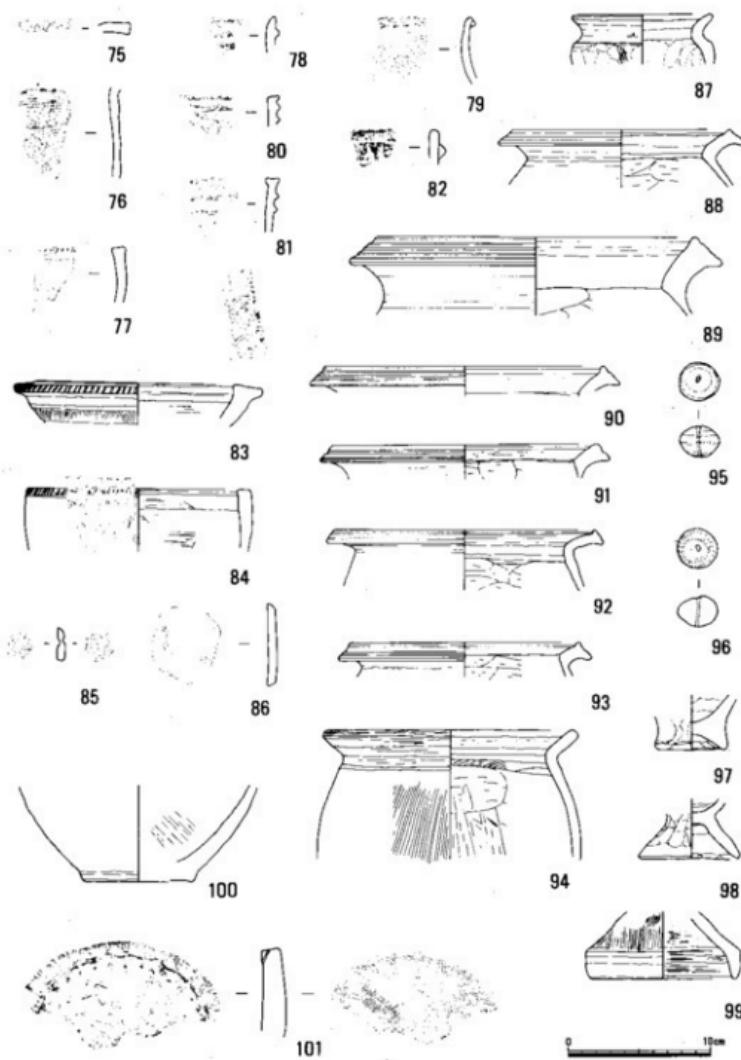
D19区の東端部で南へのびるところに位置している。西側約半分は調査区域外へのびている。5号住居址と重複している。平面形は隅丸方形を呈し、壁体溝が3本確認されることから、2回の建て替えが行なわれたことが判る。建て替えごとに拡大したものと考えられる。

当初のものは南北6.7mで、東西は未調査部分があつて明らかでない。2回目のものは外側へ40cm広がっている。最終段階のものは少し丸みをもつている。南北約8.6mで、やや大型の竪穴住居址である。

柱穴は2か所検出されているだけであるが、4本柱と推定される。2か所で検出された柱穴には掘り直しがあり、明らかに2本を確認することができる。したがって、建て替えに際してもほとんど同じ位置へ柱を建てたことがわかる。P1～P2の距離は約3.8mである。柱穴の深さは70～100cmにもなる。P1で柱痕跡と推定されるところがあり、これによると柱の直径は約24cmである。

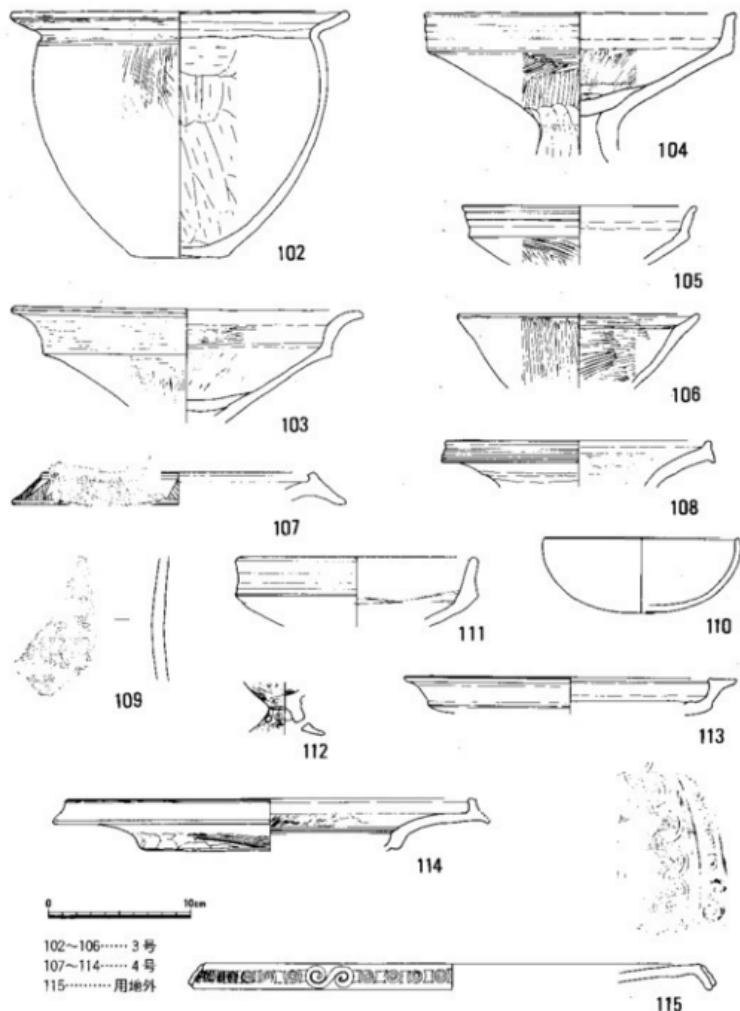
埋土中の遺物は5号住居址と重複しているため混っているが、110・112が伴うものと判断される。

時期は出土遺物から百・古・I（古墳時代前葉）に属する。

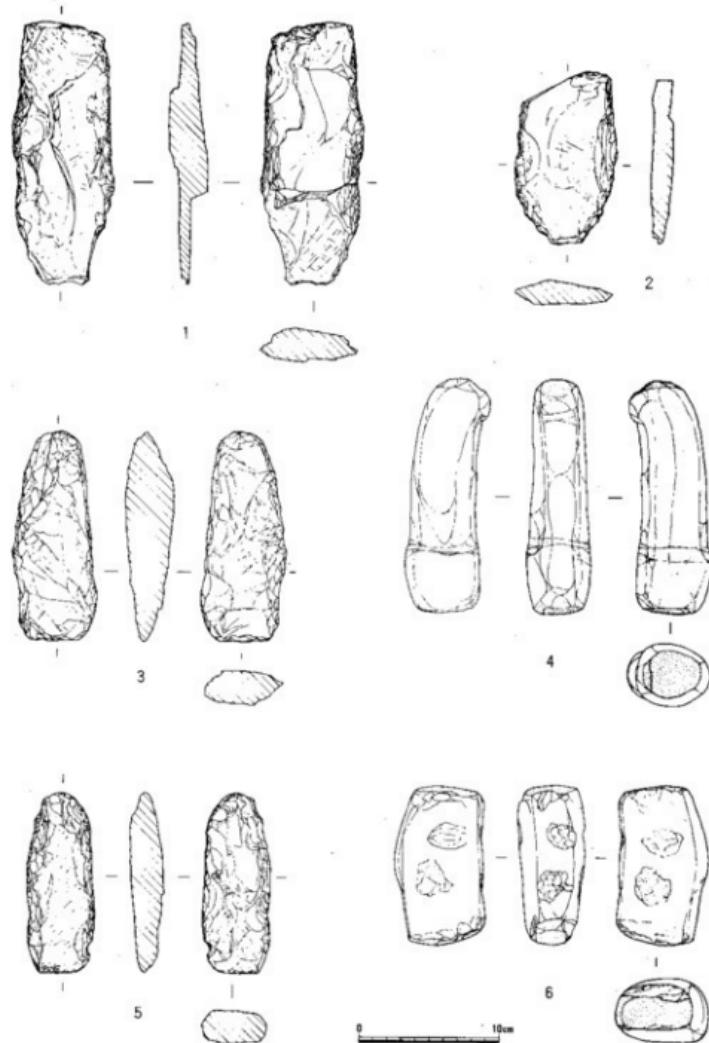


75~86……2号 101……1号 87~100……3号

第33図 D19区 1・2・3号住居址出土遺物

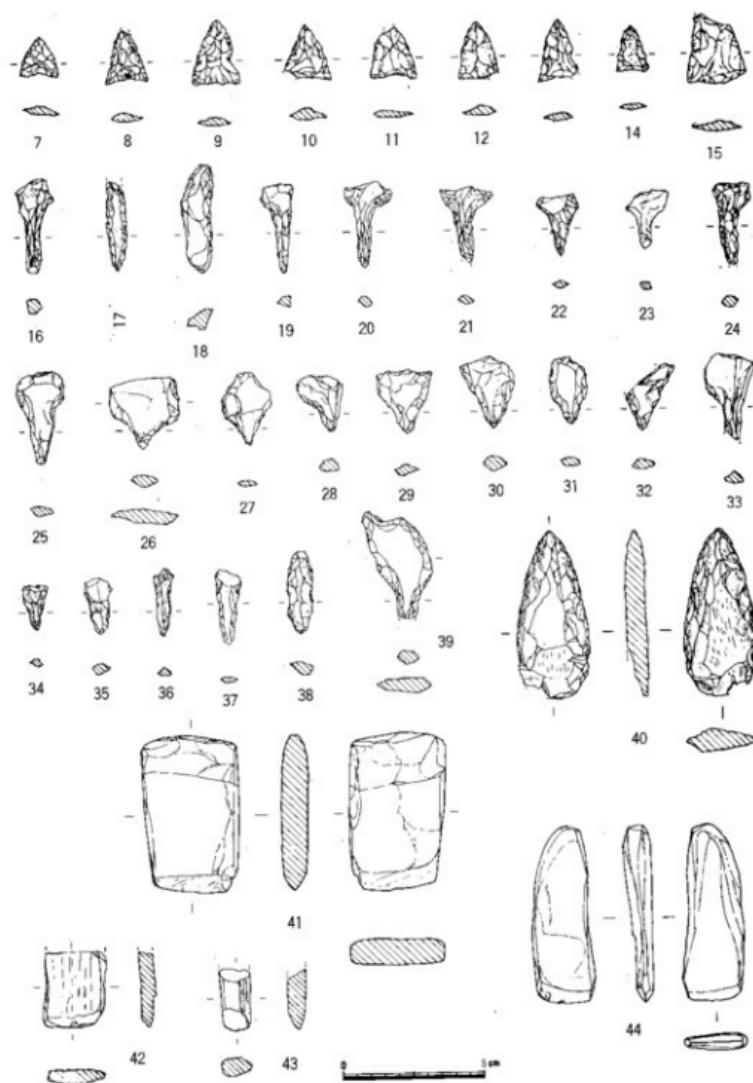


第34図 D19区 3・4号住居址他出土遺物

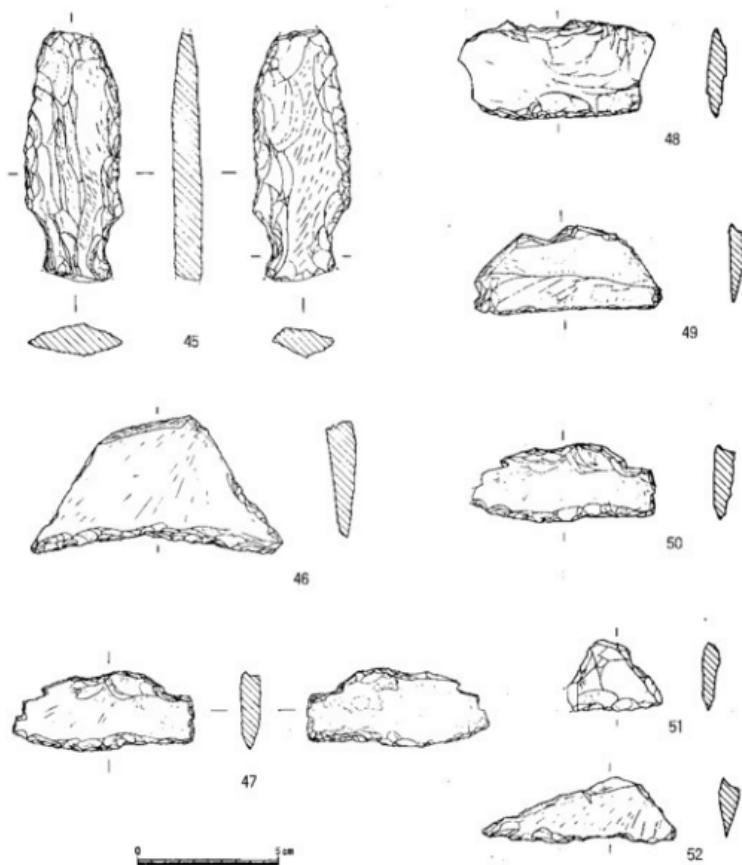


第35図 D19区 2号住居址出土遺物

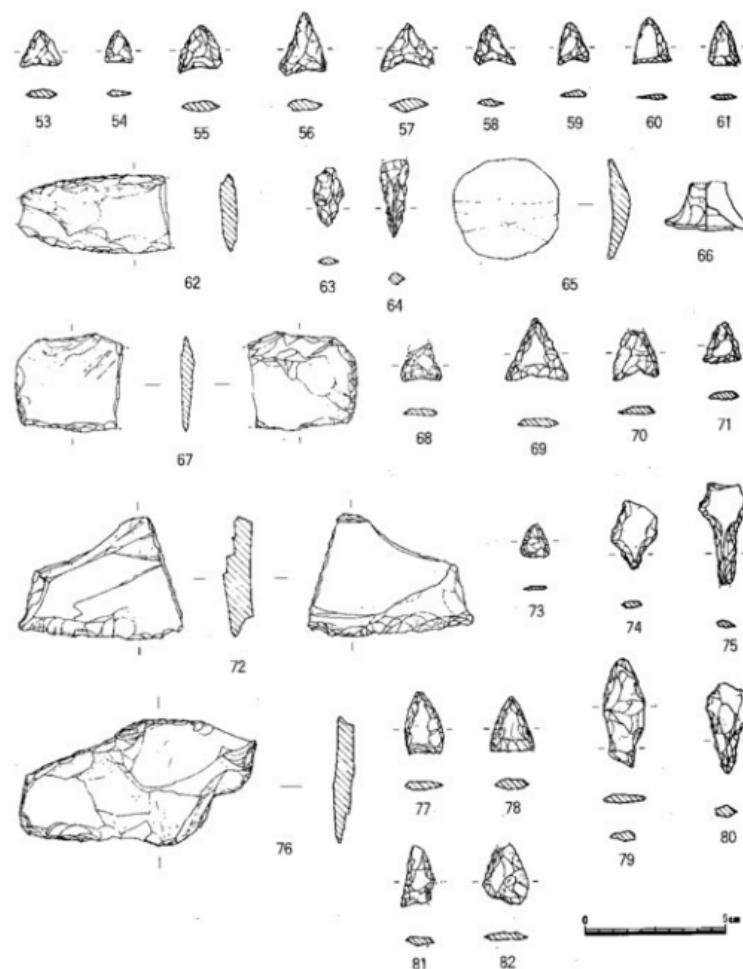
原 遺 跡



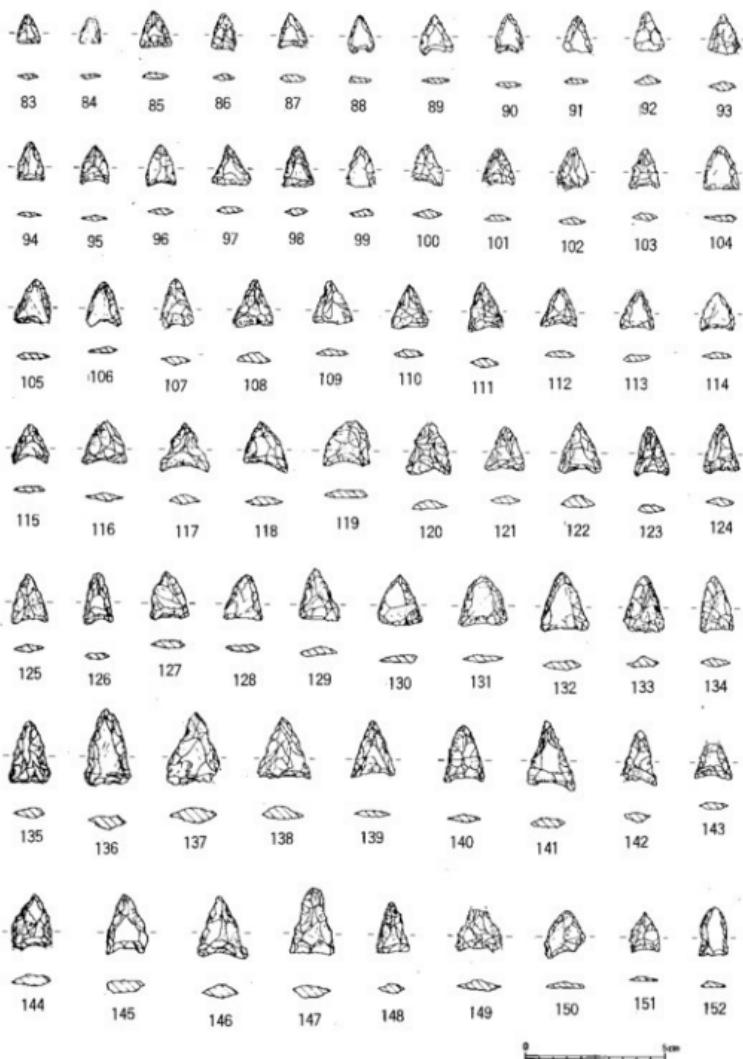
第36図 D19区 1・2号住居址出土遺物



第37図 D19区 2号住居址出土遺物



第38図 D19区3～9号住居址出土遺物



第39図 D19区住居址出土遺物

5号住居址（第31図、図版17-1）

D19区の東端部で、南へのびるところに位置している。4号住居址と重複しており、上部はほとんど削られている。大部分は西側の未調査地域となり、約3分の1を調査した。平面形は円形を呈し、柱穴に重複するものがあり、建て替えが行われたことがわかる。

当初のものは壁体溝が明瞭でないためわからないが、最終段階のものは直径約7mと推定される。柱穴は2か所検出されているが、それぞれ2本以上の柱痕跡がみられる。P3とP4の距離は約3mである。2本の柱穴の配置からすると5本柱になるものと考えられる。

埋土中の遺物は107・108・114が伴うものと判断される。時期は出土遺物から百・後・II～III（弥生時代後期中葉～後葉）に比定される。

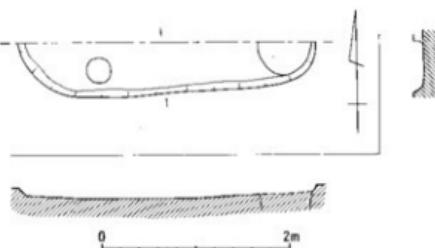
6号住居址（第32図、図版23-1、2）

D19区の東端部に位置し、東側の一部は調査区域外へのびている。平面形は方形を呈している。東西方向に長くなるものと推定される。西側の壁はほぼ南北方向であるが、わずかに西へふれている。住居址の大きさは南北3.92m、東西4m以上である。検出面から床面までの深さは浅く、10cmくらいである。炉跡は中央部の少し東寄りと推定されるところで検出された。柱穴は検出することができなかった。比較的規模の小さな竪穴住居址である。埋土中からは第47図35のガラス小玉が出土している。

時期は出土遺物から百・古・I（古墳時代前葉）に比定される。

7号住居址（第40図、図版25-1）

D19区の東西方向にのびる調査区域のほぼ中央部に位置している。わずかに南側の一部が調査されただけで、大部分は調査区域外である。平面形は隅丸方形を呈している。南側の壁はほぼ東西方向を示している。検出面から床面までの深さはわずかに10cmくらいと浅い。大きさは東西4.2mで、南北はわからぬ。床面に2本の柱穴がみられるが、この住居址に伴うと判断される柱穴は調査区域にはない。埋土中からは良好な出土遺物はないが、形態等から古墳時代前期に属するものと推定される。

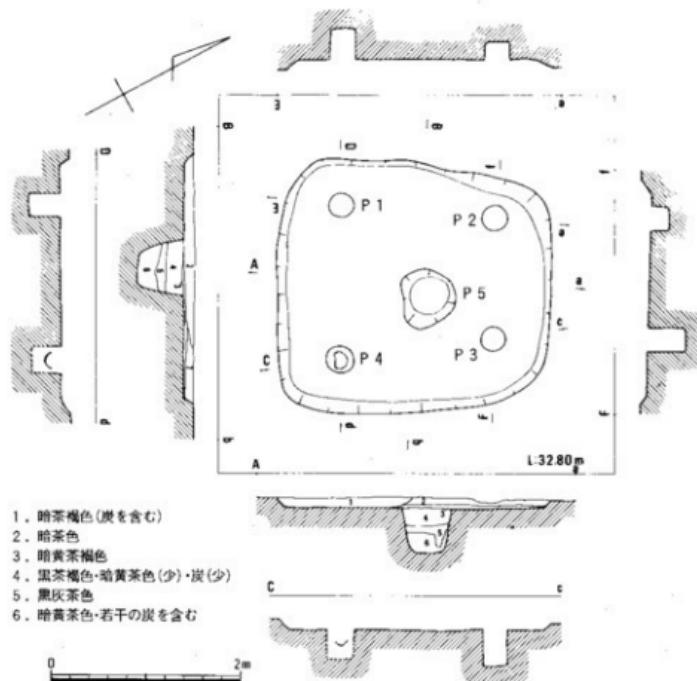


第40図 D19区7号住居址平・断面図（1/60）

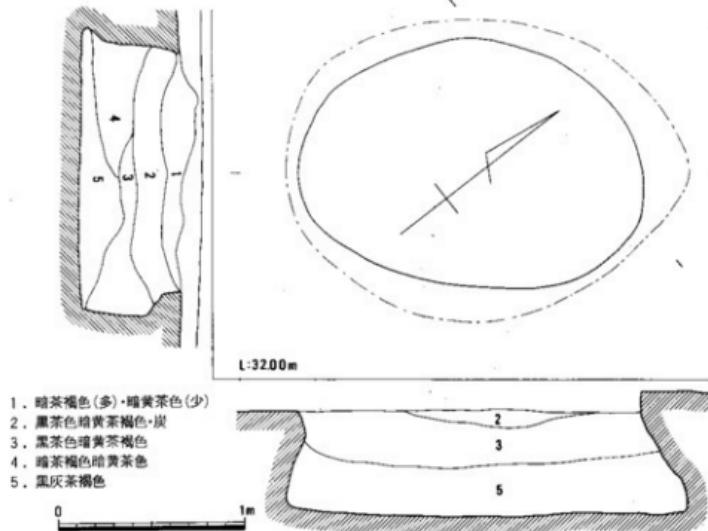
8号住居址（第41図、図版19-2・20-1）

D19区の西端部近くに位置し、1号住居址および2号住居址と重複していて、明らかに2基の住居址を切って造られている。調査区域内に全体が入っていて、全容を知ることができる。平面形は隅丸方形であり、北側の壁が少し短かく、台形を呈している。南壁の方向はN62°Wを示している。大きさは南北2.95m、東西は南側で2.7m、北側で2.0mを測る。

柱は4本柱で、台形を呈するように配置されている。柱間はP1～P2が1.65m、P2～P3が1.25m、P3～P4が1.65m、P1～P4が1.65mである。柱穴の大きさは直徑25～30cm、深さ20～40cmである。中央部には土壇があり、不整円形を呈している。大きさは長径65cm、短径55cm、深さ47cmである。埋土中から良好な遺物は出土していないが、形態等から古墳時代前期に属するものと推定される。



第41図 D19区 8号住居址平・断面図 (1/60)

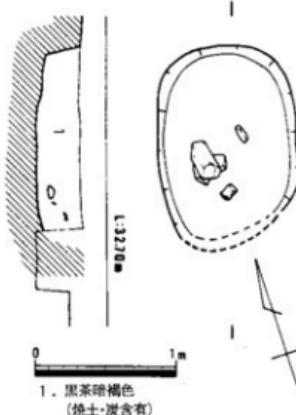


第42図 D19区袋状土壌平・断面図 (1/30)

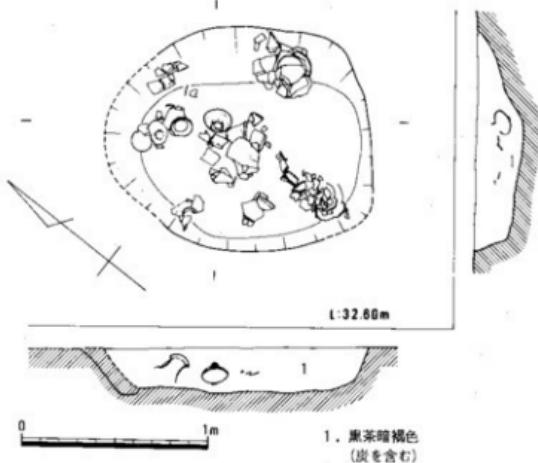
袋状土壌 (第42図、図版18-1、2)

D19区の東端部に位置している。平面形は梢円形を呈し、上面よりも底部が大きくなる土壌で、いわゆる袋状土壌と呼ばれるものである。長軸方向はN38°Eを示している。検出面での大きさは長径1.84m、短径1.30mである。床面での大きさは長径2.08m、短径1.60mである。深さは53cmである。床面はほぼ平坦であり、柱穴などは認められない。

埋土中に良好な遺物がないため、時期を明確にすることはできないが、周辺の遺構との関係から弥生時代中期～後期に属するものと推定される。



第43図 D19区土壤墓平・断面図 (1/40)



第44図 D19区土壤-2平・断面図 (1/30)

土壤墓 (第43図、図版25-2)

D19区の中央部付近に位置し、2号住居址の東側にある。南側の一部は配水溝で削っているが、ほぼ全容を知ることができる。平面形は楕円形を呈しており、長軸の方向を N16°E を示し、ほぼ南北方向である。大きさは長径約1.5m、短径0.98mである。深さは32cmあり、埋土中には数個の石が入っている。床面の中央部が少し深くなっているが、ほぼ平坦である。

埋土中に良好な遺物がなく、時期は明らかでない。

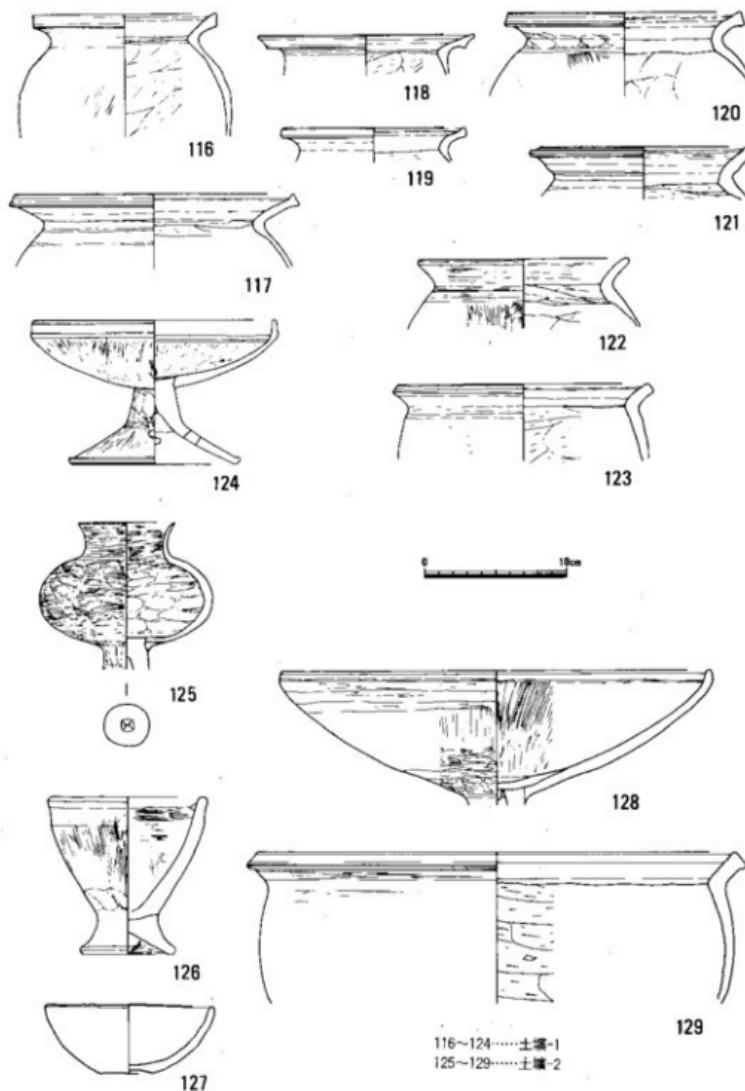
土壤-1 (第45図、図版20-2)

D19区の西端部に位置し、北側は調査区域外へのびている。平面形は楕円形になるものと推定される。大きさはわからないが、北壁部分では2mである。埋土中には多量の土器片を伴っている。出土遺物には、甕116~123、高杯124がある。甕の口縁部はいずれもくの字状に外反し、端部は少し肥厚するものと丸くなるものがある。内面は頸部直下までヘラケヅリが施されている。高杯は短脚である。

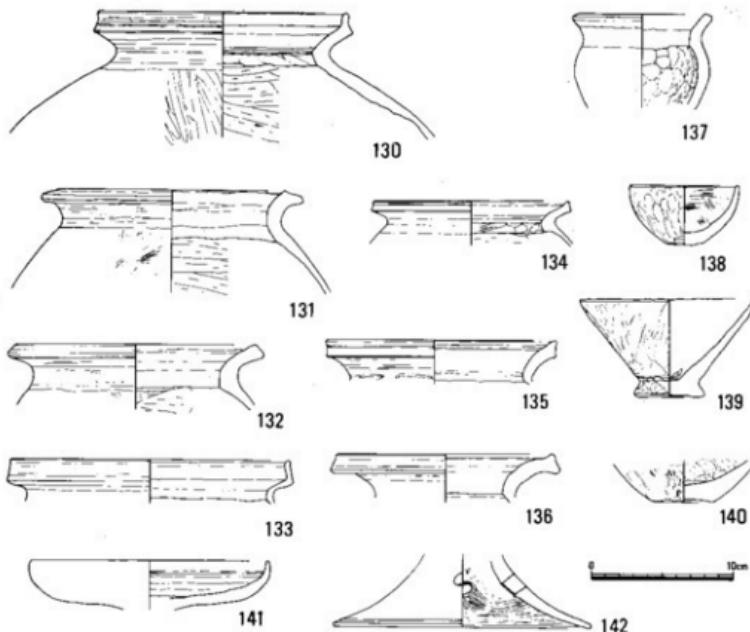
時期は出土遺物から百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に属する。

土壤-2 (第44~46図、図版20-2)

D19区の西端部に位置し、1号住居址を切ってつくられている。土壤-1に接している。平面形は不整円形を呈している。大きさは長径1.42m、短径1.20m、深さ24cmである。長軸方



第45図 D19区土壤-1・2出土遺物(1)



第46図 D19区土壤-1・2出土遺物(2)

向は南北より少し東へふっている。

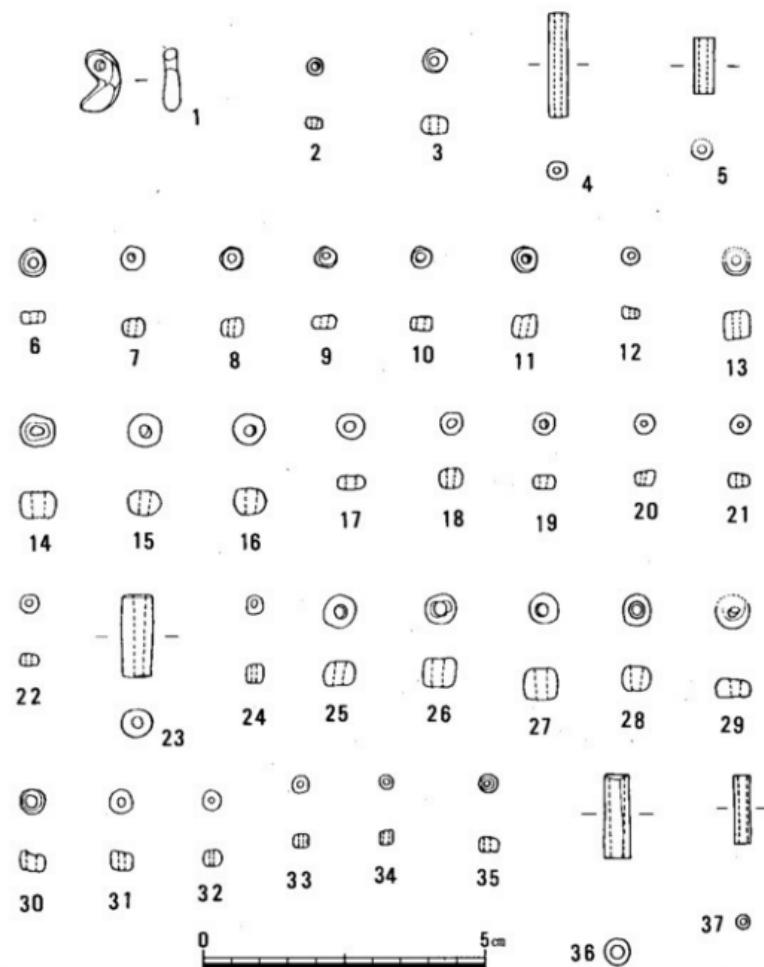
埋土中には多くの土器片がある。大型の破片もあり、復元可能なものを含んでいた。土器には台付直口壺125、甕130～137・140、鉢126・17・129・138・139、高杯128・141・142がある。

時期は出土遺物から百・後・Ⅲ～Ⅳ（弥生時代後期後葉～末）に属する。

その他の出土遺物

遺構に伴わない遺物もある。第34図115は飾られた高杯の口縁部で、弥生時代後期に属するものである。第47図1の勾玉は完形品である。時期は明確でない。

原 遺 跡



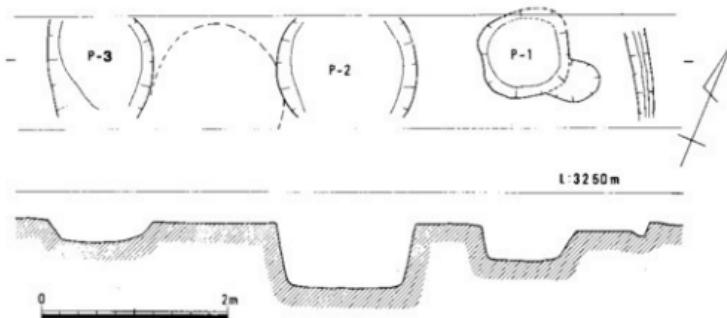
1 包含層
2 ~ 5 1号住
6 ~ 34 2号住
35 4号住
36 D13区
37 D22区 4号住

第47図 D19区住居址・包含層出土遺物

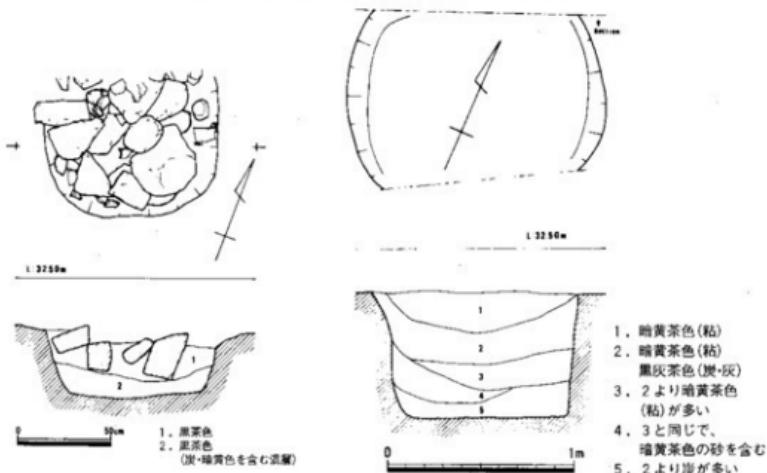
第3節 D21区の調査

竪穴住居址（第48図、図版39-1、40-2）

D21区は県道の南側に沿っている調査区で、竪穴住居址1軒と重複した土壤が検出された。幅が狭いため、全容がわからないが、竪穴住居址は円形を呈していると判断される。大きさは

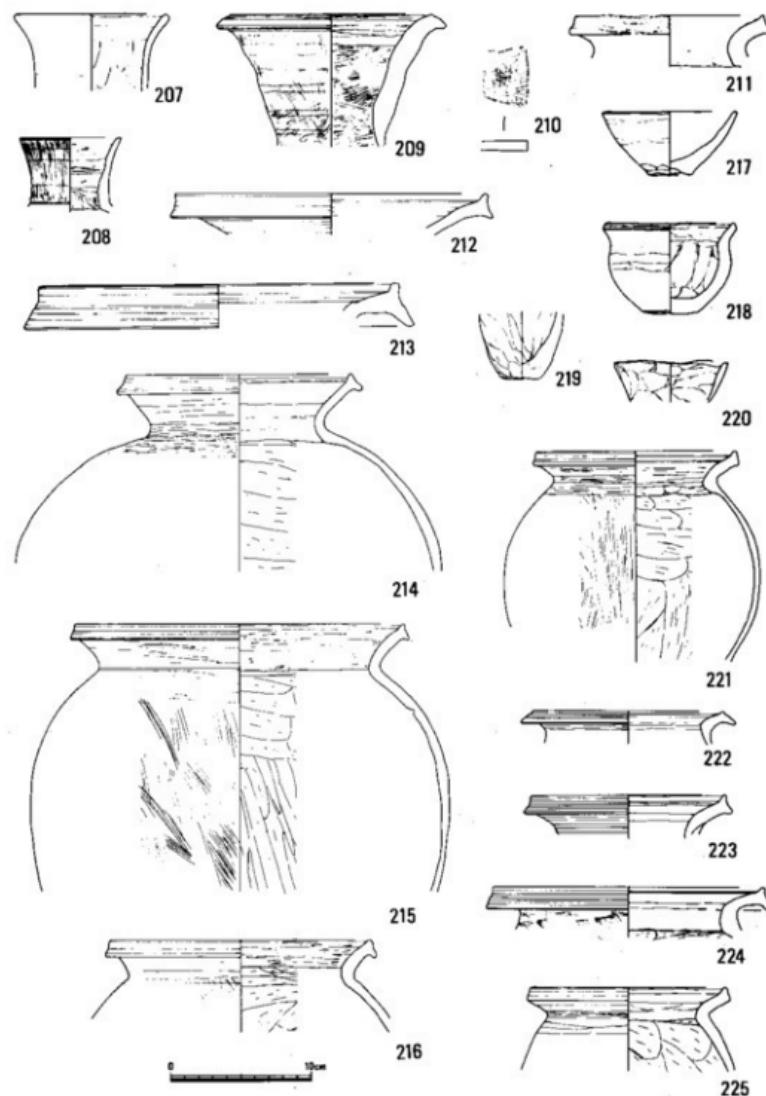


第48図 D21区 1号住居址平・断面図 (1/60)

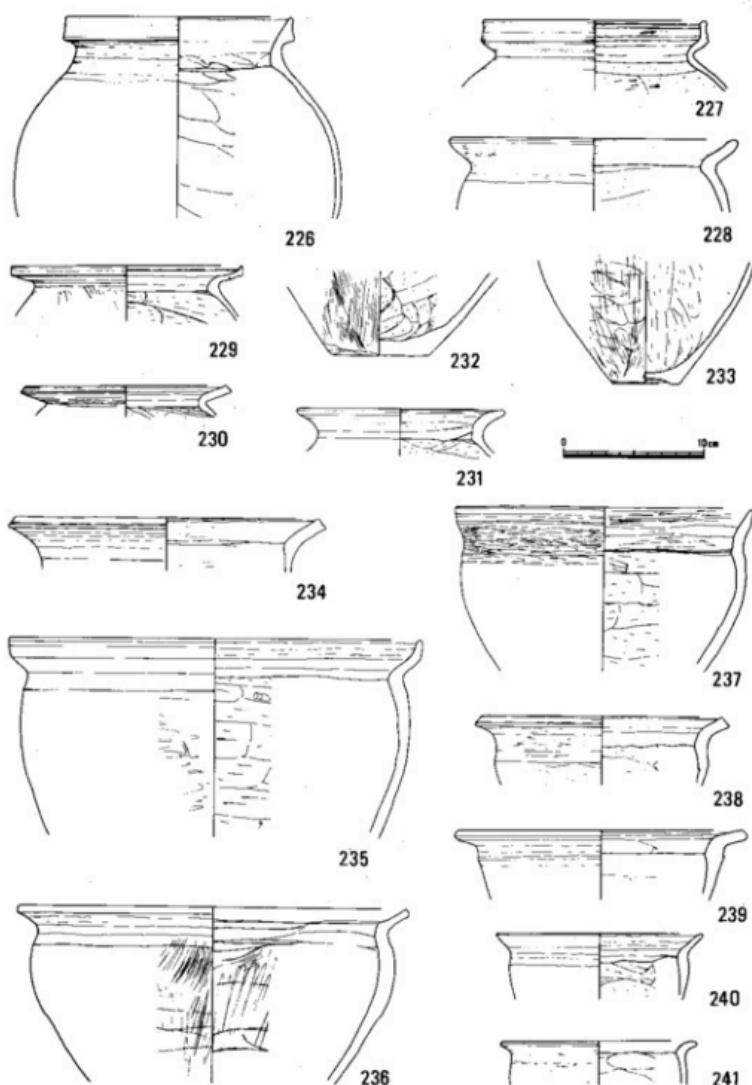


第49図 D21区 土壌-1 平・断面図
(1/30)

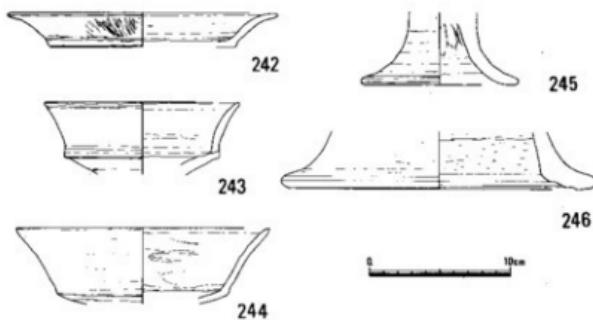
第50図 D21区 1号住居址内土壌-2
平・断面図 (1/30)



第51図 D21区住居址内土壤出土遺物(1)



第52図 D21区住居址内土壤出土遺物(2)



第53図 D21区住居址内土壙出土遺物(3)

直径約6.4mである。東側では幅20cmの壁体溝が確認される。検出面と床面とが近いため、前後関係を把握するのは難しいが、床面で3か所の土壙が確認された。土壙-1（P1）は石が詰ったもので、後の時代のものと推定される。住居址の中央部に位置する土壙-2（P2）は住居に伴うものか明確にしがたい。平面形は円形を呈している。土壙の大きさは直径1.5m、深さ0.68mである。底部は平坦になっており、直徑1.2mである。西端部の土壙-3（P3）は梢円形の浅い土壙である。これについても住居址に伴うものが明確にしがたい。大きさは東西1.06m、深さ0.22mである。

床面からの遺物が明確でないので、時期を決め難いが、土壙-2・3から出土した土器が多く、これが住居址に伴うとすれば時期を決めることができる。土壙中から出土した遺物には弥生土器があり、器種は壺・甕・高杯・鉢がある。出土した土器の時期は百・後・III～IV（弥生時代後期後葉～末）に属する。

土壙-1（第49図、図版39-2、40-2）

堅穴住居址内の東寄りで検出された土壙である。平面形は隅丸方形を呈している。大きさは92×92cm、深さ36cmである。埋土中には角謫、円謫、土器片が入っているが、土壙の時期を明確にすることはできない。

第4節 D22・D23区の調査

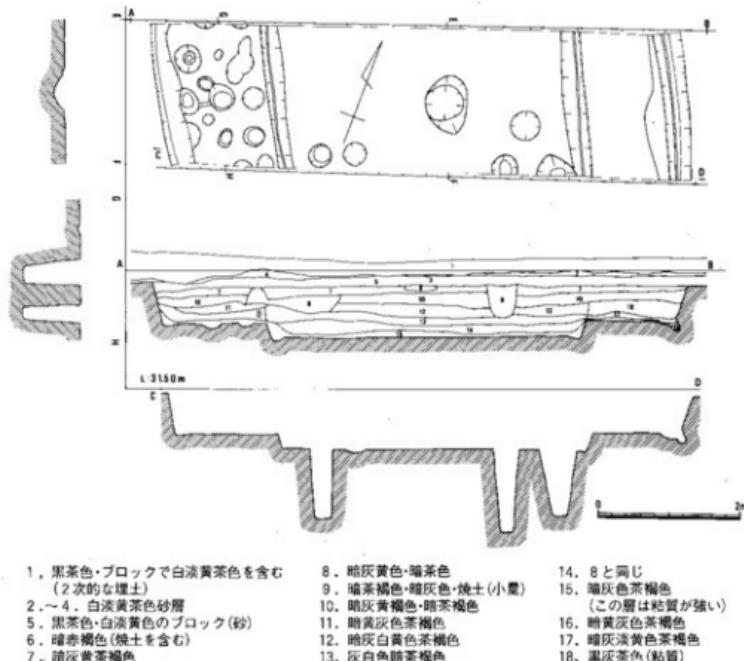
1. D22・D23区の概要

調査対象地域の南東部に位置し、県道から南へ100mのところである。県道に平行して、東西約200mがD22区、D22区の東端部から南へのびる約40mがD23区である。細長い調査区のため全容はわからないが、D22の西寄りの70mとD23区に堅穴住居址や土壙が密集している。D22区の東半分にも堅穴住居址や土壙はみられるが密集していない。

2. D22・D23区の遺構・遺物

1号住居址（第54図、図版42-2、43-1）

D22区の西端部に位置している。調査区の幅が2mしかないため、住居址の全容はわからな



第54図 D22区 1号住居址平・断面図 (1/80)

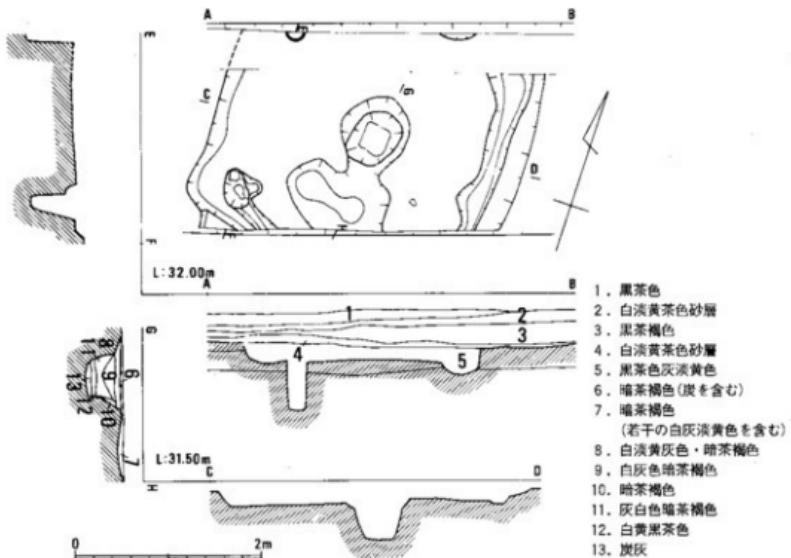
原 遺 跡

い。しかし、検出面から床面まで70cmあり、中央部に浅い土壤がみとめられることから竪穴住居址の中央部付近と推定される。壁体溝がほぼ直線状を呈することから方形の竪穴住居址で、中央部の床面は周辺の床面より20cm低くなっていることからベッド状遺構をもつものである。ベッド状遺構との間にも細い溝がある。柱穴は調査範囲の南寄りに2本ずつみられることから建て替えが行われたことがわかる。大きさは東西方向で7.5mである。

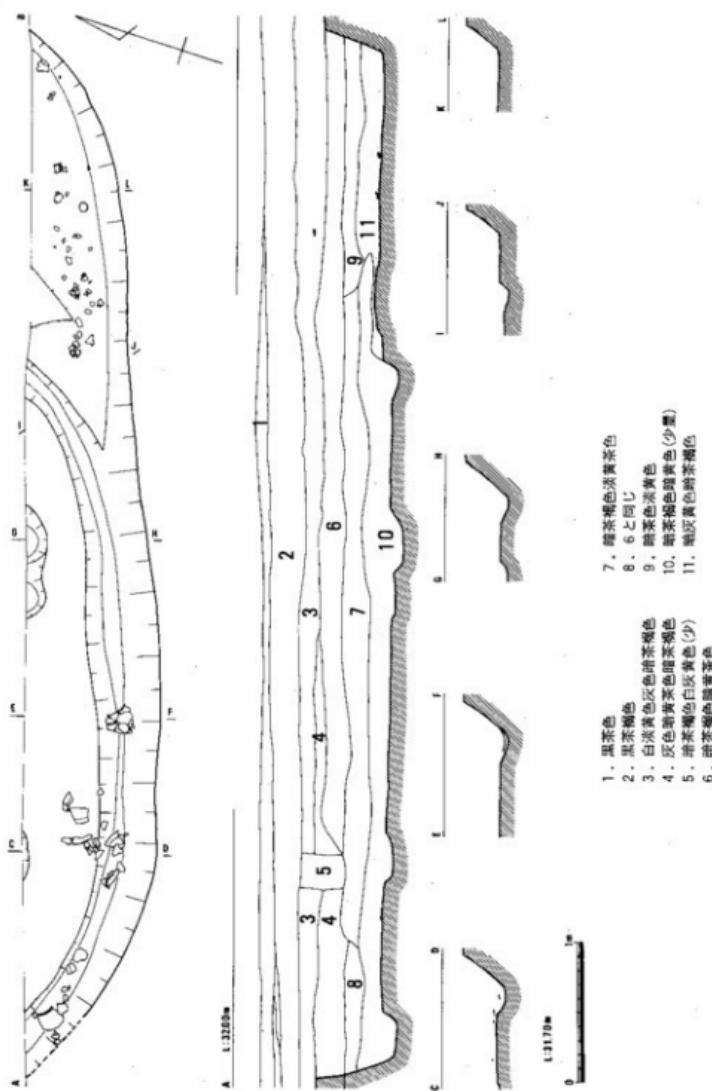
埋土中から良好な遺物が出土していないことから、時期を明確にすることはできないが、平面形などから古墳時代前期に属するものと推定される。

2号住居址（第55図、図版43-2）

1号住居址から約7m東へ寄ったところに位置している。調査の幅が狭いため、南側と北側の一部は調査されていない。平面形は方形を呈し、壁体構がある。中央部には70×90cm、深さ40cmの梢円形を呈する土壤がある。柱穴は調査区域の北端でわずかにみられるものを含めて、3本確認されていることから4本柱と判断される。住居址東壁はほぼ南北方向を示している。大きさは東西3.35mと小型である。埋土中からは第63図247の小型鉢が出土した。時期は出土



第55図 D22区 2号住居址平・断面図 (1/60)



第56図 D22区 3号住居址平・断面図 (1/40)

原 遺 跡

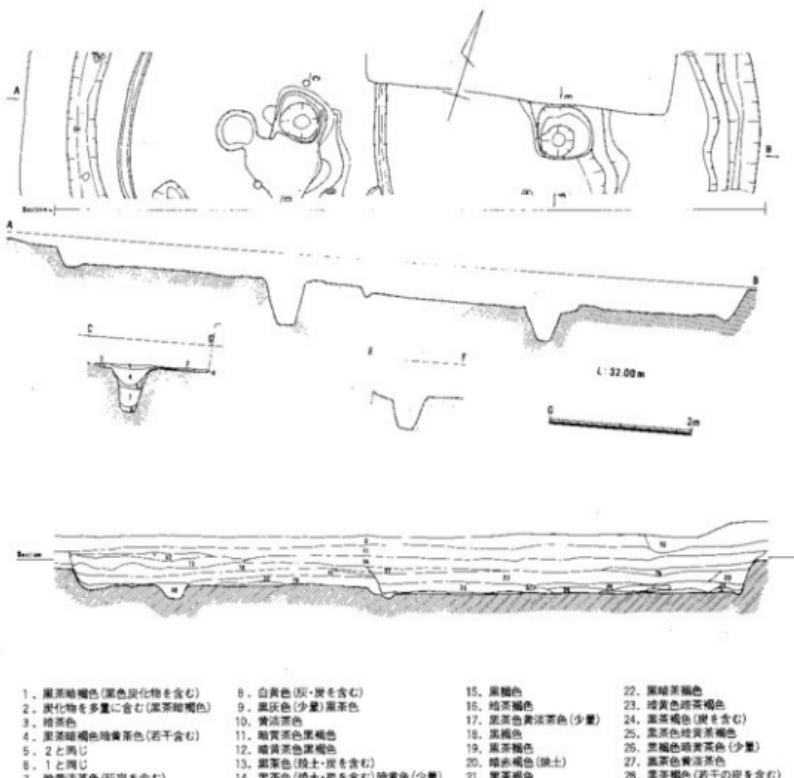
遺物から百・古・I (古墳時代前葉) に比定される。

3号住居址 (第56図、図版44-12、45-1)

D22区の西端から34m付近に位置する。南側の一部を調査したにすぎないが、壁体溝が1本あり、柱穴の一部と推定される穴が2か所に一部かかっている。床面付近からは248~255の土器が出土し、時期は百・後・Ⅲ (弥生時代後期後葉) に比定される。

4号住居址 (第57図、図版47-1、2・48-1、2)

D22区の西端から64mのところに位置している。平面形は円形を呈し、壁体溝が2本ある。



第57図 D22区 4号住居址平・断面図 (1/80)

復元すると直径9.84mになり、大型の堅穴住居址である。中心の東と西に直径80cmの不整円形の土壤があり、いずれも付近に炭化物があり、炉に伴う土壤である。深さは東側のものが50cm、西側のものが70cmである。両者の距離は約3mである。柱穴については一部を検出しているにすぎない。中央部にある細い溝は間仕切りと呼ばれるもの可能性が考えられる。

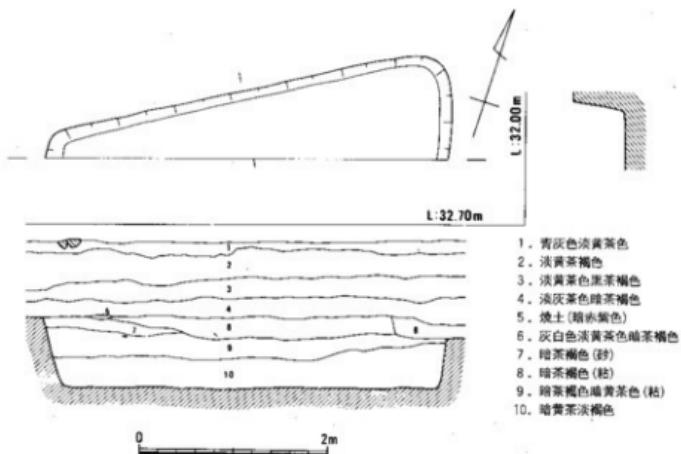
埋土中の出土遺物は256~259である。時期は百・後・II(弥生時代後期中葉)に属する。

5号住居址(第58図、図版50-2)

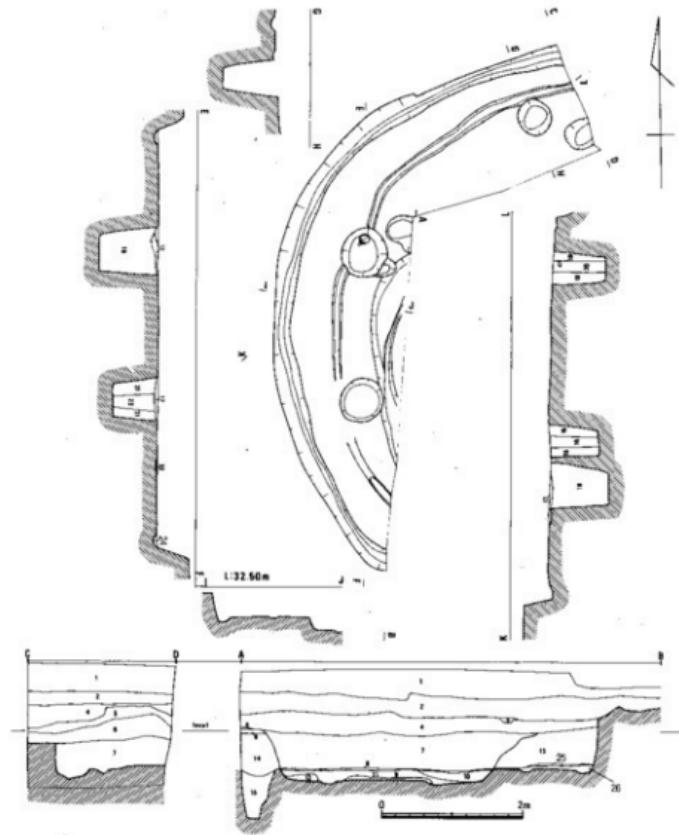
D22区の東端部に近いところに位置している。方形の堅穴住居址の北側の一部が調査されただけで、南側の大部分は未調査区域である。大きさは東西方向で4.4mである。検出面から床面までの深さは50cmと保存状態は良好である。良好な出土遺物はないが、平面形と付近の住居址との関係から古墳時代初めに属するものと推定される。

6号住居址(第59図、図版52-1、2・53-1)

D22区の東端部から南へ続くD23区にまたがっている。西側の一部が調査されただけで、東側の大部分は未調査であるため、全容を知ることはできない。平面形は円形で、復元すると直径約8.6mと大型の住居址である。壁体溝は2本検出されており、建て替えが行われたことがわかる。これに対応するように柱穴も2本ずつ接近している状況がみられる。柱穴は6~7本柱であったと推定される。埋土中からは260~272の土器が出土していることから百・後・I(弥生時代後期前葉)に比定される。

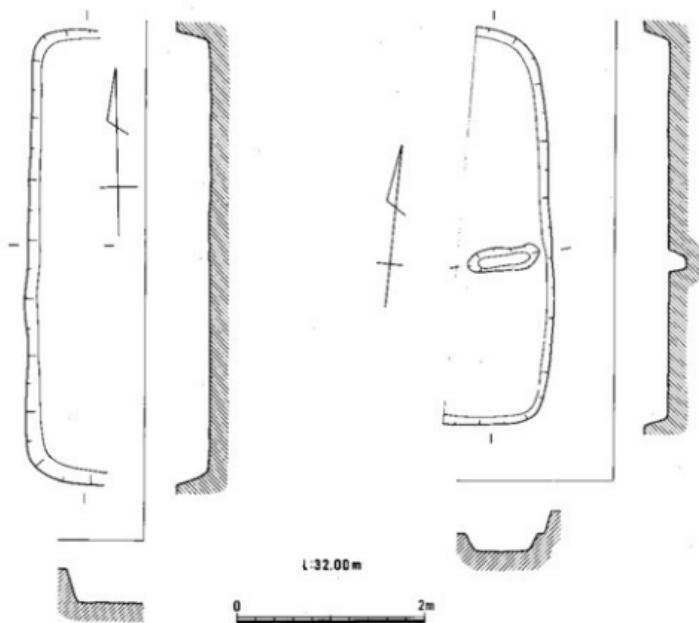


第58図 D22区5号住居址平・断面図(1/60)



- | | | |
|------------------|----------------|---------------|
| 1. 黒褐色暗茶色 | 9. 茶褐色暗灰白色(少) | 18. 黄茶褐色暗茶色 |
| 2. 黒茶暗褐色 | 10. 暗黃茶色 | 19. 暗灰茶褐色 |
| 3. 黒茶色 | 11. 10と同じ | 20. 暗灰色(粘) |
| 4. 暗茶黑褐色 | 12. 10と同じ | 21. 暗黄色暗茶褐色 |
| 5. 黒茶色暗灰色青淡茶色の互層 | 13. 暗茶褐色(砂混じり) | 22. 黑灰茶色 |
| 6. 黒茶褐色淡青暗灰色(少量) | 14. 黑茶色 | 23. 22と同じ |
| 7. 暗白色暗茶褐色(少) | 15. 黄色暗茶褐色 | 24. 黑茶色暗黄白色 |
| 後世の埋り込み(砂) | 16. 若干黒茶色を含む | 25. 烧土暗赤褐色黑褐色 |
| 8. 黄淡茶褐色 | 17. 黑茶褐色 | 26. 茶褐色 |

第59図 D22・23区 6号住居址平・断面図 (1/80)



第60図 D23区 7号(右)・8号(左)住居址平・断面図(1/60)

7号住居址(第60図、図版53-2)

D23区の中央付近に位置している。平面形は方形を呈し、東側の一部が調査されただけで、大部分は西側の未調査区域である。東壁はほぼ南北方向を示している。大きさは南北4.4mである。埋土中から良好な遺物は出土していないが、平面形と付近の住居址との関係から古墳時代初めに属するものと推定される。

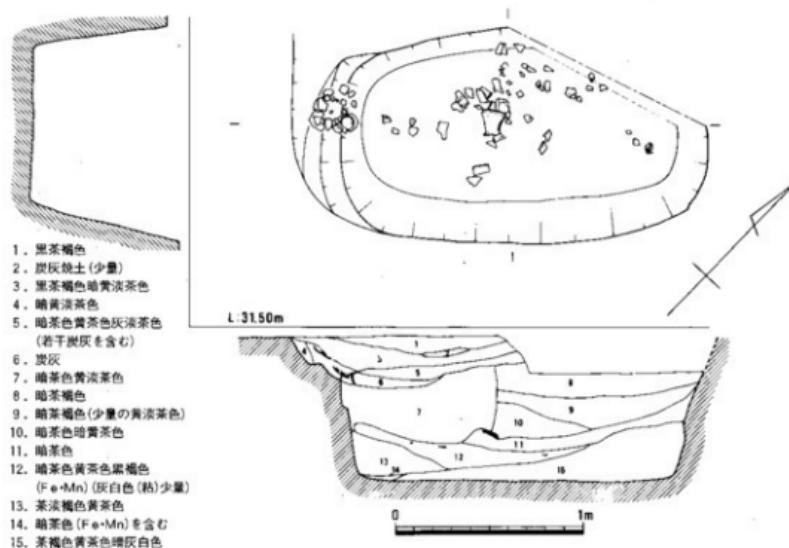
8号住居址(第60図、図版53-2)

7号住居址の南に位置している。平面形は方形を呈し、西側の一部を調査しただけである。西壁はほぼ南北方向である。大きさは南北4.8mである。埋土中から273・274が出土しているが、274は調査時の混入と考えられ、273は弥生時代後期のものであるが、平面形などから古墳時代初めのものと推定される。

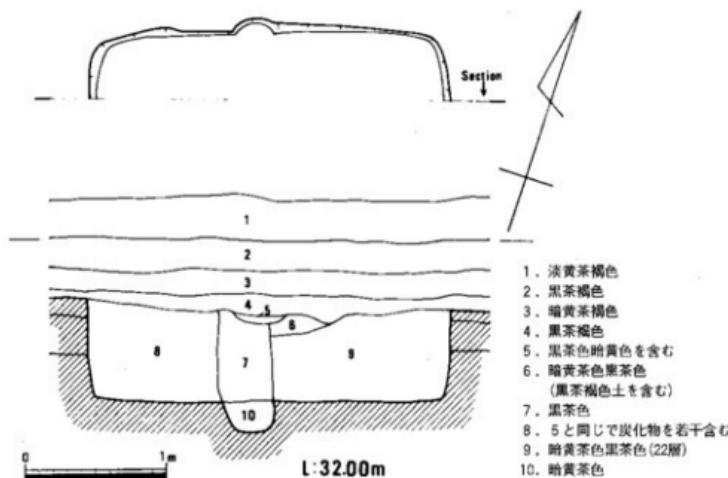
土壤-1(第61図、図版45-2・46-1)

3号住居址の東側に位置する。平面形は長楕円形を呈している。北西側の一部は調査区域外

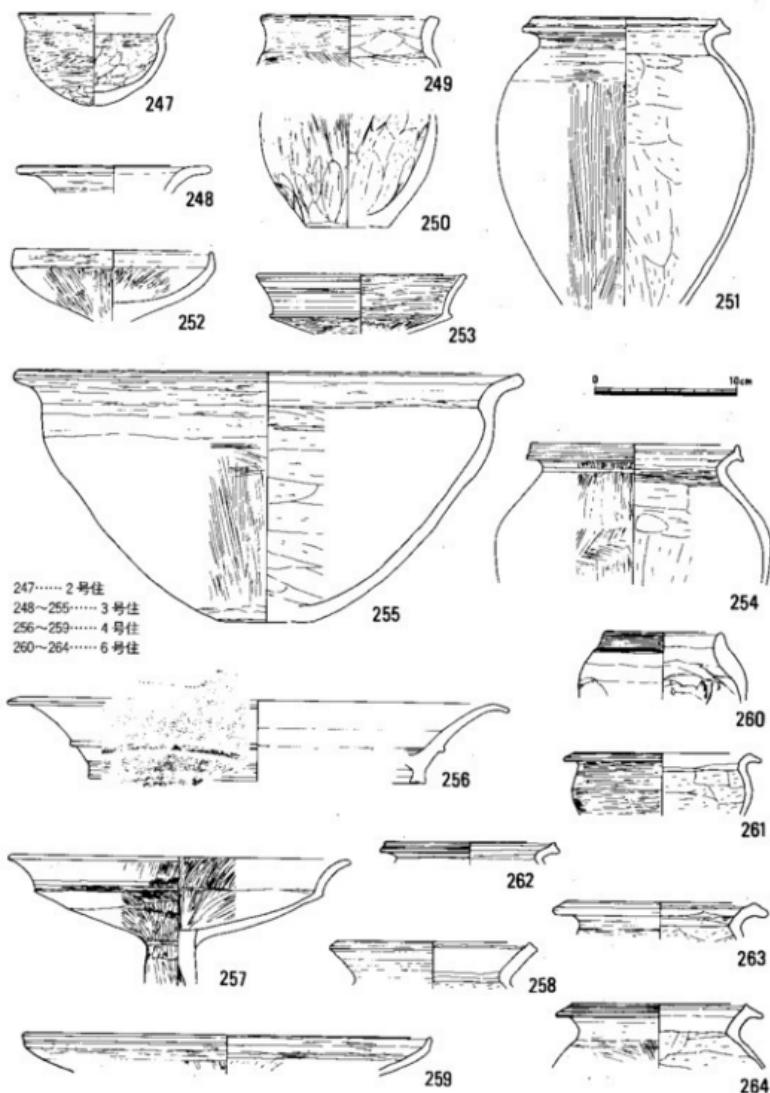
原 跡



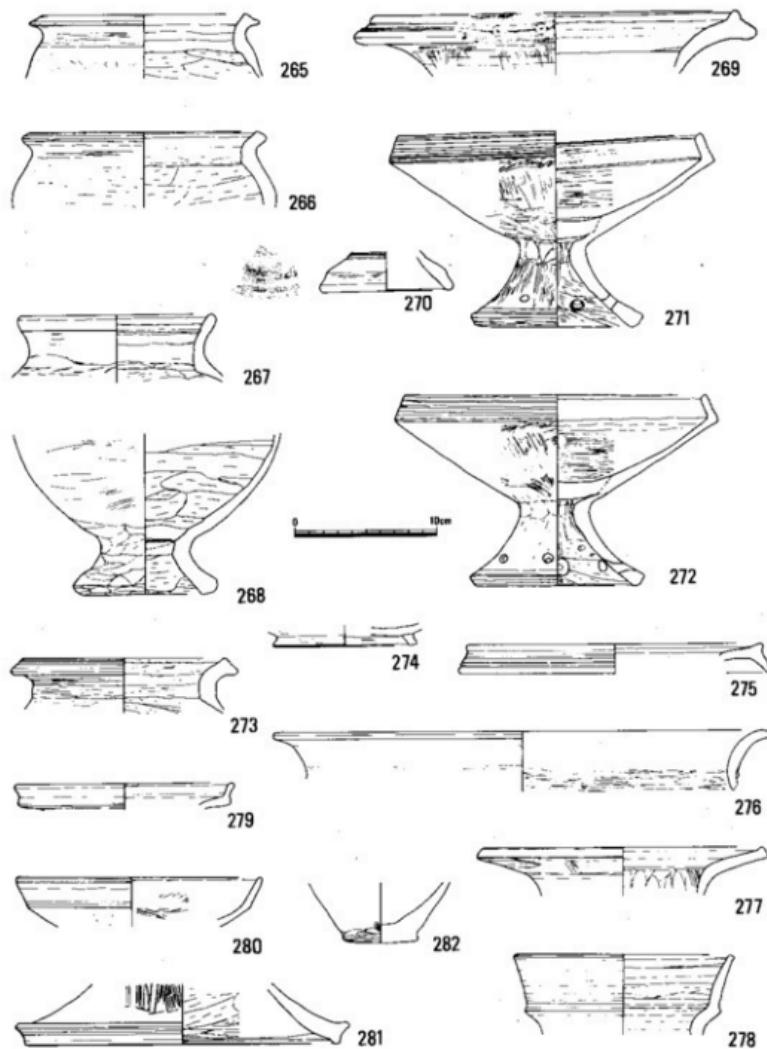
第61図 D22区土壤 - 1平・断面図 (1/30)



第62図 D22区土壤 - 2平・断面図 (1/40)



第63図 D22区 2・3・4・6号住居址出土遺物



265~272……6号住 273~274……8号住 275~281……溝

第64図 D22・23区6・8号住居址・溝-2出土遺物

になっている。埋土中の土器群は2か所あり、上層と下層に分かれている。土層断面からも上下に分けることが可能である。下層の土壌の大きさは長径約2m、短径約1.15m、深さ0.82mである。上層の土壌は長径約1.5m、深さ約0.3mである。出土遺物は292～309である。時期は出土遺物から百・後・II（弥生時代後期中葉）に比定される。

土壤-2（第62図）

D22区の中央部付近に位置し、平面形は方形を呈している。北側の一部を調査しただけで、南側の大部分は未調査区域である。北壁は東西方向より少し北へふれている。大きさは東西2.56m、深さ0.7mである。良好な出土遺物がなく、時期は明らかでない。

溝-1

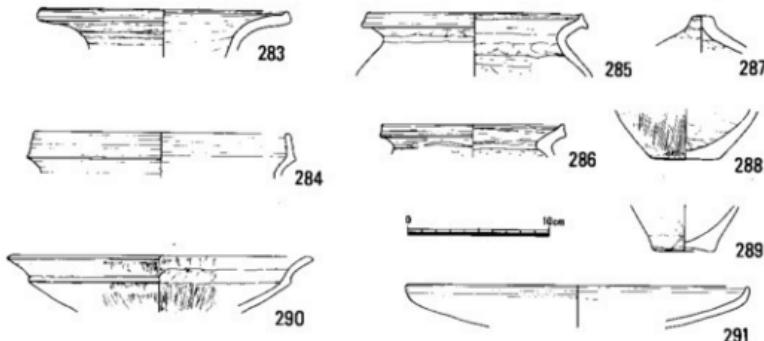
2号住居址の西側に位置する。幅60cmの浅い溝で、良好な遺物はなく、時期は明らかでない。

溝-2

D23区の北寄りに位置し、南北に長い溝状の遺構である。幅80cmで、北側ではとぎれる。南側は西へ曲がり、未調査区域へのびている。埋土中に良好な遺物はなく、明期は明らかでない。

溝-3（第65図）

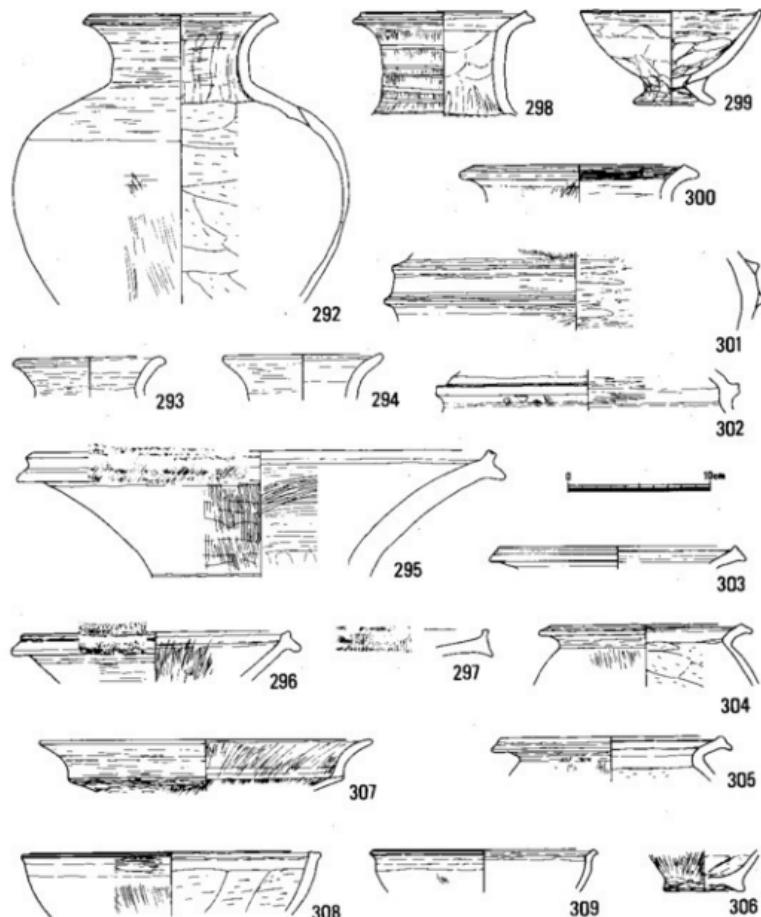
4号住居址の西側に位置する。幅40cmの浅い溝で、南北に走る。埋土中からは283～291の土器が出土している。283は壺の口縁部である。284～286は甕の口縁部で、284は口縁部が外反したあと内傾しながら立ちあがる。285～286はくの字状に外反し、端部は肥厚する。287・290・291は高杯である。288・289は甕の底部である。



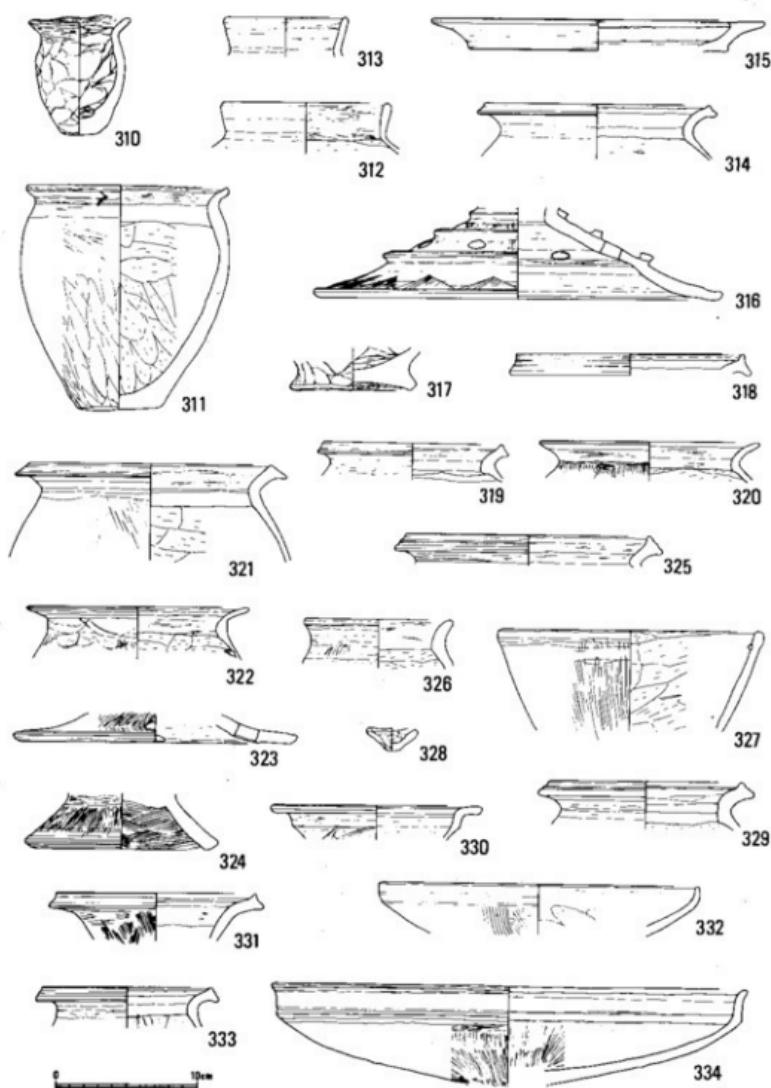
第65図 D22区溝-3出土遺物

その他の出土遺物（第67～69図、図版59－1、2）

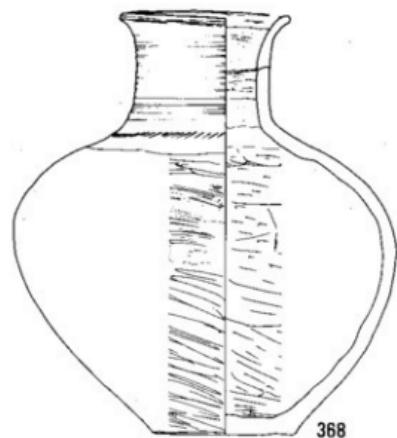
柱穴や小穴中からも遺物が出土している。ほかに遺構検出中に出土した遺物もある。P59はD22区の東西方向調査区域の中央部付近に位置し、調査北壁の断面に一部かかっている。柱穴状の遺構で、弥生土器がまとまって出土した。368～370・372は壺で、381は甌、335・336・373・374は高杯である。時期は百・後・II（弥生時代後期中葉）に比定される。



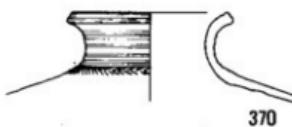
第66図 D22区土壤-1 出土遺物



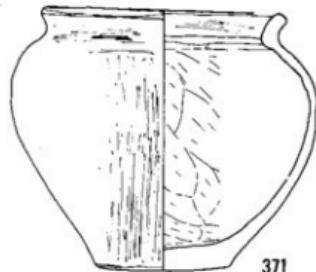
第67図 D22区柱穴出土遺物



368

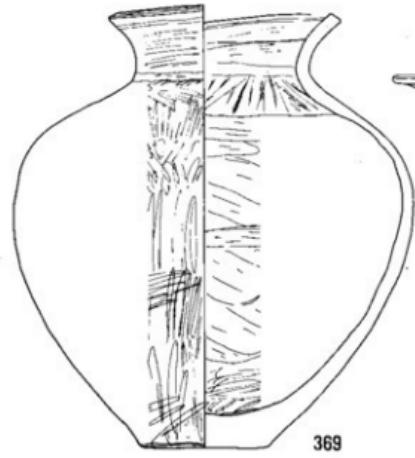


370



371

0 10cm



369



372

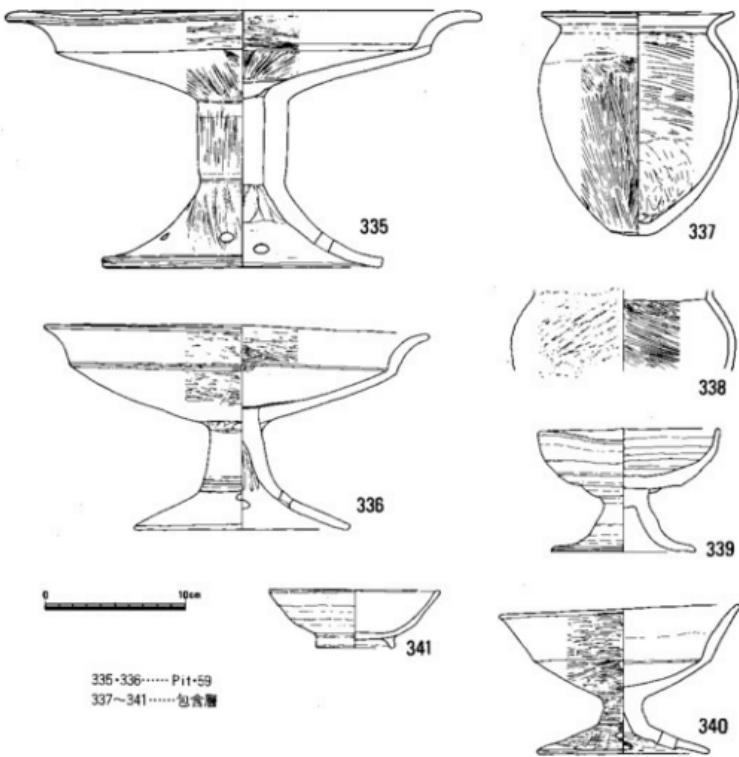


373



374

第68図 D22区P-59出土遺物



第69図 D22区柱穴・包含層出土遺物

第67図は柱穴からの出土遺物で弥生時代後期の土器である。337～341は包含層中からの出土遺物である。337・338は弥生時代末～古墳時代初頭の壺、340は古墳時代初頭の高杯、339は7世紀頃の須恵器の高杯、341は中世の高台付碗である。

第5節 D13・D28区の調査

1. D13・D28区の概要（付図）

原遺跡の調査対象区域のなかでは北西端部に位置している。D13区は県道より北側約100mのところで、東西方向へ約80mの範囲である。D28区はD13区の東端部から北へ約130mの範囲である。遺構の密集する地域からははざれていて、溝と水田址を中心とする。D13区では少數の土壙、柱穴を伴っている。D28区の地形は北へ傾斜していく、南側の微高地から低位部への斜面に土器溜りがみられる。低位部は水田域となり、畦畔も検出された。

2. D13・D28区の遺構・遺物

溝-1（第70～72図、図版27-2・28-1、2・29-1、2）

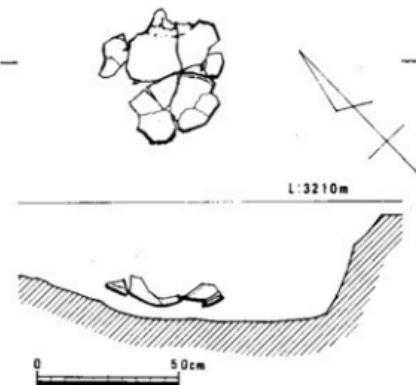
D13区の東端部近くに位置する。北東から南西方向に走っている。大きさは幅1.3m、深さ0.55mである。断面は皿状を呈し、緩やかに傾斜している。埋土中からは147～161の土器を出土している。第70図のように底部付近で壺の大型破片が出土した。器種には、壺、甕がある。149は壺の肩部片で、段があり、段より上に縦位の2本線が2組みられる。150には段はみられないが、横位の下方に格子文がある。以上の2点は弥生時代前期でも古段階にみられるものである。154・156の甕は、この壺に伴う可能性がある。

147は口縁部分を欠いているが、頸部から肩部へかけてヘラガキ沈線のまとまりが3段に施されている。157の甕のように、L字状に曲げられた口縁部下に多数のヘラガキ沈線を施すものがある。また、153の甕のように、断面三角形の突帯を貼り付けて口縁部としたものがある。これらの甕が147の壺に伴うと判断される。

以上のことから、溝の埋没した時期は百・前・Ⅲ（弥生時代前葉後葉）に比定することができる。

溝-2（第71図）

溝-1の西側に位置している。北東から南西へ小さく蛇行しながら走る溝である。大きさは幅50～



第70図 D13区溝-1遺物出土状況（1／20）

60cm、深さ30cmの溝である。溝-1を切ってつくられているので、弥生時代前期より新しいことはわかるが、良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝-3（第71図、図版30-1、2・31-1）

D13区の東半部は緩やかに蛇行しながら走る溝で、調査区域内で30mに及ぶ。大きさは、幅50~60cm、深さ55cmである。断面はU字形を呈している。溝-1と溝-2を切ってつくられていて、弥生時代前期より新しいことはわかるが良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝-4

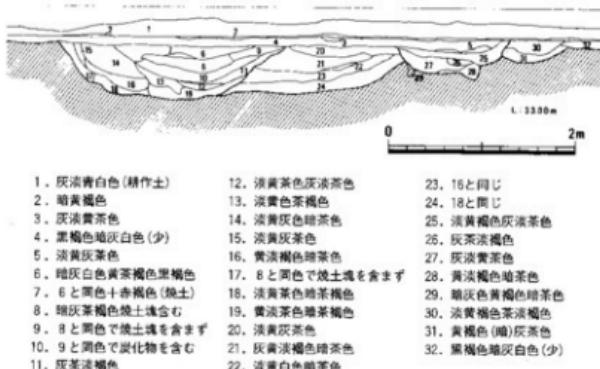
D13区の中央部に位置し、北西から南東へ走る溝である。大きさは、50~140cmである。溝-3によって切られている。埋土中に良好な遺物がなく、時期は不明である。

溝-5（第73図）

D13区の西端部に近いところに位置している。北東から南西方向へ走る溝で、大きさは幅20cmの小さなものである。付近には遺構がない。埋土中からは162~169の土器が出土している。165は口縁部上端から少し下がったところにキザミメのある突帯を貼り付けてあり、縄文晩期に属する。162・169は壺、163・164・166~167は甕・168は鉢である。以上の土器は百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に属し、溝-1と同じ時期である。したがって、溝-5の埋没した時期はこの時期に比定される。

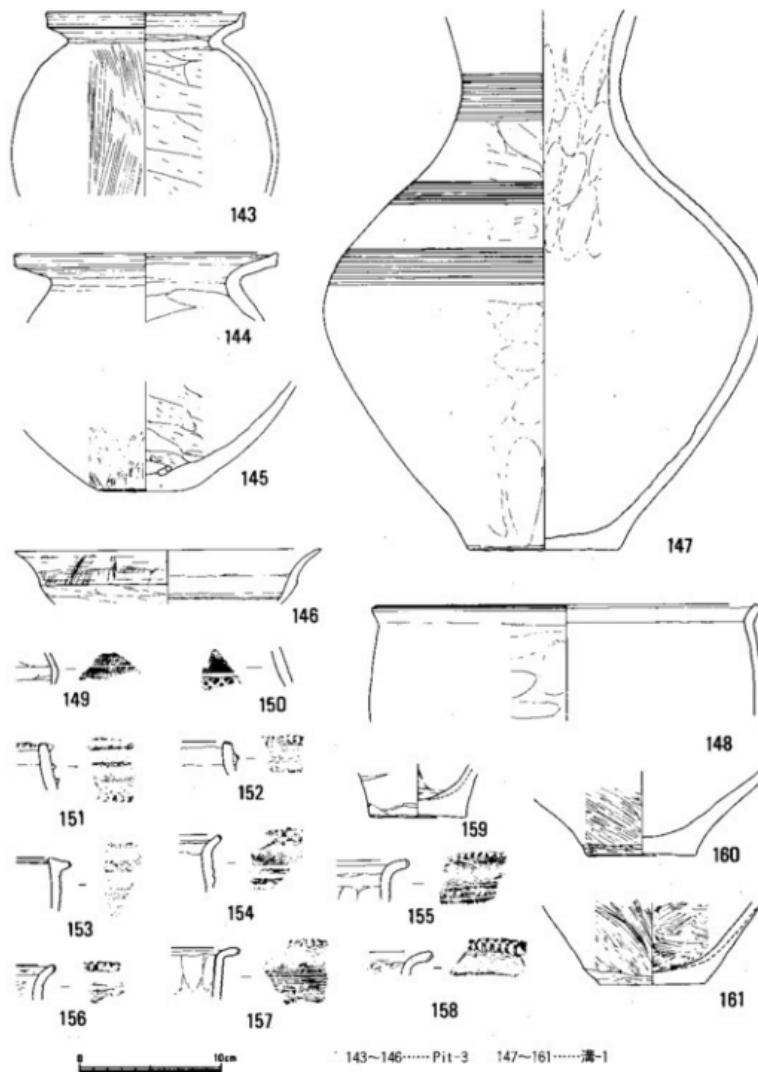
水田址（第74図、図版32-2・33-1、2）

D28区の南端から北へ18m付近から水田址が検出される。水田址から南側は少し高くなり、微高地に至る。下層では大きく2時期の水田址がある。最下層のものでは小さな畦畔を検出し

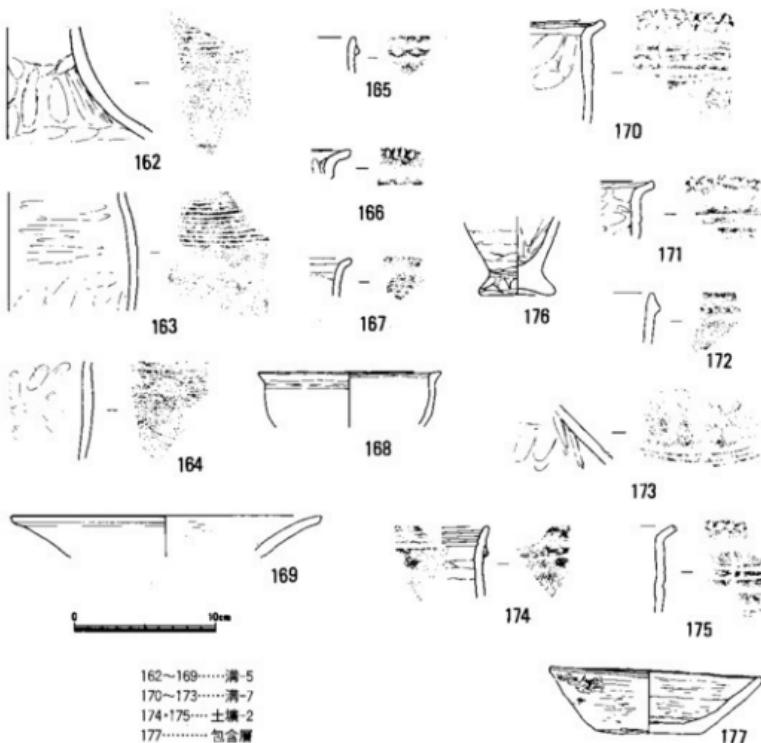


第71図 D13区溝-1～3断面図（中央部南壁）（1／60）

原 遺 跡



第72図 D13区P-3・溝-1出土遺物

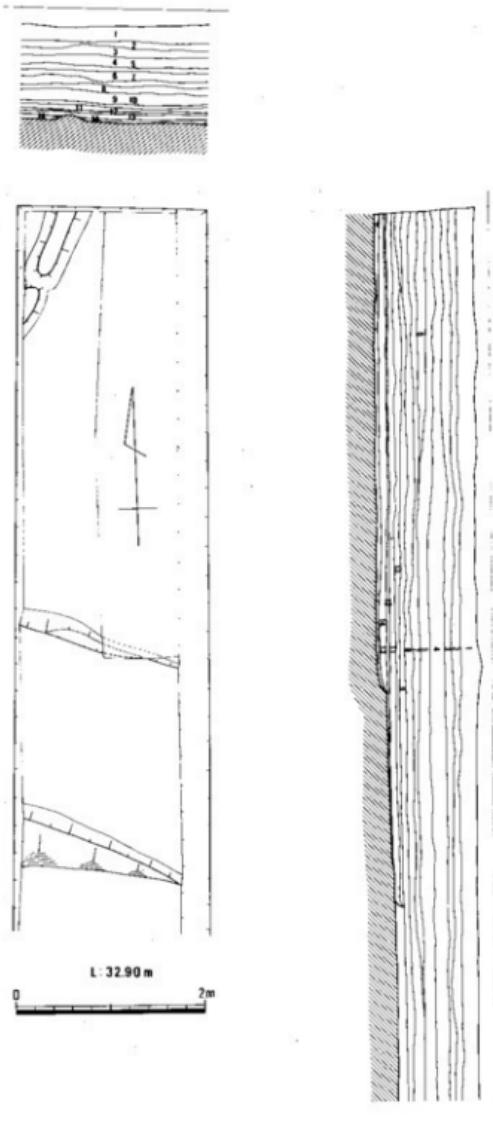


第73図 D13区溝・土壤・包含層出土遺物

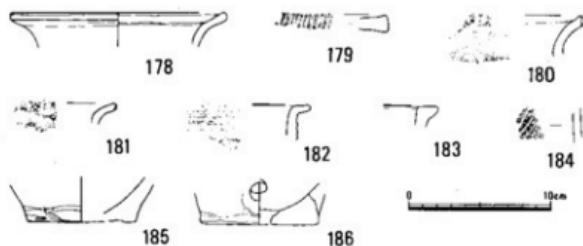
た。下幅40cm、高さ約5cmである。検出された畦畔の一部は切れていて、水口と推定される。この水田の直上にはさらに南へ拡大した水田址がみられる。上層へ何層にも水田址を確認することができる。上部の水田址は中・近世の水田址であるが、下層の水田址の時期を考察するための資料として、第75図と第76図の土器がある。

最下層の水田層中から出土した土器が178～186である。百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定される土器である。187～189は水田址へ向かって下がる斜面部に堆積していた土器である。時期は百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に比定される。このことは、水田址の時期が弥生時代前期後葉より新しいことがわかる。弥生時代前期の土器は微高地に多数あり、当然後の時期の遺構にも含まれる可能性がある。水田層の上面から良好な資料が得られていないため、水田

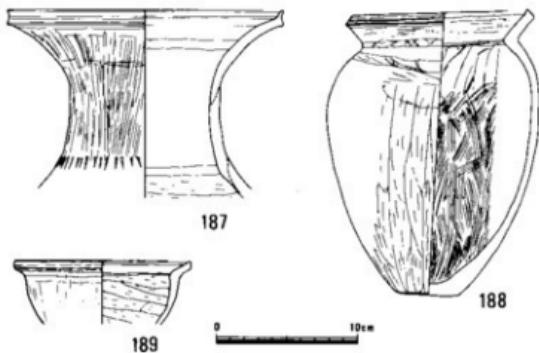
原 遺 跡



第74図 D28区水田址平・断面図 (1/60)



第75図 D28区水田層出土遺物



第76図 D28区土器滲り出土遺物

址の時期決定は難しいが、斜面堆積の土器が参考になると考えられる。断定することはできないが、弥生時代後期後葉に埋没した水田の可能性が高い。D13区で、弥生時代前期後葉の溝が検出されていることから、水田の開始がこの時期まで遡ると考えられる。

その他の遺物（第72・73図）

溝以外にも少数の穴があり、少量の土器を出土している。143～146は同じ穴から出土したもので、百・後・Ⅲ～Ⅳ（弥生時代後期後葉～末）に比定される。174・175も同じ穴から出土したものであるが、174は縄文時代晩期に比定され、175は弥生時代前期に比定される。177は上層から出土したものである。

第6節 D25区の調査

1. D25区の概要

県道の北側約50m付近で、東西方向に約100mの調査区域である。遺構・遺物は少なく、溝3本と若干の柱穴が検出されただけである。溝はいずれも北西から南東へ走る。斜面からは縄文晚期の大型破片も出土している。時期は明確でないが全体として水田地域と判断される。

2. D25区の遺構・遺物

溝-1（第78図）

D25区の中央部への西寄りに位置し、北西から南東へ走る溝である。幅60cmの小さな溝で、埋土中からは良好な遺物を出土していないので、時期は不明である。

溝-2（第78・79図）

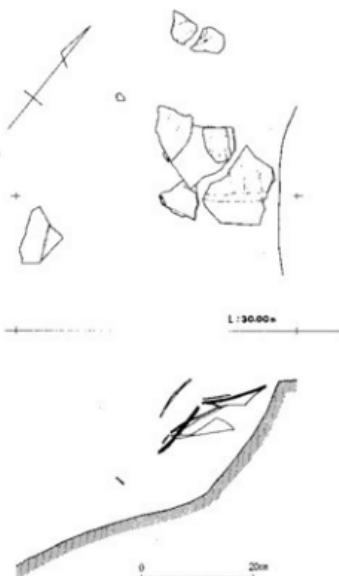
D25区の中央部の西寄りで、溝-1の東側に位置し、北西から南東へ走る溝である。幅120cmの小さな溝で、埋土中からは190~202の土器を出土している。弥生時代後期の土器片を含んでいるが、197・200は百・古・I（古墳時代前葉）に比定されることからこの時期に埋没したものと判断される。

溝-3（第78・79図）

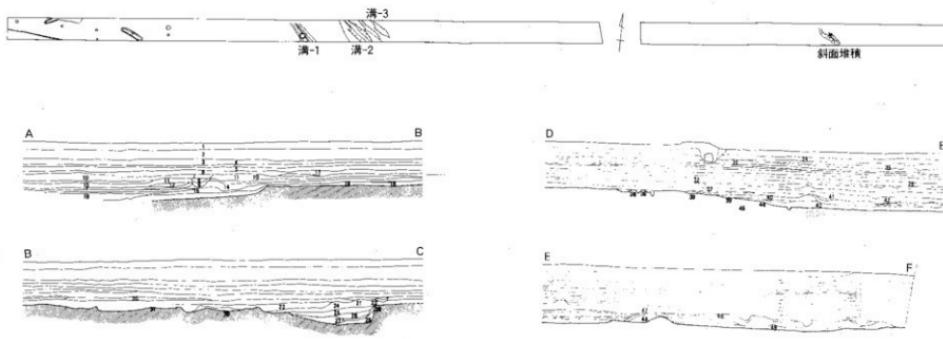
D25区の中央部の西寄りで、溝-1の東側に位置し、北西から南東へ走る溝で、溝-2と重複している。埋土中からは203~205の土器を出土している。これらの土器は百・古・I（古墳時代前葉）に比定されるもので、この時期に埋没したものと判断される。

その他の遺物（第77・79図、図版38）

D25区の東部付近の斜面から縄文時代晚期の甕が出土した。口縁部にはキザミメを施し、船形の貼り付け文がある。

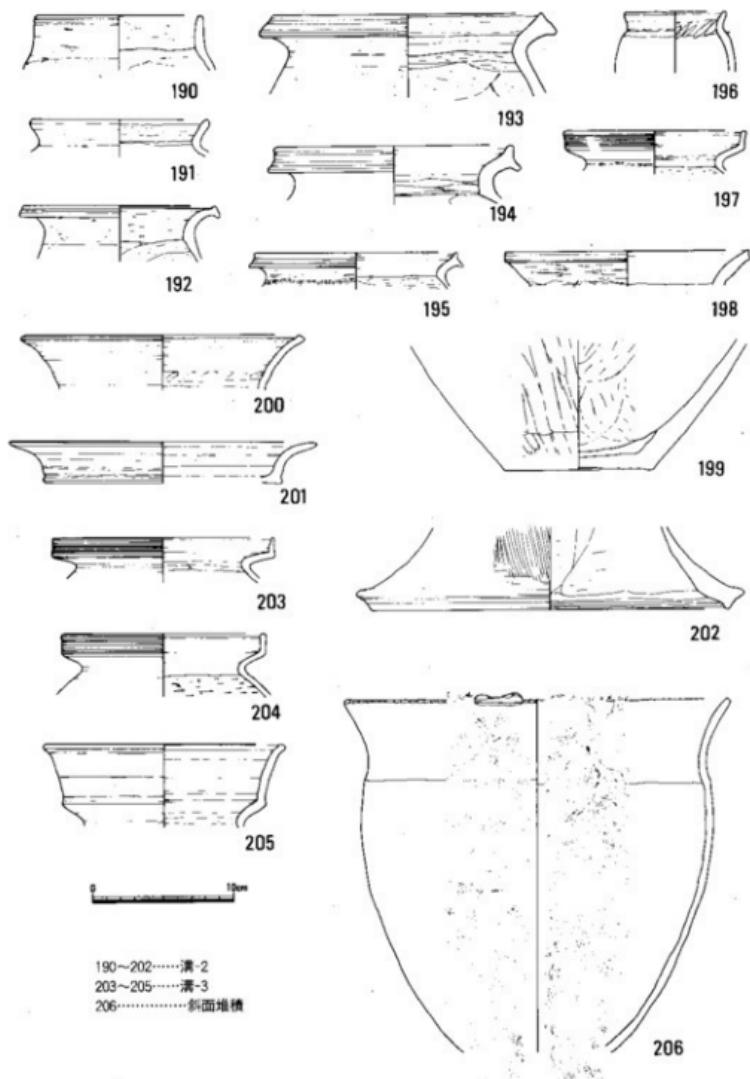


第77図 D25区縄文土器出土状況
平・断面図（1／20）



- | | | | |
|---------------|-----------------|---------------------|------------------|
| 1. 耕作土(黒灰茶色) | 14. 黒茶褐色黒灰色(若干) | 27. 黒灰色(粘)淡黃灰色(粘) | 40. 黄茶色 |
| 2. 黒青灰色 | 15. 暗灰茶褐色(粘) | 28. 淡灰黃白色 | 41. 黃黃色 |
| 3. 疊状灰白色 | 16. 黒茶褐色 | 29. 暗灰茶色(粘砂) | 42. 黄暗茶色(粘砂) |
| 4. 黑灰茶色 | 17. 黒灰色淡黃茶褐色 | 30. 黒茶褐色黄茶褐色(少) | 43. 黄茶褐色(砂) |
| 5. 黑灰茶色 | 18. 淡黃茶褐色 | 31. 暗黃茶褐色 | 44. 黄茶褐色暗茶色 |
| 6. 黑灰茶色 | 19. 黒茶褐色 | 28. 黑灰茶褐色 | 45. 黄茶褐色(砂) |
| 7. 暗灰茶色 | 20. 暗灰茶褐色 | 34. (淡)青灰色(砂) | 46. 茶茶葉褐色(Fe-Mn) |
| 8. 黑灰茶色(褐)色 | 21. 暗茶褐色 | 35. 淡青灰色(砂) | 47. 淡暗茶色黄茶褐色 |
| 9. 黑灰茶色 | 22. 暗茶褐色 | 36. 白灰茶色(砂)……(上層側) | 48. 淡暗茶色茶褐色 |
| 10. 淡灰茶褐色 | 23. 黑茶褐色 | 36. 白灰色淡黃茶褐色……(下層側) | 49. 暗茶褐色黃茶色 |
| 11. 淡青灰白色黃茶褐色 | 24. 暗褐色 | 37. 暗黃茶褐色(粘砂多) | |
| 12. 淡褐色暗茶褐色 | 25. 白灰茶褐色 | 38. 黑茶褐色(粘砂) | |
| 13. 淡灰茶褐色(粘) | 26. 黄茶褐色 | 39. 淡黃茶褐色(粘少)砂(多) | |

第78図 D25区遺構配図 (1/400) および東西土層断面図 (1/80)



第79図 D25区溝・斜面出土遺物

第7節 D20区の調査

1. D20区の概要

県道の北側約100mのところで県道と並行している。東西方向330mに及ぶ。東端部では北へ屈曲して60mのび、西端部でも南へ15mのびる。調査対象区域外では東北部に位置している。D20区の東西方向の調査区域からD26区、D27区が北へのびている。

調査区域の西寄りには、弥生時代中期前半から弥生時代後期の堅穴住居址、土壙、溝がある。土器片には弥生時代前期のものが含まれていることから古くから集落が形成された地域であることがわかる。1号住居址には小破片であるが弥生時代中期初頭の遺物を多く含み貴重な資料である。3号住居址はやや大型の堅穴住居址であるが、埋土中に多量の土器が検出された。弥生時代後期中葉の土器群で、御津町地域の標準資料となりうる資料である。

東寄りの地域は中世の建物、井戸、土壙、溝などがあり、新しい時代に集落となつた地域である。北へのびる調査区は若干の溝と低位部である。

2. D20区の遺構・遺物

1号住居址（第80・81図、図版57-1～4）

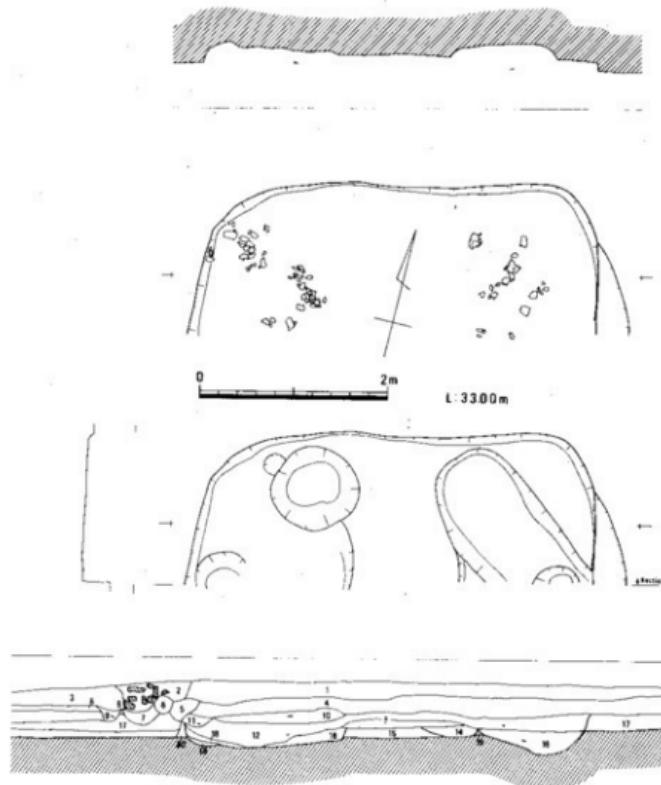
D20区東西調査区域の西方に位置する。住居址の北側部分を調査しただけで、南側の大部分は未調査区域となり、全容はわからない。平面形は隅丸方形を呈し、北壁はほぼ東西方向である。床面には浅い土壙状の凹みがみられるが、住居址に伴うと思われる柱穴は検出されていない。大きさは東西方向4.35mを測り、やや小型の堅穴住居址である。

床面付近からは土器片が出土した。器種は甕、蓋がある。甕についてはよくわからない。甕の口縁部には2種類あり、くの字状に折り曲げるものと逆L字形に折り曲げる（345・346・351）か断面三角形の突帯を貼り付けたもの（343・344）である。くの字形に折り曲げた口縁部の甕は胴部が少しふくらみ、上半部にクシガキ文が施されている（347～350・356）。他のものは多条のヘラガキ沈線文を施したものである。底部は平底で、中央部がわずかにあげ底になる。蓋（355）は小破片にすぎないが、甕の蓋である。他に、土製鋤車（357）が1点出土している。大きさは径4cm、厚さ0.6cmで、中央に両面からあけた穴がある。

住居址の時期を決めるには床面から出土した土器片があるが、甕の口縁部が2種類みられた。口縁部直下の外面にヘラガキ沈線文を施したものは、百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定され、口縁部直下の外面にクシガキ文を施したものは、百・中・I（弥生時代中期前葉）に比定される。他の土器片の検討も含めるとこの住居址の時期は百・中・I（弥生時代中期前葉）に比定される。

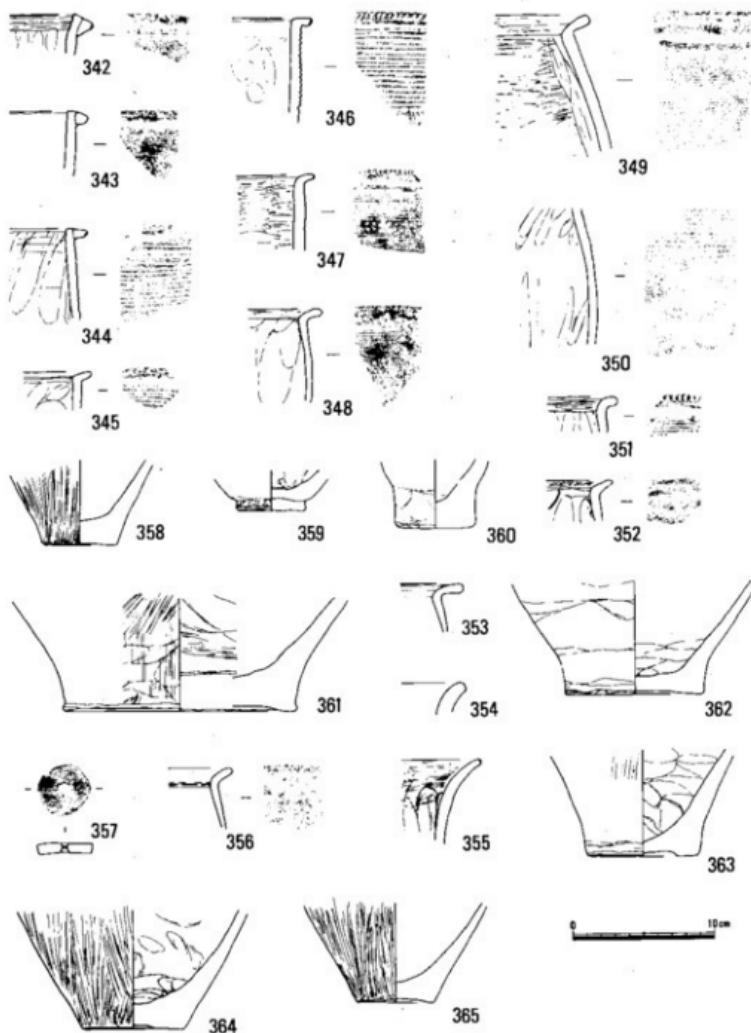
2号住居址（第82図、図版58-1、2・59-1）

D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、1号住居址から50m東にある。北へのびるD26区に接している。住居址部分は全掘されたので、全容を知ることができる。平面形は円形を呈



1. 暗黄茶色 暗灰色 黑褐色	5. 黑灰色 黑褐色 黑茶褐色	10. 暗灰色 黑茶褐色 暗黄茶色	13. 黄暗茶色 暗灰色 暗褐色	17. 暗黄茶色 灰淡青色 暗茶褐色
2. 暗灰白色 茶褐色	6. 黑灰色 黑茶褐色 7. 黑灰色 黑褐色	11. 暗灰色 黑茶褐色 8. 暗灰茶褐色 暗灰色	14. 黑灰色 黑茶褐色 9. 暗青灰色 暗黄茶色	18. 暗黄茶褐色 暗灰色 10. 暗黄茶褐色 黑茶褐色
3. 暗茶褐色 暗灰色	12. 暗灰色 暗黄茶色 13. 暗黄茶褐色 暗灰色	15. 黄暗茶褐色 暗黄茶褐色 16. 暗黄茶褐色 黑茶褐色	19. 暗黄茶褐色 灰淡青色	20. 黑青灰色
4. 暗黄茶褐色 暗灰色				

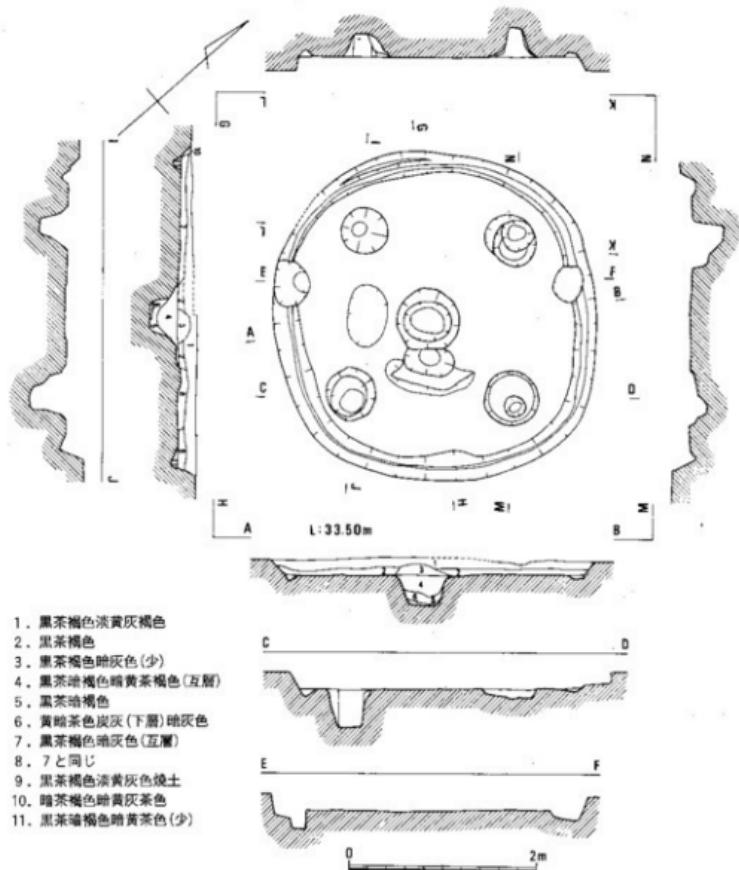
第80図 D20区1号住居址平・断面図 (1/60)



第81図 D20区1号住居址出土遺物

し、主要な柱穴は4本で、中央部に円形の土壇がある。大きさは径3.45～3.55mである。壁体溝が全体にめぐっている。柱穴はほぼ方形に配置されていて、P1とP4を結ぶ線はN46°Wである。柱間はP1～P2が1.65m、P2～P3が1.85m、P3～P4が1.75m、P1～P4が1.85mである。中央の土壇は径65cm、深さ30cmである。

時期は埋土中の出土遺物に良好なものがないため明確にすることはできないが、弥生時代後

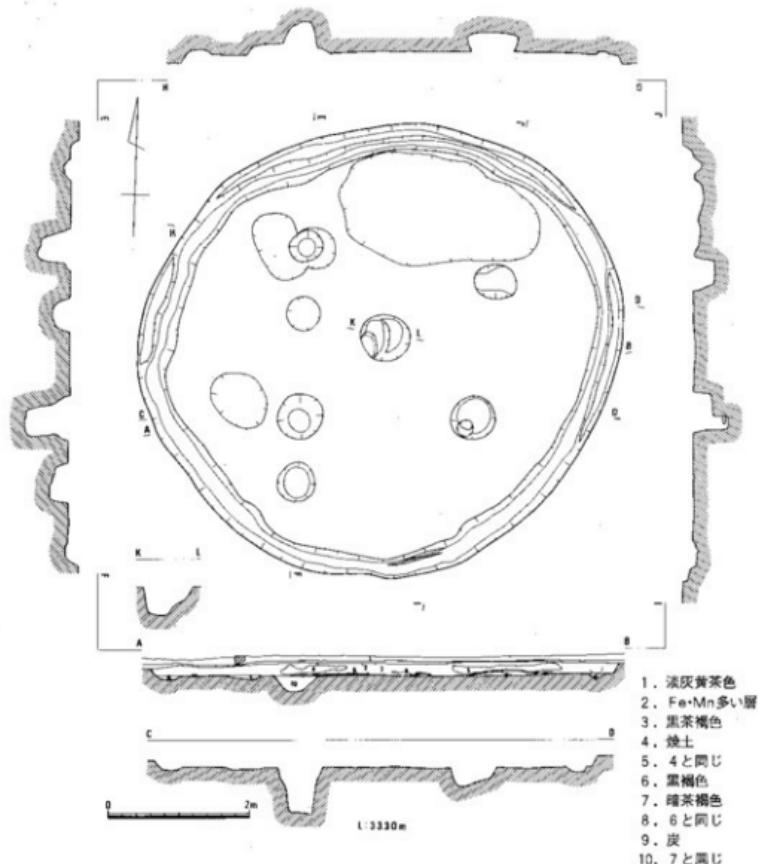


第82図 D20区 2号住居址平・断面図 (1/60)

期に属するものと推定される。

3号住居址（第83～99図、図版61・62）

D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、2号住居址からは15m西にある。北へのびるD26区より少し西に寄った地点である。調査区域が北へ拡幅されたことから住居址の全容を知ることができる。平面形は少いびつであるが、円形を呈している。壁体溝は2本確認されていてことから1回の建て替えが行われたことがわかる。最終床面からは多量の土器が出土したこと

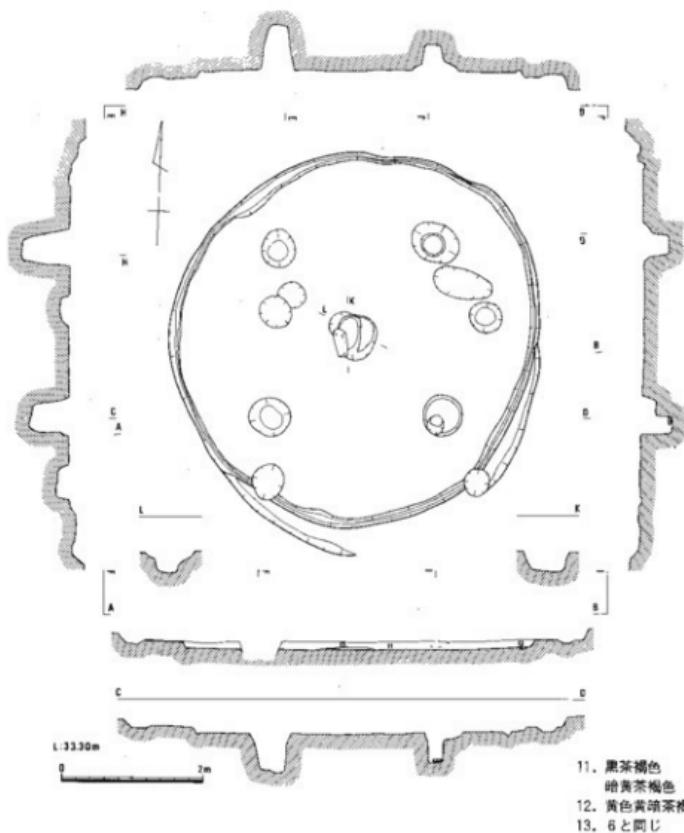


第83図 D20区 3号住居址平・断面図 (1/80)

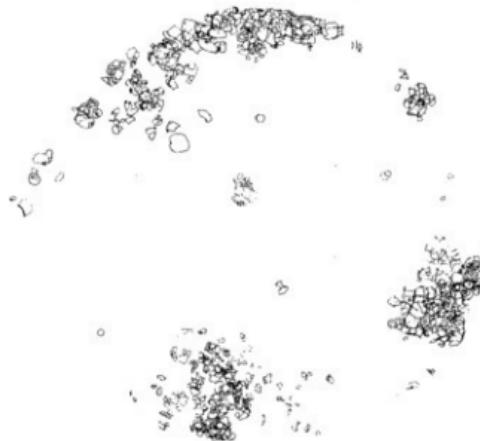
とから特に注目される住居址である。

住居址の大きさは東西7m、南北6.4mである。当初の住居址の大きさは東西5.4m、南北5.2mである。いずれも主要な柱穴は4本で、中央に土壌がある。最終面で柱間を測るとP1～P2が2.72m、P2～P3が2.1m、P3～P4が2.4m、P1～P4が2.5mである。P1とP4を結ぶ線はほぼ南北である。中央の土壌は円形で、径60cm、深さ40cmである。

最終床面では多量の土器が出土した。これらは北部、北西部、南西部、南部に分かれて集中している。ほとんどの土器は床面付近にあり、完形のものが潰れた状況で検出されている。こ



第84図 D20区3号住居址（上）平・断面図（1／80）



第85図 D20区3号住居址内遺物出土状況(1/80)

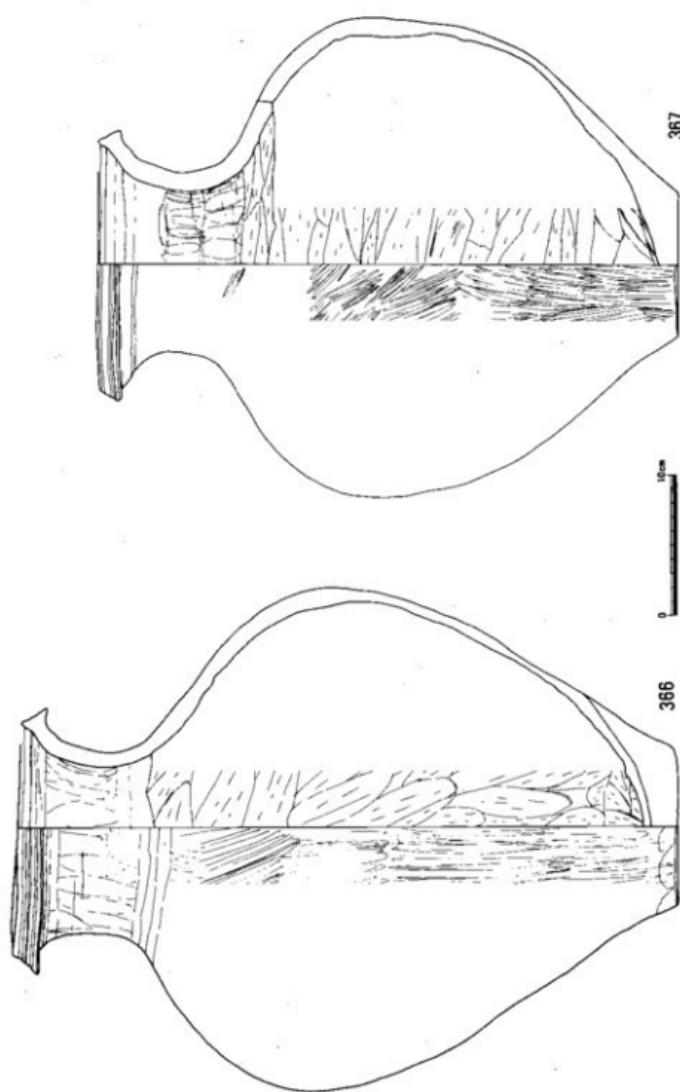
のことから床面が埋没しない状態で投棄されたと考えることも不可能ではないが、検出された状況は多量の土器が住居内に置かれた状況のまま、何らかの都合で放棄されたと考えることができる。各土器群を観察すると特に一定の器種が集中するという傾向はみられない。

床面から石器が1点検出されている(第113図1、図版61-8)が、この時期に伴うものかの判断は難しい。

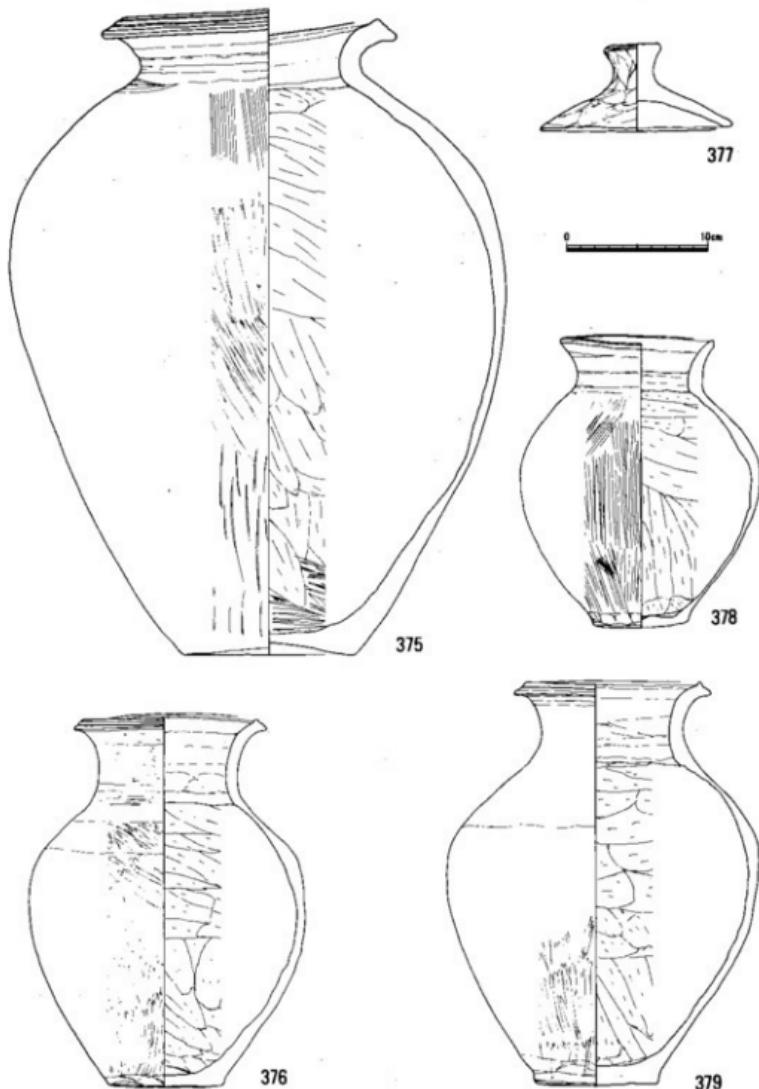
多量に出土した土器についてみてみよう。第86図～第98図までの78個体を図化することができた。いずれもほぼ完形に復元されたものである。

壺には、366・367・376・379のように口縁部が朝顔形に大きく開き、端部は肥厚して擬凹線文を施すものと、378・382・384のように口縁部が小さく広がり、端部は丸くなるものがある。いずれも内面は頸部直下までヘラケヅリが施されている。胴の肩部は張り、底部は緩やかにすぼまって、平底を呈する。

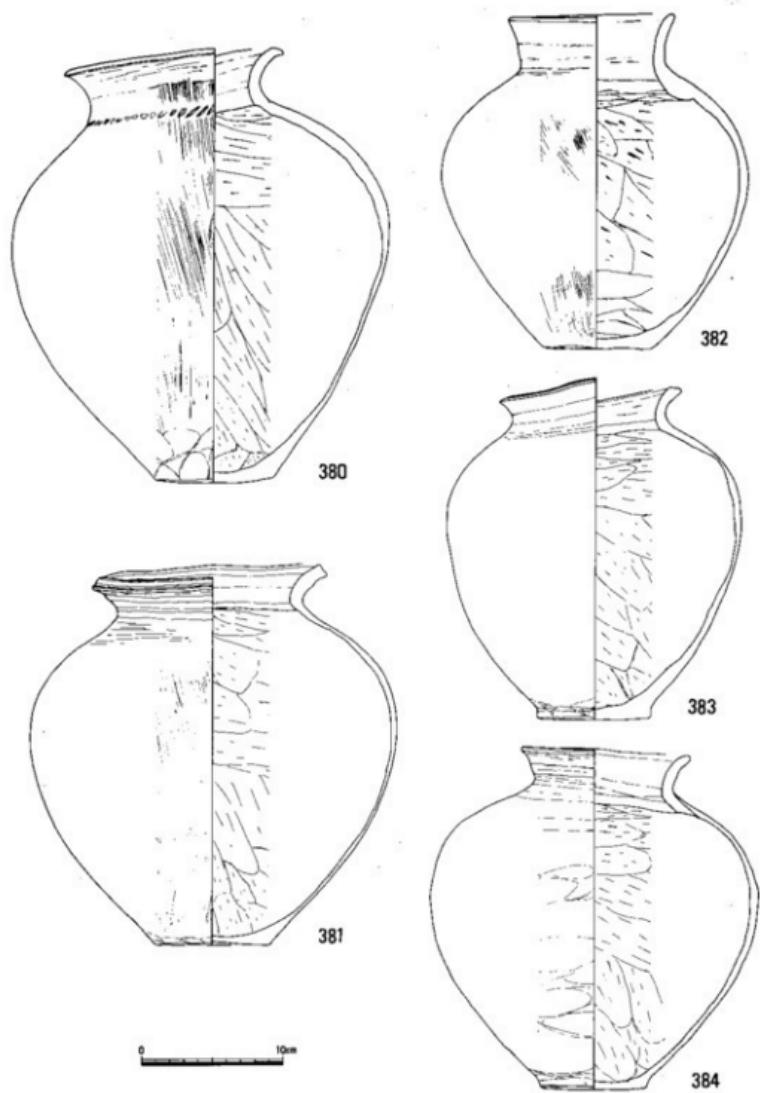
甕には頸部が小さくなつて壺に類似するものも少しみられるが、375・385～405・410のように口縁部が短かく外反し、端部は肥厚する。一部には口縁部外面に擬凹線を施すものもある。内面はいずれも頸部直下までヘラケヅリが施されている。底部は平底を呈するのがほとんどであるが、一部に少しあげ底になるものがある。408・413～420は小型の甕で、口縁端部が肥厚



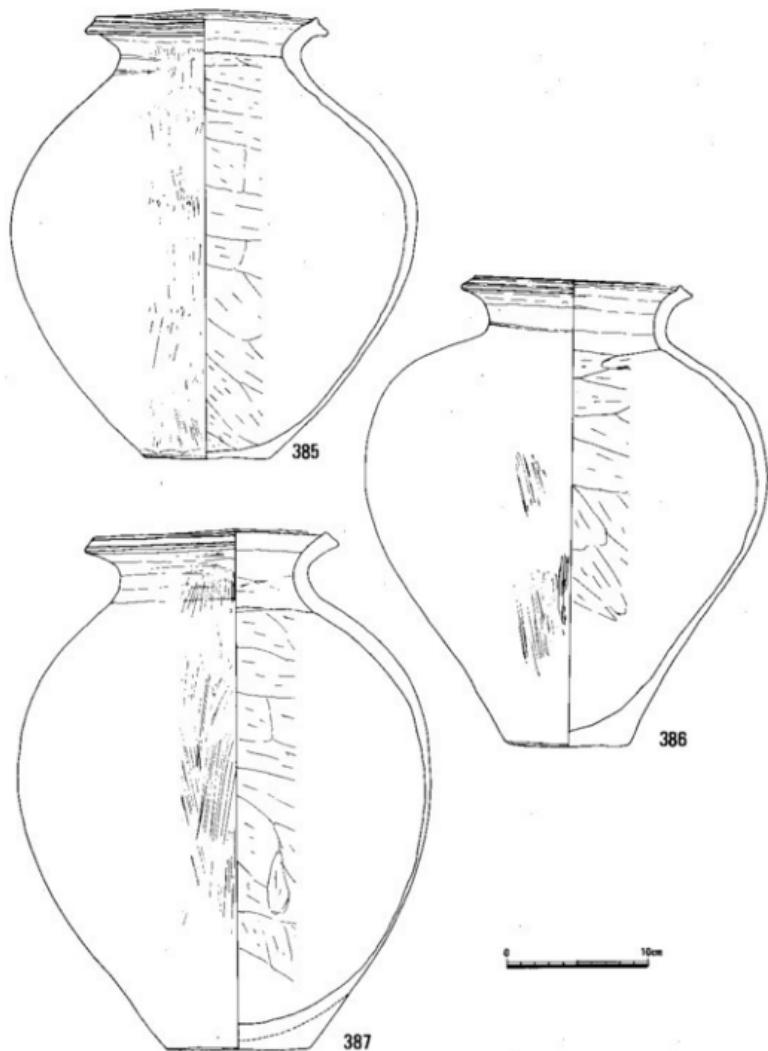
第86図 D20区 3号住居址出土遺物(1)



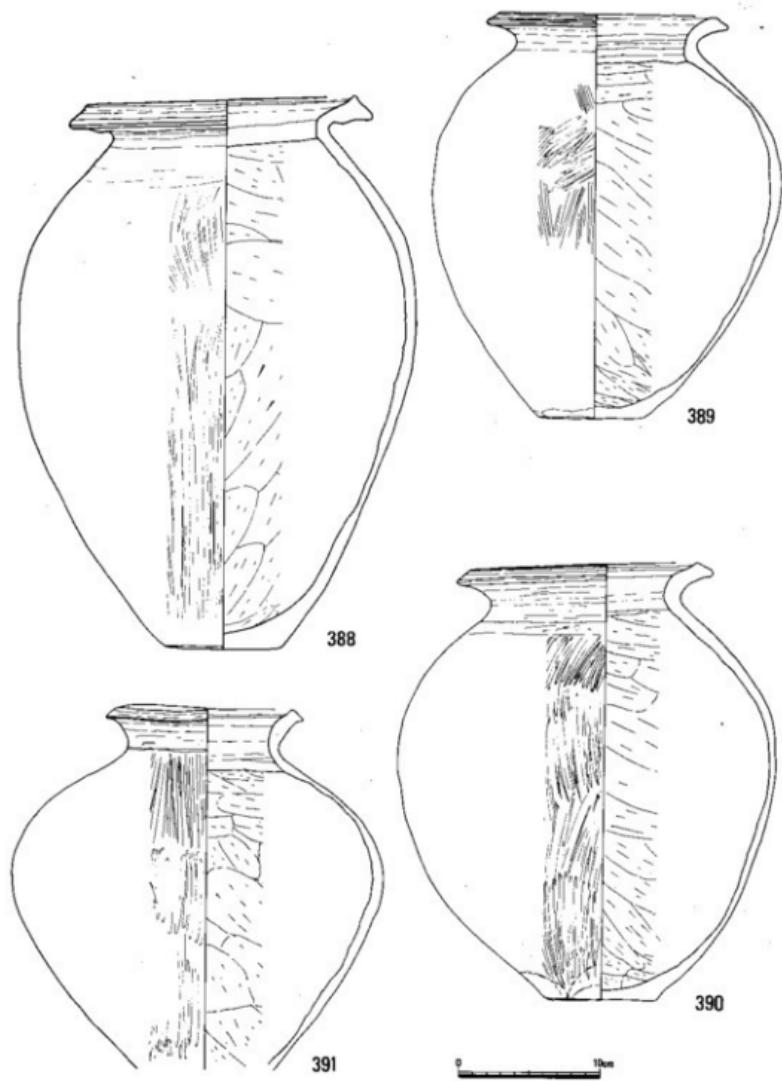
第87図 D20区 3号住居址出土遺物(2)



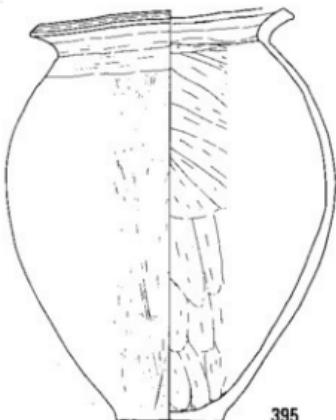
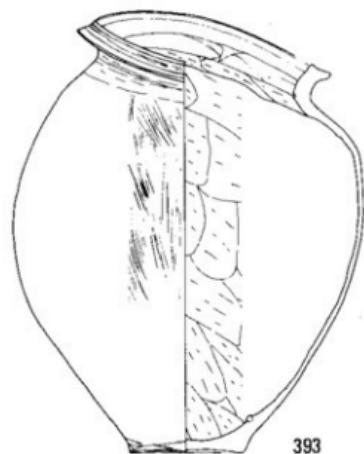
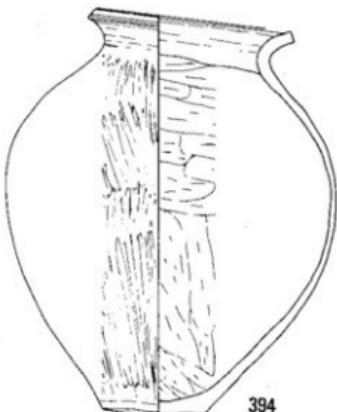
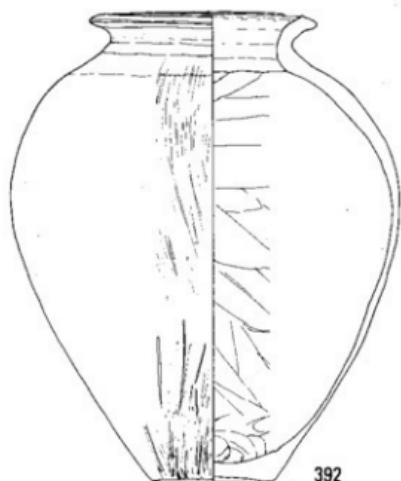
第88図 D20区3号住居址出土遺物(3)



第89図 D20区 3号住居址出土遺物(4)

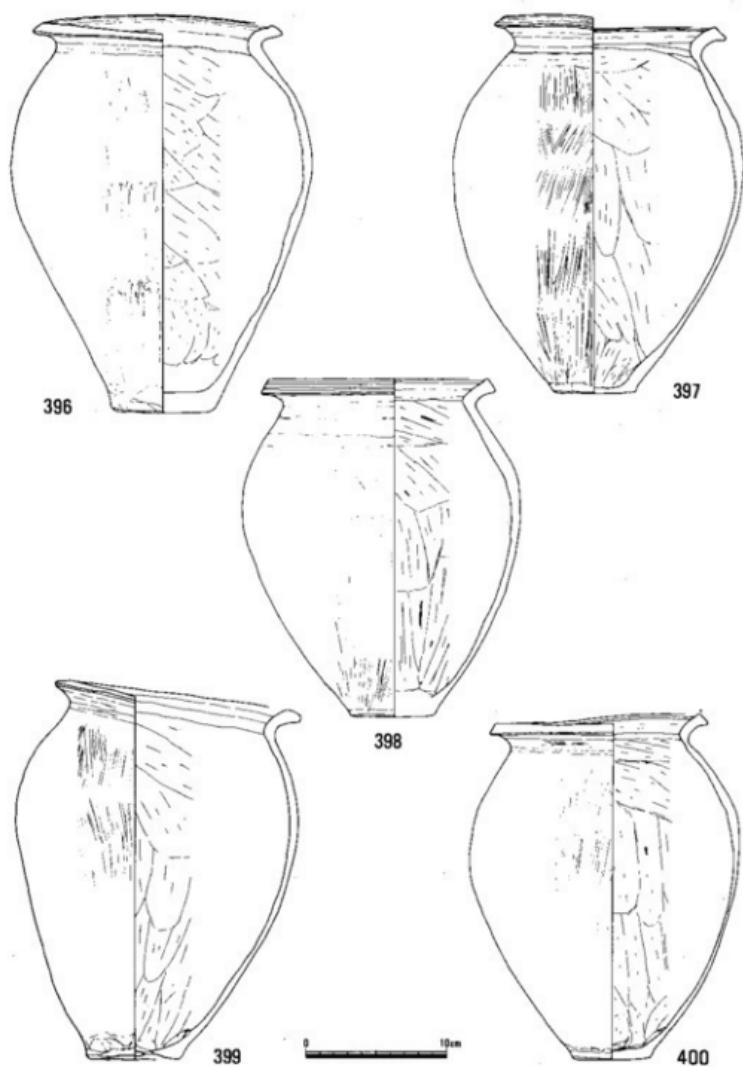


第90図 D20区 3号住居址出土遺物(5)

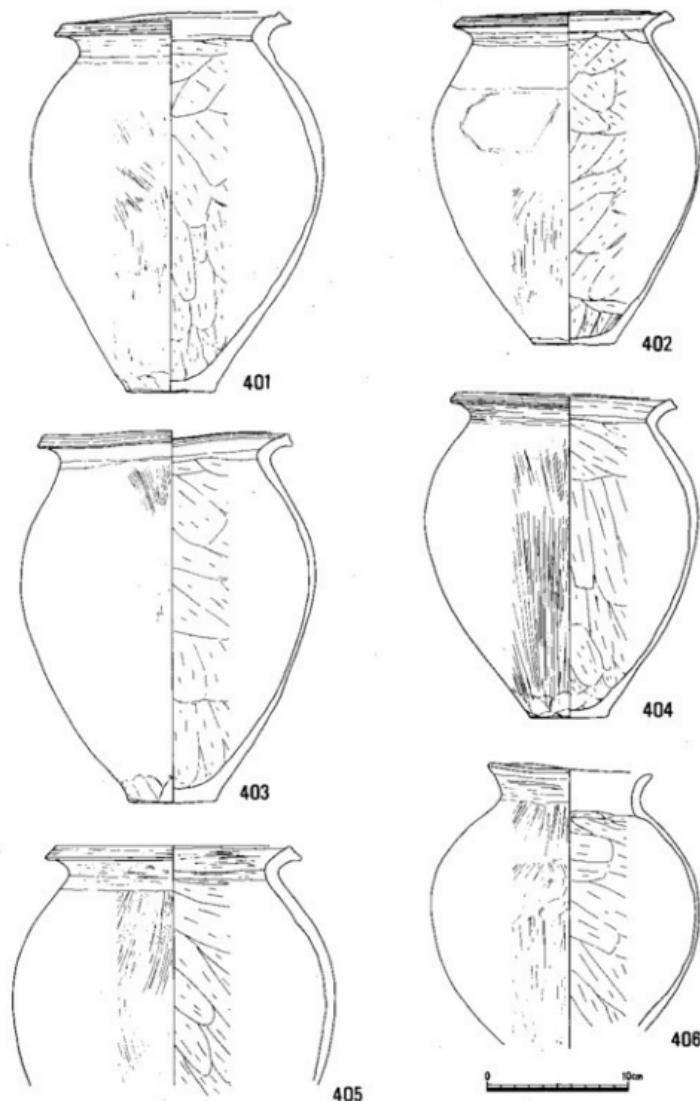


0 10cm

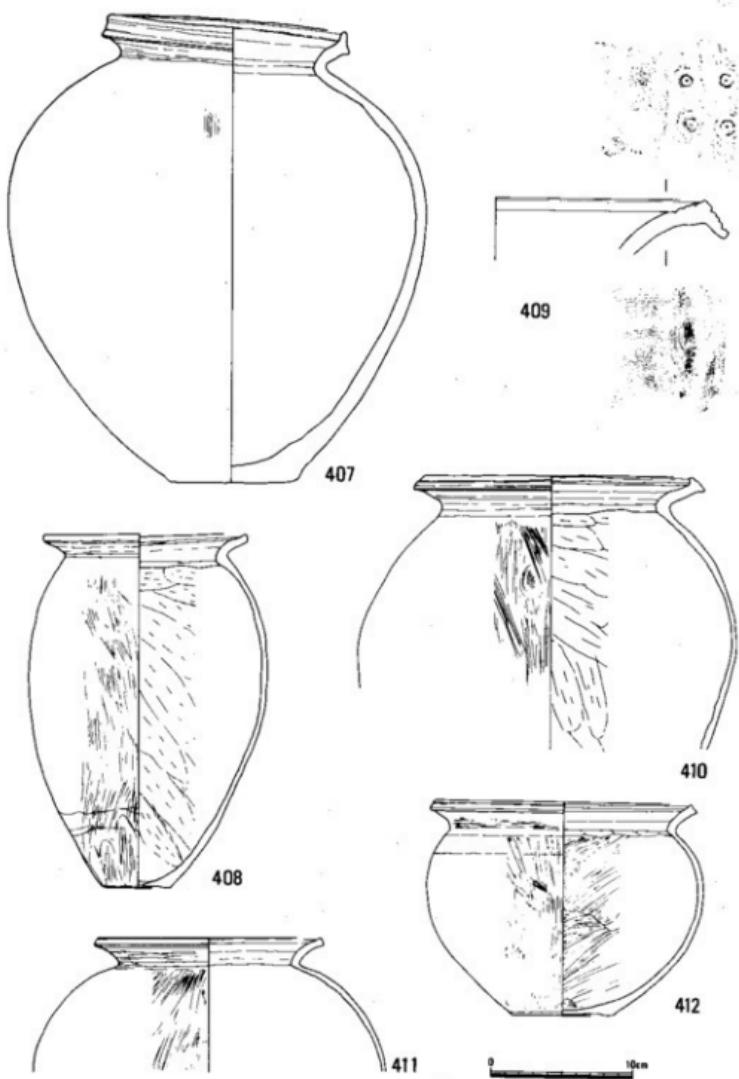
第91図 D20区 3号住居址出土遺物(6)



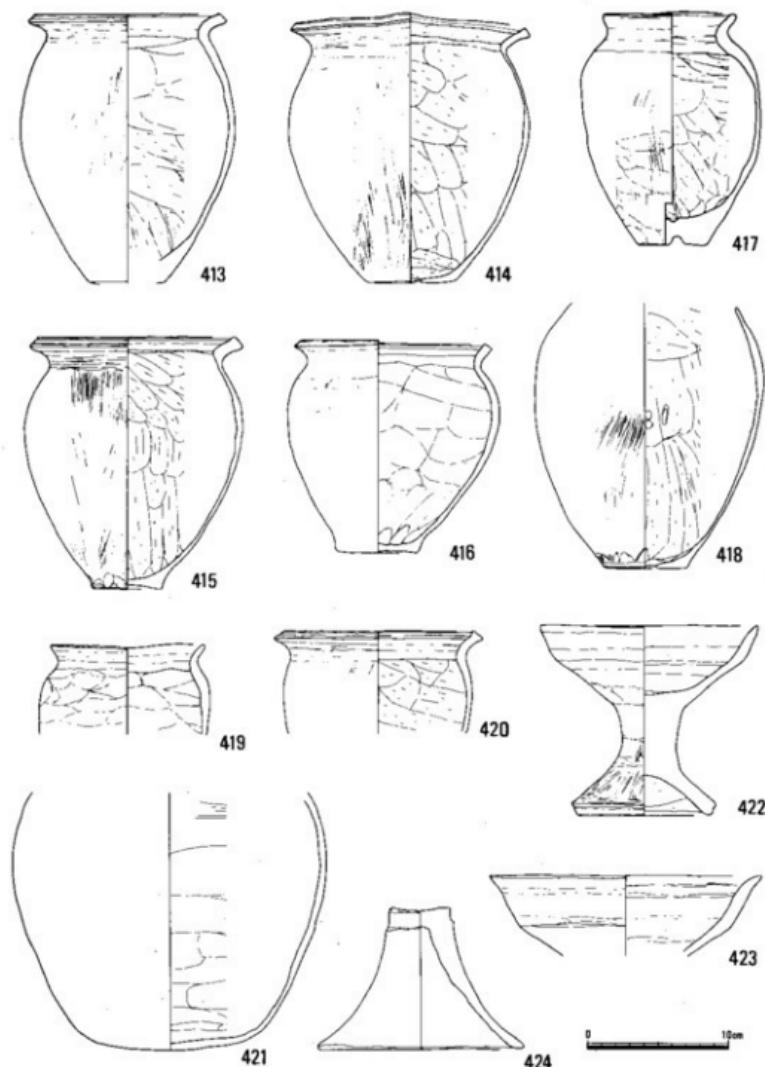
第92図 D20区 3号住居址出土遺物(7)



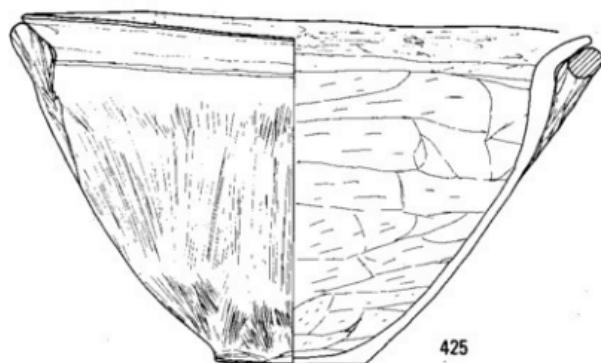
第93図 D20区 3号住居址出土遺物(8)



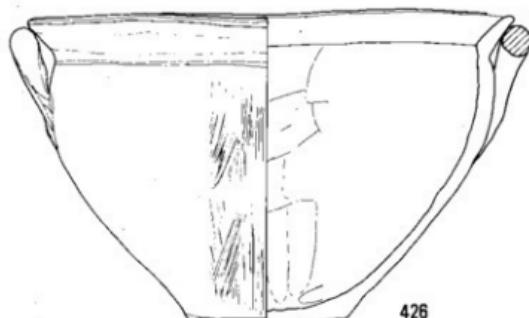
第94図 D20区 3号住居址出土遺物(9)



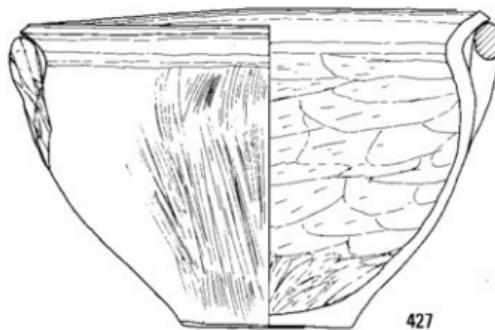
第95図 D20区 3号住居址出土遺物⑩



425

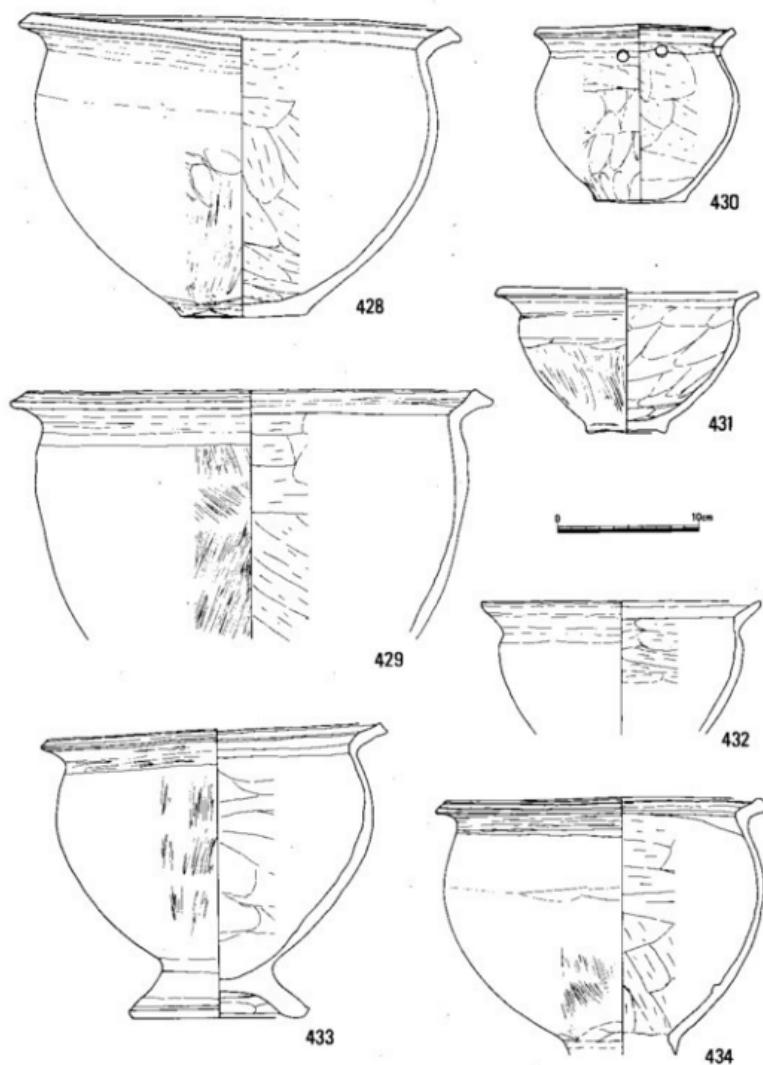


426

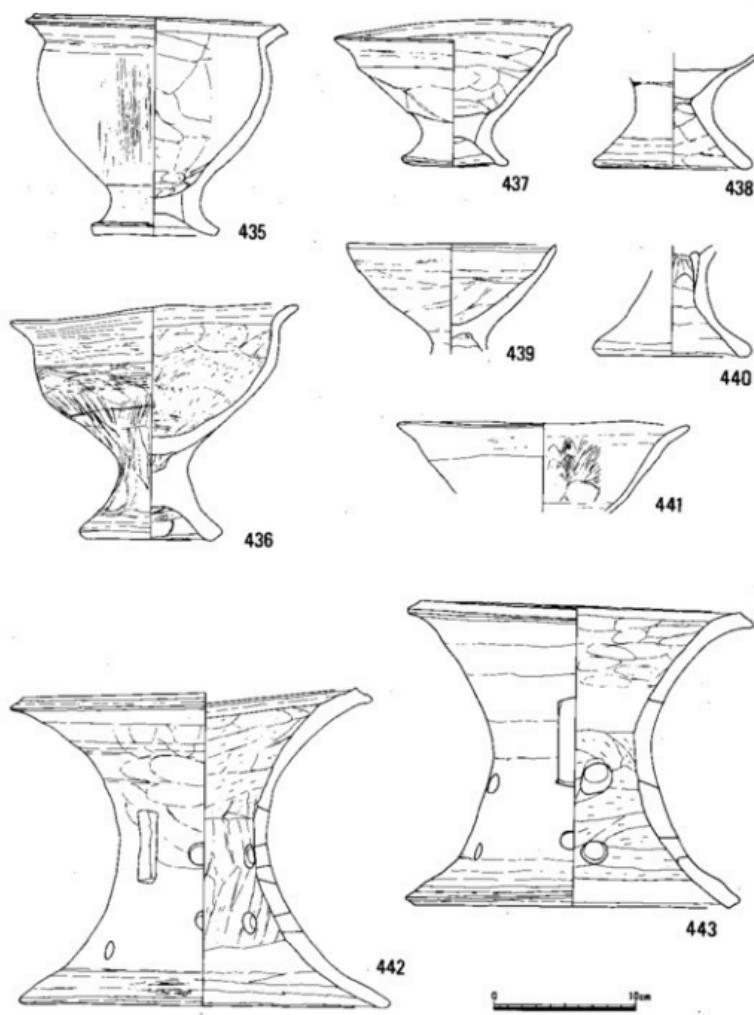


427

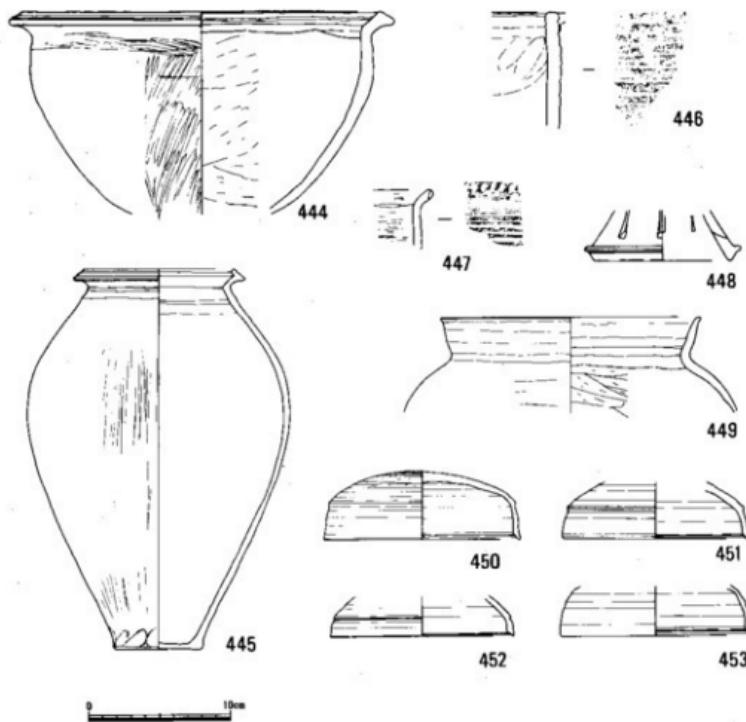
第96図 D20区3号住居址出土遺物①



第97図 D20区3号住居址出土遺物02



第98図 D20区 3号住居址出土遺物13



第99図 D20区 3号住居址付近柱穴他出土遺物

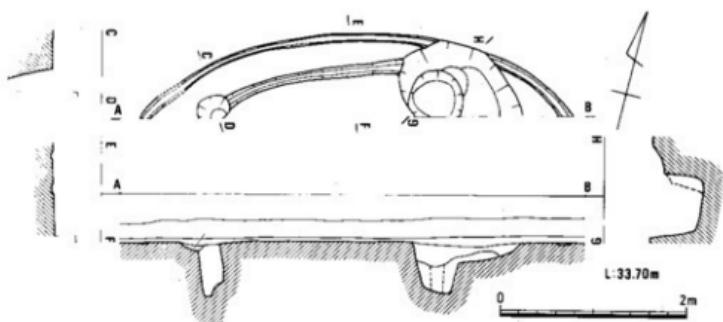
するものと肥厚しないものがある。

高杯には422～424があるが、良好な資料はない。鉢には412・425～441がある。425～427は大型の鉢で1対のU字形をした突帯を貼り付けている。428・429も大型のものである。433～441は台付の鉢であり、大小みられる。442・443は器台である。377は蓋である。407・409・411・421は混入したものと思われる。

時期は以上の土器群から百・後・Ⅱ古相（弥生時代後期中葉）に比定される。

4号住居址（第100図、図版63-1）

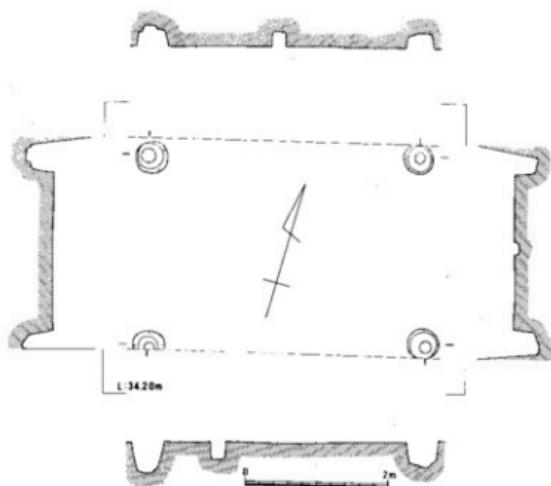
D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、2号住居址からは30m東にある。北側の一部を調査したにすぎず、大部分は未調査区域である。壁体溝が2本検出されていて、1回の建て替



第100図 D20区 4号住居址平・断面図 (1/60)

が行われたことがわかる。平面形は円形を呈している。大きさは径約7mと推定される。埋土中からは良好な遺物を出土していないため、明確ではないが、時期は弥生時代後期に属するものと推定される。

建物-1 (第101図、図版69-1、2)



第101図 D20区建物-1平・断面図 (1/80)

D20区の東西方向調査区域の東部に位置し、東端部からは35mである。調査区域の中に4本の柱穴が方形に並ぶことから1間×1間の建物と推定されるが、北と南へのびる可能性は否定できない。P1とP2を結ぶ線はN76°Eを示している。

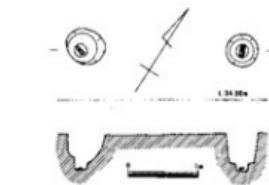
柱間はP1～P2が3.88m、P2～P3が2.7m、P3～

原 遺 跡

P 4 が3.88m、P 1～P 4 が2.7mである。柱穴は直径約50cm、深さ25～40cmである。各柱穴とも柱痕跡は明瞭に認められる。以上のことから、東西3.88m、南北2.7mの建物と判断される。

時期は柱穴から遺物が検出されていないため明確にはできないが、周辺の遺構との関連から中世のものと推定される。

建物-2 (第102図、図版69-3、4)



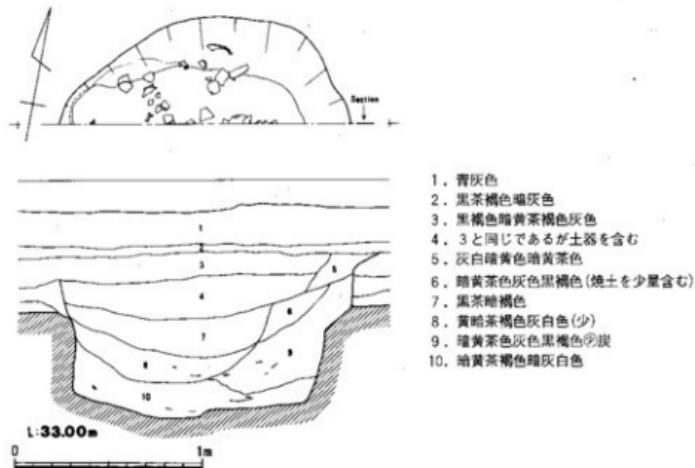
第102図 D20区建物-2平・断面図 (1/80)

D20区の東西方向調査区域の東部に位置する。建物-1から東12mである。検出された柱穴は2本であるが、いずれも礎盤があり、南へのびる建物と推定される。P 1とP 2を結ぶ線はN58°Eを示している。柱間はP 1～P 2が2.3mである。柱穴は直径42～60cm、深さ約50cmである。底部には長方形の板材を置き、礎盤としている。柱穴の状況から南北に長い建物の北端部の柱を検出したものと推定される。

時期は柱穴から遺物を検出していないが、周辺の遺構から中世のものと推定される。

井戸-1 (第103・108図、図版63-2・64-1、2)

D20区の東西方向調査区域の西部に位置し、1号住居址の2m西である。北側の約3分の1



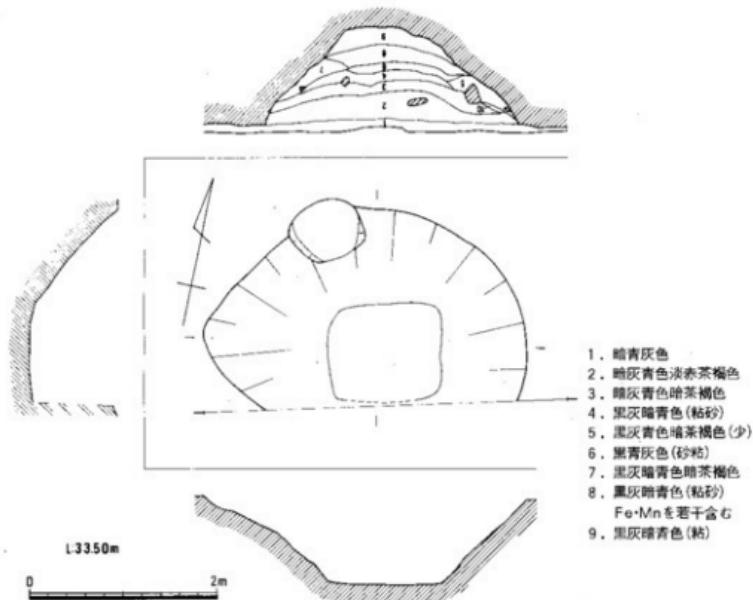
第103図 D20区井戸-1平・断面図 (1/30)

を調査しただけで、南は未調査区域に入り全容はわからない。平面形はやや不整形であるが円形を呈している。大きさは約1.6mと推定される。壁は少し傾斜していて、底部は凹凸があるものはほぼ平坦である。深さは約70cmである。埋土の状況は徐々に埋没したものと推定される。

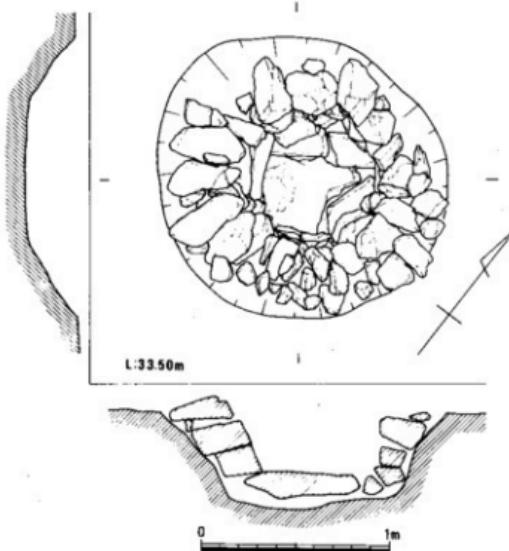
埋土中からは454～461の土器を出土した。454は朝顔形に開く壺の口縁部、455は短かい口縁部の壺、456～458は口縁部を逆L字形に折り曲げた壺の口縁部、458は鉢、460は壺の底部、461は蓋である。以上の土器は百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定される。

井戸-2（第104・108図・図版65-1～4、6）

D20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。4号住居址の13m東である。南側の一部が調査区域外になるが、ほぼ全容がわかる。北側では土壤墓1基と重複している。平面形は椭円形を呈している。大きさは東西3.45m、南北2.1m以上、深さ1.1mである。埋土は薄い層が多数あり、徐々に埋没したことがわかる。井戸はすでに崩壊していたが石積井戸であり、多



第104図 D20区井戸-2平・断面図 (1/60)



第105図 D20区井戸-3平・断面図（1／30）

数の石材が集積していた。

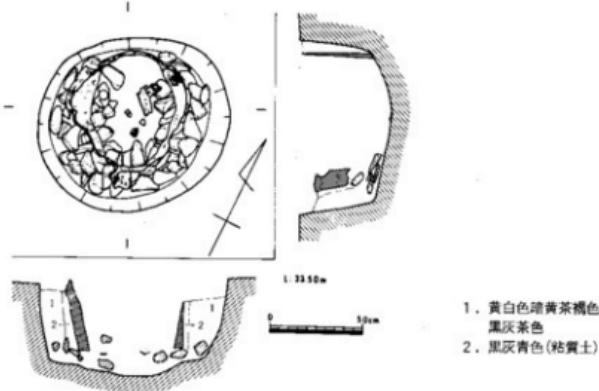
埋土中の出土遺物には、462～464の早島式の高台付楕、465・466の土師器小皿、467は白磁楕、468の土鍋がある。以上の遺物から時期は室町時代に比定される。

井戸-3（第105図、図版65-1～2・5、6）

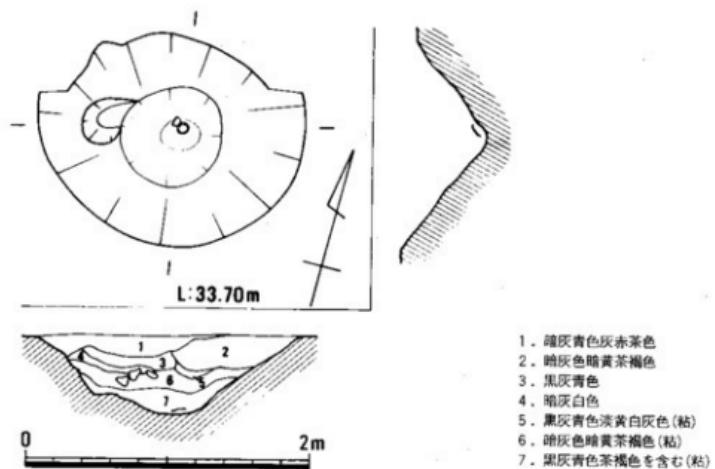
D20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。井戸-2の東側である。全体が調査された。石積の井戸である。掘り方はほぼ円形を呈し、東西1.7m、南北1.5m、深さ0.52mである。石積は底に大きな平石を置き、周囲に石を上開きに積み上げている。現存する石組みでは上部で径75cm、底部で60cmを測る。埋土中から遺物を検出していないが、井戸-2との関連などから中世に比定される。

井戸-4（第106・108図、図版66-1～4）

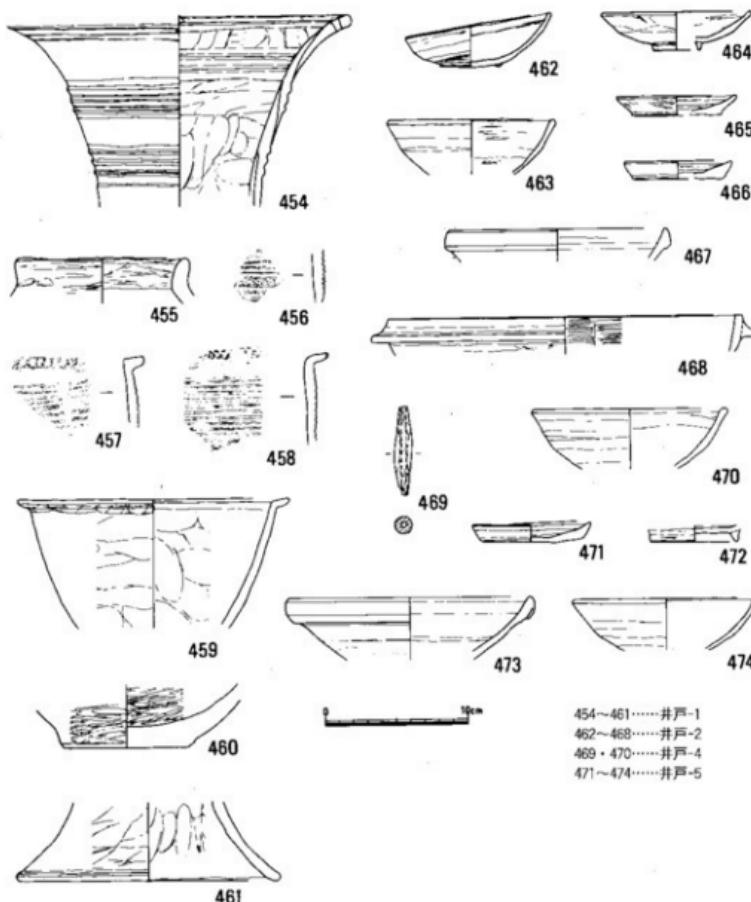
D20区の東西方向調査区域の中央部付近に位置する。内部に木製のくり抜き井戸枠を入れた井戸である。掘り方の平面形はほぼ円形を呈している。底部の周辺部に川原石を敷き、石の上にのる状況で井戸枠が置かれている。埋土中からは鍋、高台付楕、紡錘形土鐘が出土している。時期は出土遺物から室町時代に比定される。



第106図 D20区井戸-4 平・断面図 (1/30)



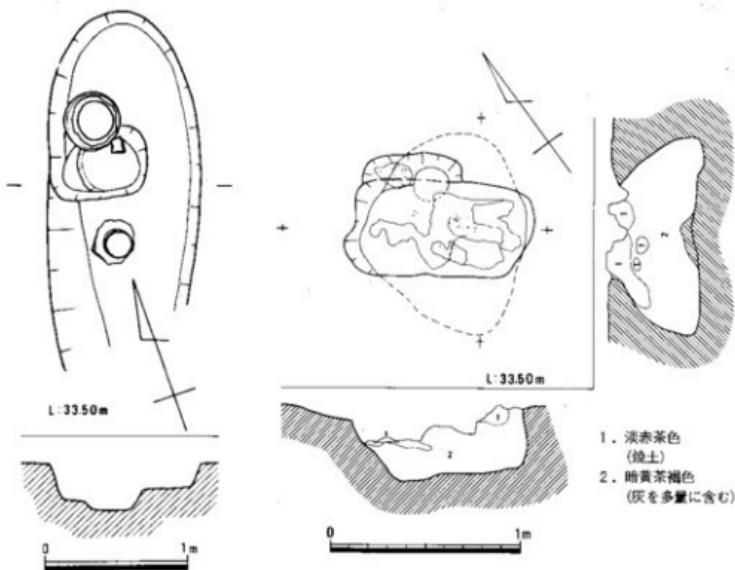
第107図 D20区井戸-5 平・断面図 (1/40)



第108図 D20区井戸-1・2・4・5出土遺物

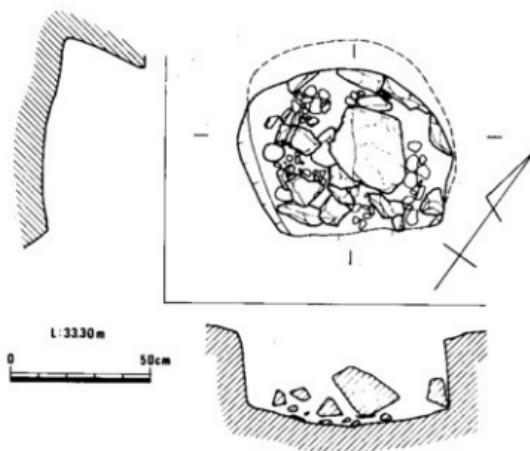
井戸-5 (第107・108図、図版67-1~3)

D20区の東西方向調査区域の東部に位置する。井戸-4から東43mである。平面形はほぼ円形を呈し、底部は擂鉢状である。大きさは長径1.9m、短径1.7m、深さ0.55mである。素掘りの井戸で石積は無い。埋土中からは、471の土師器小皿、472・474の高台付椀、473の白磁椀がある。時期は出土遺物から室町時代に比定される。



第109図 D20区土壤-1平
・断面図 (1/40)

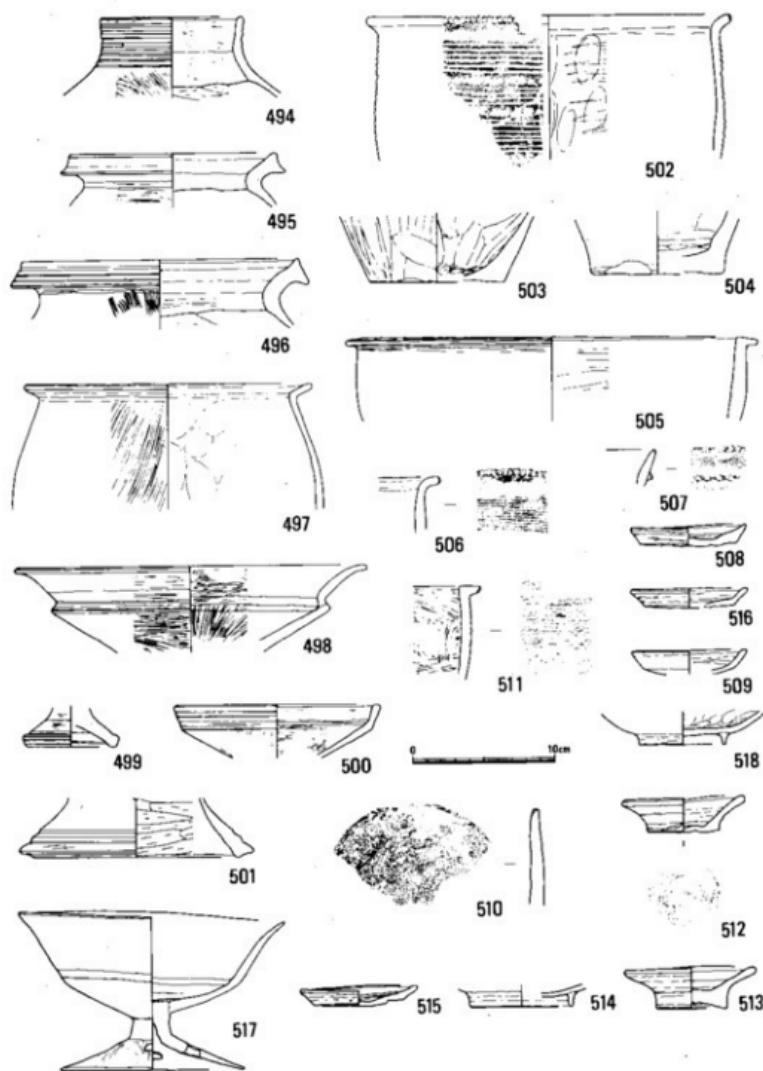
第110図 D20区袋状土壤平・断面図 (1/30)



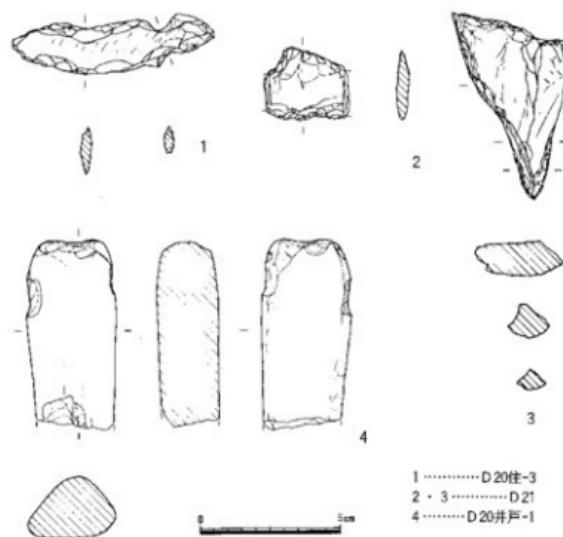
第111図 D25区土壤墓-1平・断面図 (1/20)

土壤-1 (第109図、
図版70-3、4)
D20区の西部にあり、
2号住居址の南東に位
置する。平面形は長椭
円形を呈しているが、
南側の一部は調査区域
外へのびているため全
容はわからない。大き
さは長径260cm以上、
短径110cm、深さ36cm
を測る。

埋土中から少量の土
器片が出土している。



第112図 D20区土壤他出土遺物



第113図 D20・21区出土遺物

出土遺物から弥生時代後期に比定される。

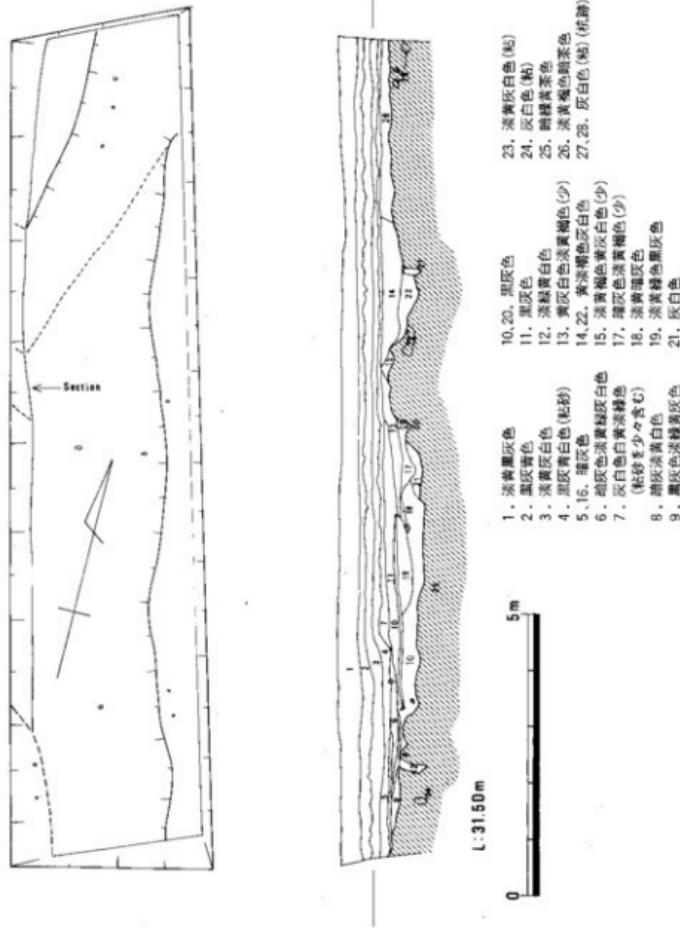
袋状土壙 (第110図、図版70-1、2)

D20区の東部にあり、建物-2の東部に位置している。いわゆるフラスコ形の土壙で、上面は長方形のプランを呈しているが、底部はいびつな三角形である。上部が削られているため、全容はわからないが、底部は長径106cm、短径88cm、深さ82cmを測る。埋土の上層には焼土塊を多量に含み、下部の埋土には灰を多く含んでいる。

埋土中から良好な遺物を検出していないことから明確な時期はわからないが、弥生時代に属するものと推定される。

土壙墓-1 (第111図、図版70-5、6)

D20区の西部にあり、井戸-2の北肩部と重複している。平面形は少しいびつな円形を呈している。北側では底部が掘り方より広くなり、フラスコ状になっている。底部は中央部が少し深くなっているが、ほぼ平坦である。埋土中には大小の角礫が多数入っている。大きな石は長径38cm、短径25cmのもので、他は径5~10cm大のものである。土壙の大きさは現存部で127×60cm、深さ35cmである。

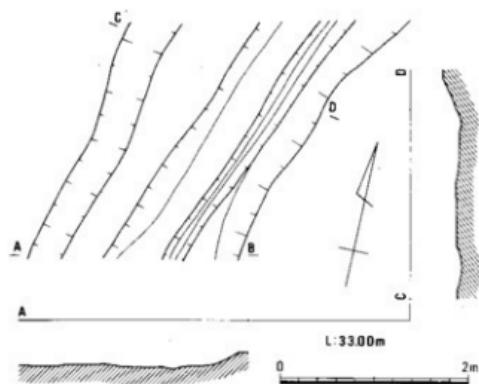


第114図 D20区西侧南北平・断面図 (1/100)

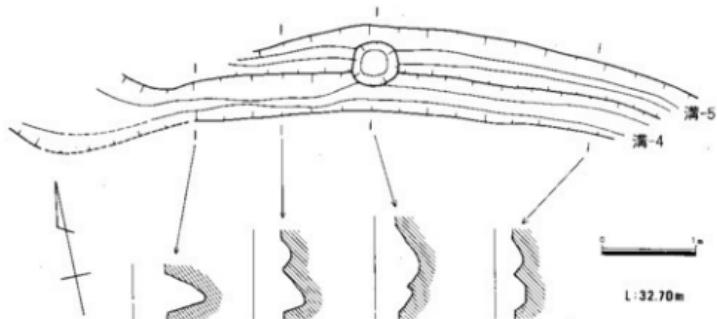
埋土中から良好な遺物が出土していないため、詳細な時期はわからないが、中世のものと推定される。

溝-1（第115図）

D20区の西寄りに位置し、ほぼ南北に流れる浅い溝である。緩やかに傾斜した幅の中央部に少し深くなったところがある。幅110cm、深さ20cmくらいである。埋土中からは弥生時代前期



第115図 D20区溝-1平・断面図（1/60）



第116図 D20区溝-4・5平・断面図（1/60）

原 遺 跡

から同中期後半の土器片が出土している。

溝-2（付図）

D20区の西寄りにあり、井戸-1の西に位置している。北西から南東方向へ流れ、幅50cmを測る。埋土中からは弥生時代中期前葉の土器片が出土している。

溝-3（付図）

D20区の西寄りにあり、井戸-1と一部重複している。北西から南東方向へ流れ、幅40cmを測る。時期はわからない。

溝-4（第116図）

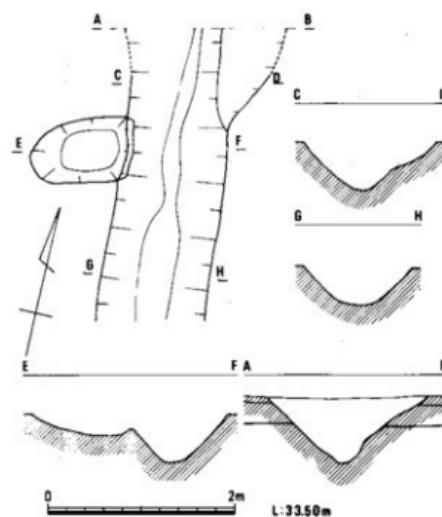
D20区の西寄りにあり、1号住居址の東側に位置している。北西から南西方向へ流れ、幅50cmを測る。埋土中からは弥生時代前期から同中期の土器片が出土している。

溝-5（第116図）

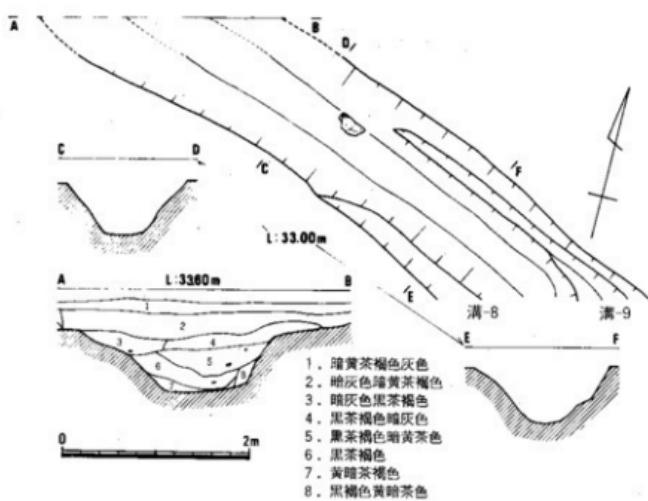
D20区の西寄りにあり、溝-4に接している。東西方向に流れ、幅50cmを測る。時期はわからない。

溝-6（第117図、図版68-4）

D20区の西寄りにあり、3号住居址の西側に位置している。南北方向に流れ、幅120cm、深



第117図 D20区溝-6 平・断面図 (1/60)



第118図 D20区溝-8・9平・断面図 (1/60)

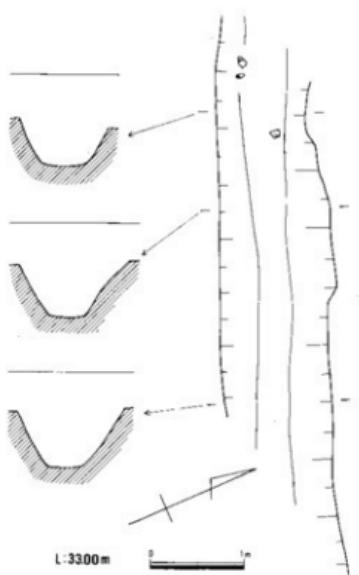
さ55cmを測る。時期はわからない。

溝-7 (付図)

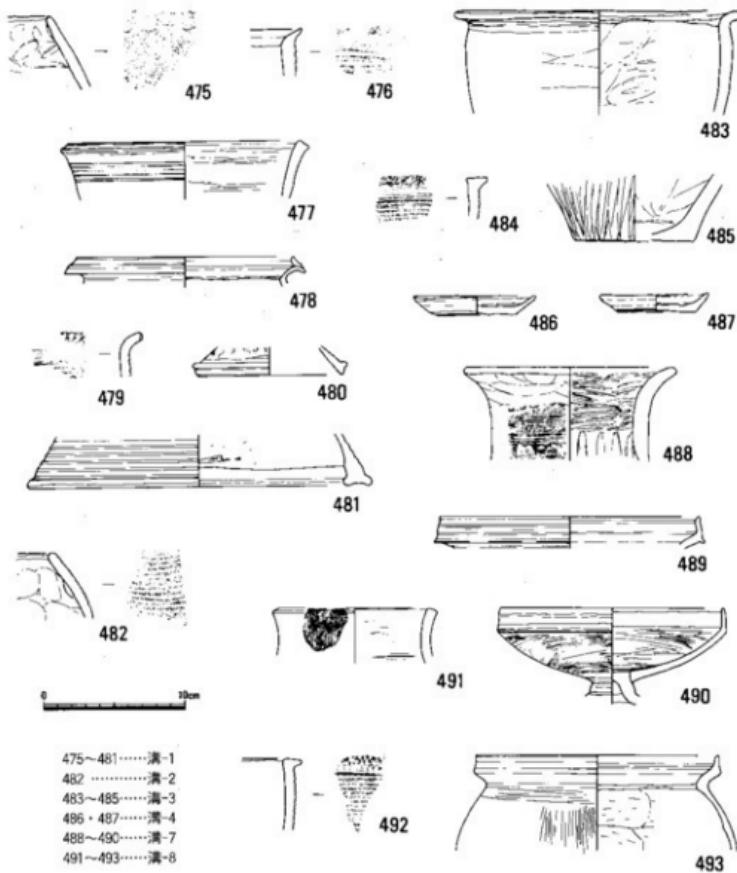
D20区の中央部付近にあり、4号住居址と一部重複している。北西から南東方向へ流れ、幅20cmくらいの小さな溝である。埋土中から第120図488~490が出土している。弥生時代前期の土器も含まれているが、百・後・Ⅲ（弥生時代後期後葉）に比定される。

溝-8 (第118図、図版68-3)

D20区の西寄りにあり、溝-4の東側に位置している。北西から南東方向へ流れ、幅130cm、深さ60cmを測る。埋土中からは第120図491~493が出土している。弥生時代前期の土器も含まれているが、百・後・



第119図 D20区溝-10平・断面図 (1/60)



第120図 D20区溝出土遺物

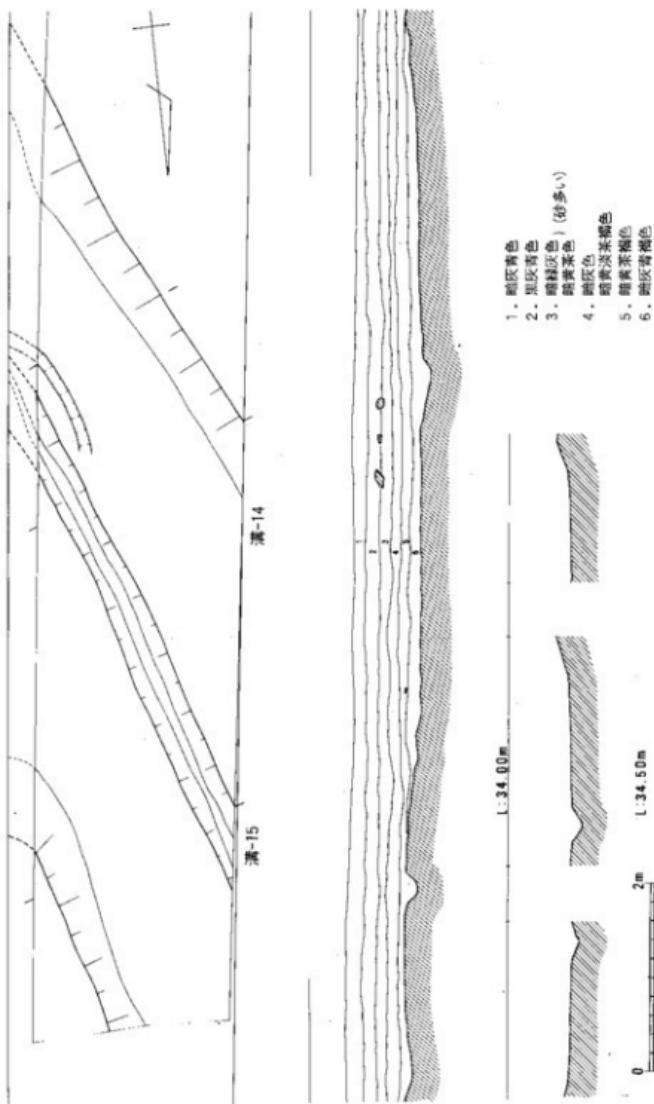
IV（弥生時代後期末）に比定される。

溝-9（第118図）

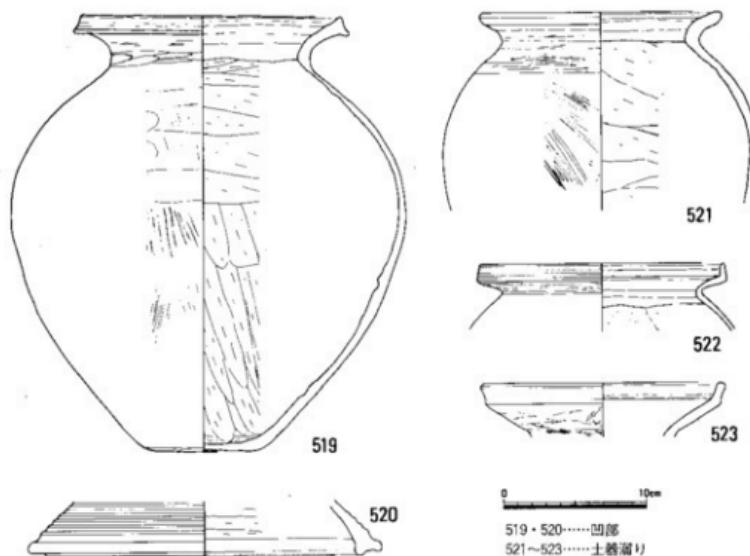
溝-8と重複し、一部南東部が残存しているにすぎない。

溝-10（第119図）

D20区の西寄りにあり、溝-4と重複している。幅120cm、深さ60cmを測る。時期は明らか



第121図 D20区東端南北北側平・断面図 (1/60)



第122図 D20区東端南北凹部・土器溜り出土遺物

でない。

溝-11（付図）

D20区の東寄りにあり、井戸-5の西側に位置する。北西から南東へ流れる溝で、幅120cmである。時期はわからない。

溝-12（付図）

D20区の中央部付近にあり、井戸-4の少し西側に位置する。ほぼ東西方向に走り、南側は消失している。時期は明らかでない。

溝-13（第121図）

D20区の南北方向調査区域の北端部に位置し、北西から南東へ流れる浅いたわみ状を呈する幅約4mの溝である。時期は明らかでない。

溝-14（第121図）

溝-13の中央部が深くなった部分で、幅45cm、深さ約15cmである。

第8節 D26区の調査

1. D26区の概要

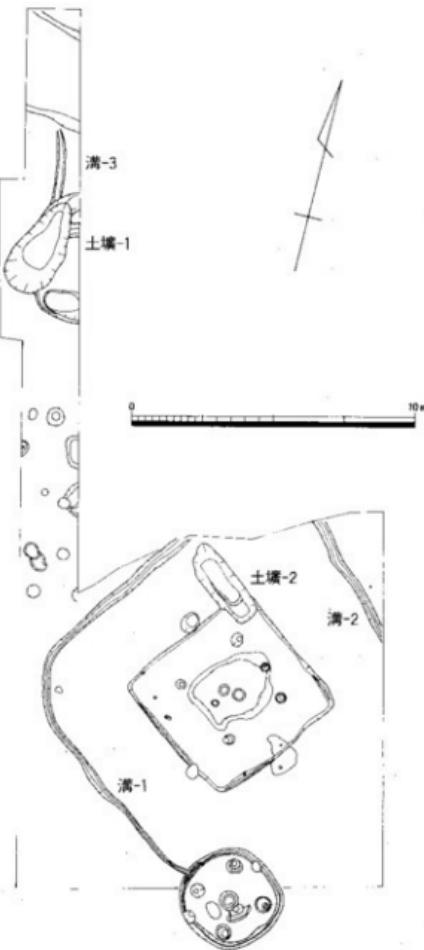
当調査区は天神山から南へのびた山裾に近く、調査対象区域の北東部にある。D20区の東西方向調査区の中央より少し西に寄ったところから北へのびる80mの範囲である。地形は南から北へ向かって緩やかに傾斜し、遺構は南寄りに集中している。主な遺構は堅穴住居址1軒、溝3本、土壌2基、ほかに小ピットが少し検出された。

2. D26区の遺構・遺物

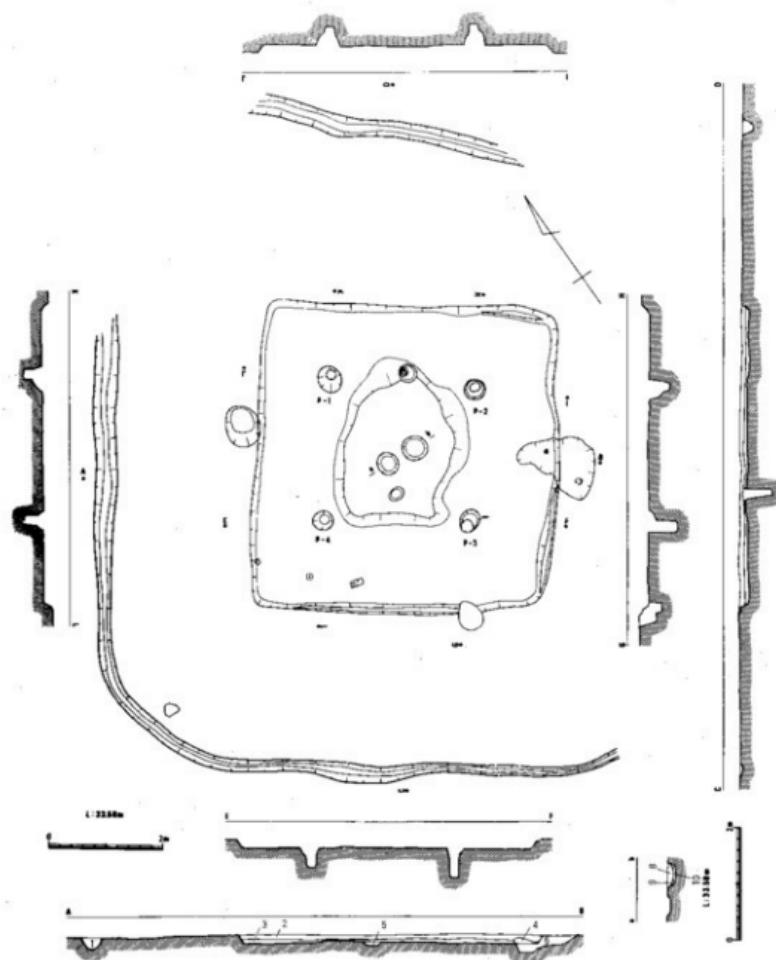
堅穴住居址（第124図、図版74-1、2・76-1）

D26区の南端部に位置する。一部拡幅を行い、住居址については全容を確認することができた。この住居址を囲むように溝が掘られているのが確認された。北側の角の一部が未調査区域になっていることから連続的に調査することはできなかったが、北東側の溝も住居址からの距離が同じで、住居址の一辺にはほぼ平行していることから、コの字状になると推定される。南東部については明確でなく、方形に囲んでいたものかどうかは確認されていない。

住居址の平面形は方形を呈している。北寄りの一辺はN53°Wを示し



第123図 D26区・同拡張区全体図 (1/200)



- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------------|
| 1. 暗茶褐色
暗黃茶色(少量) 互層 | 4. 暗茶褐色
暗灰色(少量) 互層 | 7. 黒灰色
暗茶褐色
(微少若干含む) |
| 2. 暗茶色
灰褐色(少量) | 5. 黒茶褐色 | 8. 黒灰暗茶褐色 |
| 3. 黒暗茶褐色
暗茶褐色 互層 | 6. 黒茶暗褐色 | 9. 灰褐色 |
| | | 10. 黒茶褐色
(若干の灰を含む) |

第124図 D26区拡張区住居址平・断面図 (1/100)

ている。大きさは5.5×5.4mで、ほぼ正方形である。柱穴は4本あり、柱間はP1～P2が2.6m、P2～P3が2.4m、P3～P4が2.5m、P1～P4が2.6mである。柱穴の大きさは30～50cm、深さ40～50cmである。壁体溝は確認されていない。なお、北壁には土壙-2が重複している。

周辺を埋む溝は幅15～40cm、深さ20cmあり、北側と南側の距離は11.3mを測る。住居址の壁からの距離は北側が3m、西側が2.4m、南側が2.7mである。類似した形状を示す例は、岡山県北房町谷尻遺跡⁵²2区181号住居址の例がある⁵³。谷尻遺跡の例は住居址が大きく、周囲の溝の幅も大きく、住居址を画する意図をもっていたと考えられているが、この住居址の場合は溝の幅も小さく、住居を画すると考えるよりも、排水を意図した溝と考えられる。

住居址の埋土中からは良好な遺物を出してないため、時期を明確にすることはできない。しかし、周辺部から出土遺物（第129図539～544）を参考にすると古墳時代中期に比定することが可能であると思われる。

⁵² 高知知功他「谷尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書』11 岡山県教育委員会 1976年

土壙-1（第125図、図版73-1、2）

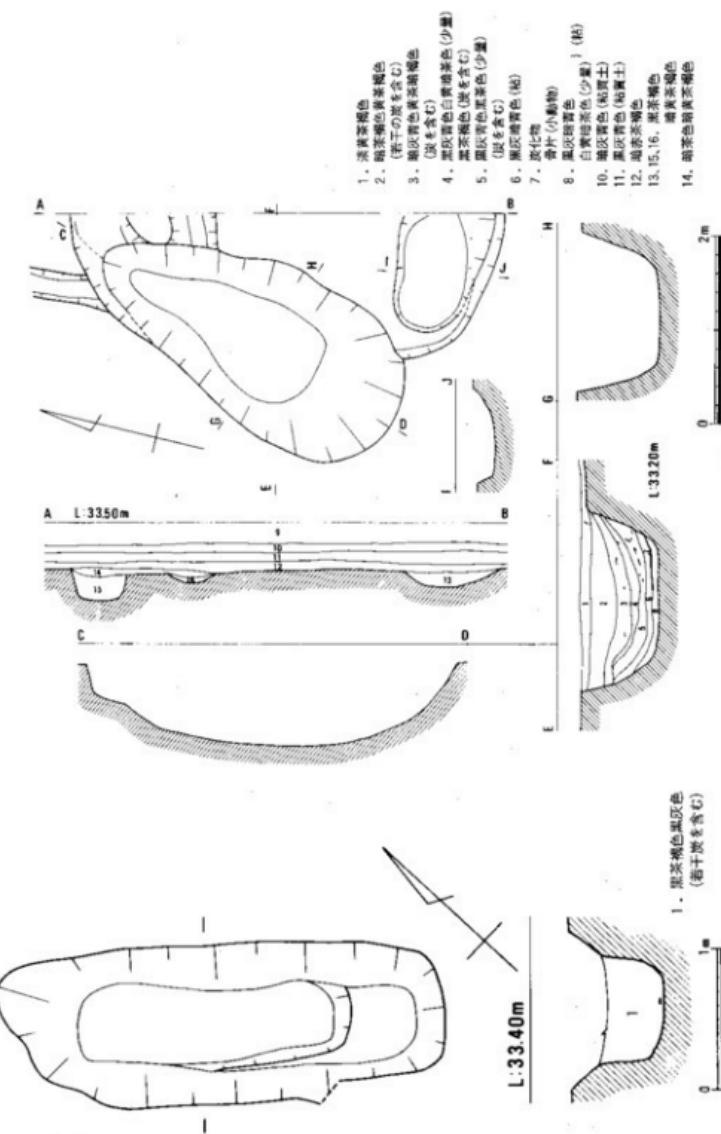
住居址の北13mに位置し、溝-3と一部重複している。平面形は一方が狭くなった長楕円形を呈している。主軸の方向はN19°Eを示している。大きさは長径350cm、短径170cm、深さ90cmである。壁の傾斜は急となり、底部は緩やかにたわんでいる。埋土は薄い層が重なり、徐々に埋没したものと考えられる。

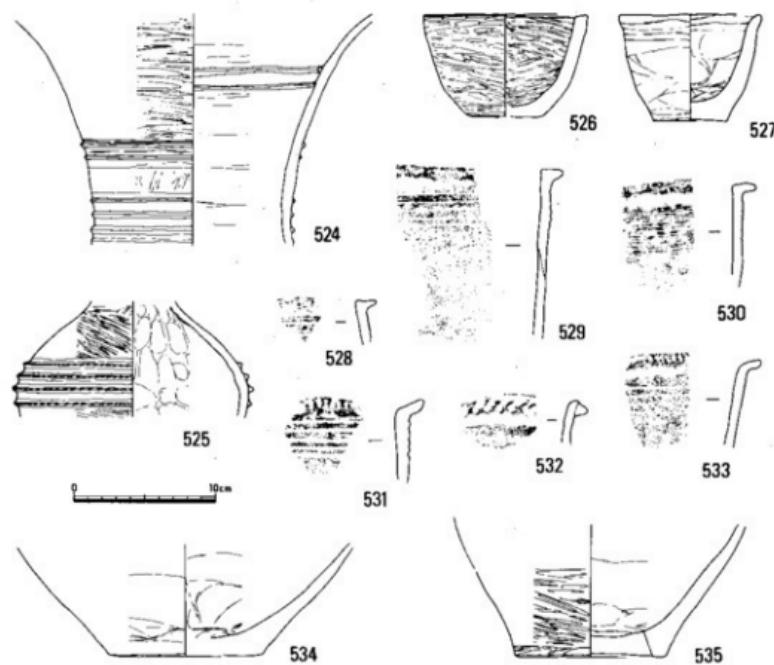
埋土中からは524～535の弥生土器が出土している。524は壺の頸部で、朝顔形に大きく開く。口縁部を欠失している。頸部には数本の貼り付け突帯を配し、内面にも2本の突帯をついている。525の壺の胴部で、胴の中央部にキザミメを施した4本の突帯を配している。526・527は小型の鉢である。器壁は厚く、底部は平底である。528～533は甌の口縁部である。528～530の口縁部は逆L字状を呈し、口縁部直下の外面へ多数のヘラガキ沈線を施している。531・533は口縁部をくの字状に折り曲げ、口縁部直下の外面にヘラガキ沈線を施している。532は口縁端部外面に斜めにキザミメを施した突帯を配している。534・535は壺の底部と考えられる。

時期は532が縄文時代後期に属する土器であるほかはいずれも百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定されることから、土壙の時期をこの時期に比定することができる。

土壙-2（第126図、図版75-1、2）

堅穴住居址の北隅と一部重複している。平面形は長方形に近い形状を呈しているが、北西側の肩部で細くなっている。基本的には隅が少し丸くなった長方形の土壙である。長軸の方向はN45°Wを示している。大きさは長径320cm、短径120cm、深さ70cmである。床面は南寄りの一





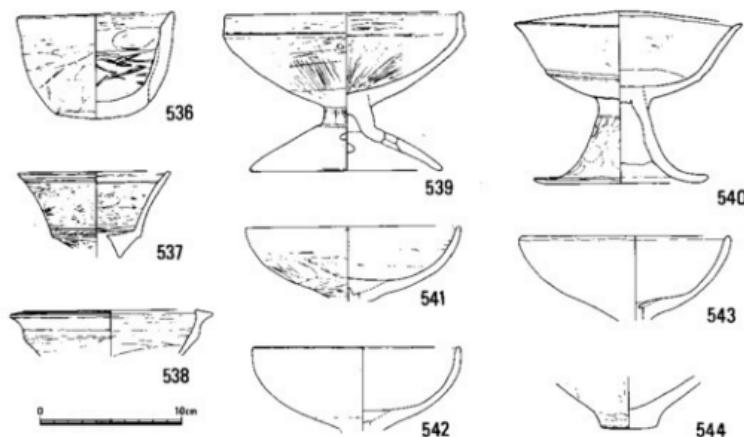
第127図 D26区土墳出土遺物

部が一段高くなっているが底はほぼ平坦である。肩部は少し崩れているが、掘り込みの傾斜はきつい。

埋土中に良好な遺物は検出されていないが、土壤-1と同じく、百・前・Ⅲ（弥生時代前期後葉）に比定されるものと考えられる。

その他の出土遺物（第128図）

遺構検出中に出土した遺物が第128図の土器である。538は弥生時代後期の鉢である。537・539・544は百・古・Ⅰ（古墳時代前葉）に比定される高杯と壺の底部である。536・541～543は百・古・Ⅱ（古墳時代中葉）に比定される高杯である。これらは竪穴住居址に伴う可能性が高い。



第128図 D26区拡張区内土壤・包含層出土遺物

表2 原遺跡水田層花粉分析表

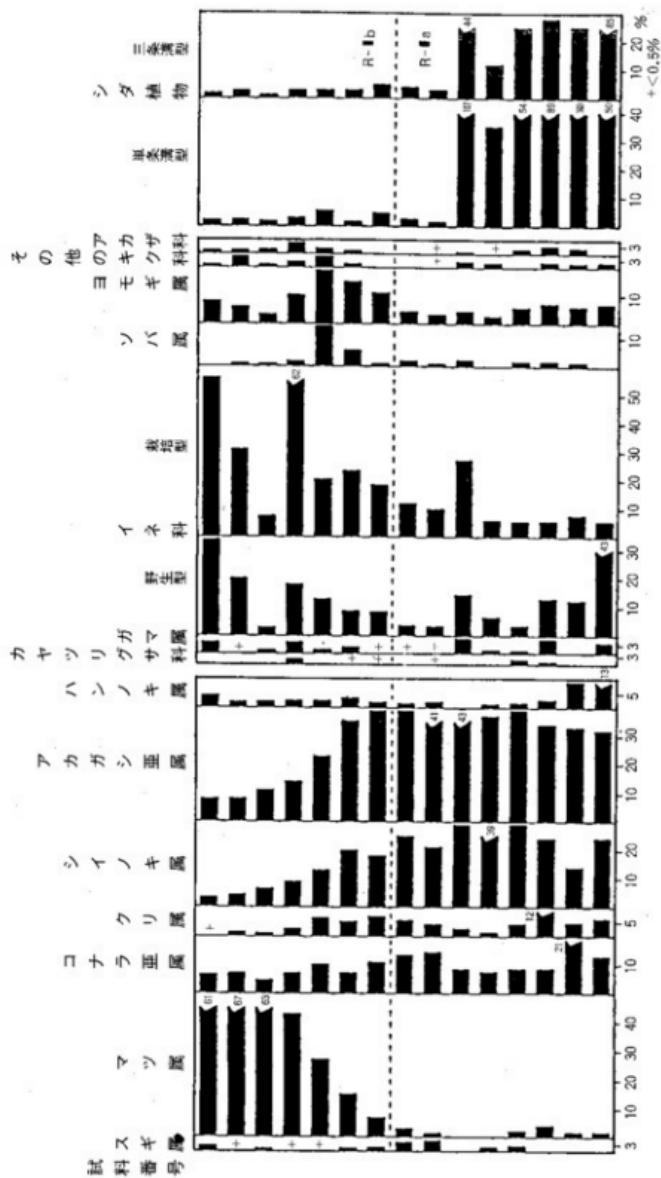


表3 原遺跡出土土器調査表

番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴		色	調	胎	土	焼成	備考
		口径	器高	底径	内側面ナメ、外側波打つ手取り	白灰色						
1	杯	舟	11.8	4.4	8.8		黒灰色(?)	溶着灰色(?)	若干砂粒を含む	褐色	D-12	E1810K面
2	杯	蓋	12.4	4.1	—	外邊上部へ手取り	黒灰色(?)	溶着灰色(?)	かなりの砂粒を含む	褐色	S1403	
3	—	—	—	—	—	外邊上部へ手取りのものナメ仕上げ	黒青灰色	—	かなりの砂粒を含む	褐色	—	(焼成中?)
4	彫形土器	13.2	—	—	口縁部ナメ、体側面へ手取り、外邊施いヶナメ	黒青灰色	—	かなりの砂粒を含む	褐色	—	S1802	
5	—	14.1	—	—	—	—	白黒灰茶色(?)	溶着灰色(?)	相違なし	褐色	—	
6	彫形土器	18.0	—	—	口縁部外側は木の凹線、体側内面へ手取り、外邊施いヶナメ、内外面均整り	白黒灰茶色(?)	溶着灰色(?)	かなりの砂粒を含む	褐色	—	—	
7	—	15.6	11.0	3.7	口縁部外側へ手取り、体側内面へ手取り、外邊ナメ仕上げへ手取り	淡黄褐色	—	かなりの砂粒を含む	褐色	—	—	
8	渦形土器	13.9	—	—	口縁部外側ナメ、体側内面はヘミガタ、外側へラミガタのちナ	茶褐色	—	かなりの砂粒を含む	褐色	—	—	
9	—	—	—	—	口縁部外側へ手取り、体側内面へラミガタ、外側へラミガタのちナ	茶褐色	—	水こし仕上げを含むもの	褐色	—	—	
10	—	18.5	11.4	13.8	外側全體へミナメ、研磨面若千残りあり	淡黄茶色	—	かなりの砂粒を含む	褐色	—	—	
11	—	12.3	12.6	12.2	軽井澤型(?)丸(?)、外邊上半ナメ、下半へ手取り、口縁部外側へ手取り	青茶色(?)	—	水こし仕上げの脱入(?)	褐色	—	—	
12	杯	蓋	14.2	3.8	—	外邊下部ナメ、上半へ手取り、口縁部外側へ手取り	青灰色	—	水こし仕上げを含む土を用いて	褐色	S1405	
13	杯	舟	12.7	3.25	—	外邊部ナメ、外邊部へ手取り	青茶色(?)	—	かなり砂粒を埋入している	褐色	S1305	赤面
14	彫形土器	16.1	19.0	6.3	口縁部内側ナメ、輪郭外側指印は、体側内面へ手取り、底面へ手取り	青茶色～青褐色	—	小石(5mm)などの細砂を含む	褐色	—	S1805	
15	—	18.65	—	—	口縁部内側ナメナメ、外邊波打つ。体側内面指印ナメ、外邊クレジット	溶着茶色(?)	溶着茶色(?)	多量の粗砂を含む	褐色	—	—	
16	—	16.0	—	—	口縁部内側ナメナメ、体側内面へ手取り	白青灰色	—	粗砂がかなり含む	褐色	—	—	
17	彫形土器	24.1	—	—	口縁部内側ナメナメ、体側内面へ手取り、外邊クレジットナメ仕上げ	内：白青灰色 外：青褐色	—	多量の粗砂を含む	褐色	—	—	
18	こしき	28.3	28.5	16.3	口縁部内側ナメナメ、体側内面へ手取り、外邊へ手取りのちナメ仕上げ	青褐色	—	多量の粗砂を含む	褐色	—	S1807	
19	杯	蓋	5.3	10.9	内邊ナメナメ、外邊下半ナメ	青灰白色	—	かなり砂粒を含む(1~3mm)	褐色	—	—	

20	高杯形土器	20.0		内外共にナデ仕上げ	内：青系色～暗茶色 外：白質淡茶色～暗茶色	多量の細砂を含む	普通		
21	壺形土器	4.2	8.1	4.2	内面磨上ナデ、体部内面指摩擦、外腹へタミナギ（注口付き） 白淡黄色、深褐色の化粧土あり	水こしにご存知細砂が混入	一	SH010	
22	分離毛土器					かなり細砂を含む	良好		
23	壺形土器	16.25		口縁中段ナギ、体部内面半上半ヘタリ。下半クレ日。外腹下半ヘタリナギ	内：淡茶色～墨茶色 外：淡茶色～墨茶色	細砂はかなり含む	一		
24	"	16.8	"	" ・体部内面ヘタリ、外腹ヘタミナギ	暗茶色～墨茶色 白淡黄色	若干の細砂及び2～3mm以下 の小石を含む	一		
25	壺形土器	17.6		" ・体部内面ヘタリ、外腹クレ日	茶淡褐色	多量の細砂（1mm級大約5wt%） を含む	一		
26	壺形土器	12.6		口縁外ナギ、体部内面指摩、外腹ヘケナギ	白淡褐色	かなりの細砂を含む	一		
27		3.6		体部内面ヘタミナギ	白淡褐色	多量の細砂を含む	普通		
28	台付鉢形土器		8.6	輪形内面ナギ、輪形内面ヘタリ割り、外腹上半ヘタミナギ、ヘラ先 端部突起あり	内：青茶褐色の化粧土同じ 外：青茶褐色～墨茶色～黑色	多量の細砂を含む	一		
29	底形		7.9	内面ヘタリ、外腹ヘテ弾え	外：大部分茶褐色～墨茶色～黑色	かなり細砂を含む	良好		
30	取手			波状文あり、ヘタリ割り（底手筋部）					
31	高杯形土器	16.7		口縁外ナギ、内面ナギ、外腹ヘタリ	淡茶色	細砂を含む	良好		
32	"	22.9		" ・内外腹ヘタミナギ、 ・内面ナギ、外腹ヘタリ	茶褐色	かなり細砂を含む	一		
33	"	22.7		" ・外腹もとの凹陷、内腹下半クレ日、外腹下半ヘタ日	淡茶色～墨茶色	細砂をかなり含む	一		
34	"	11.9		" ・外腹もとの凹陷、内腹下半クレ日、外腹下半ヘタ日	白質茶色	かなり細砂を含む	一		
35	"	12.7	"	" ・内腹下半ヘタ日	赤茶色	細砂を含む	一		
36	器合形土器		18.2	内面ヘタリ割りのヘタ跡え。	内：墨茶色 外：深灰茶色	細砂を含む	一		
37	壺形土器	15.8		内面ナギ、外腹モチナギナ	白淡褐色	多量の細砂を含む	一		
38	"	24.0		内面指摩ナギ、外腹ヘケナギ、口縁外周に竹筋文があり	白淡黄色	かなり細砂を含む	一		
39	"	25.5		口縁外周に5本の弦紋、内腹ナギ仕上げ	白淡黄色	多量の細砂を含む	一		
40	"	13.2		口縁外周ナギ、体部内面クレ日、外腹ヘタミナギのちクレ日 口縁外周に3本の弦紋、内面ナギ、体部外周クレ日	内：淡茶色～墨茶色 外：白質茶色	水こし軸に細砂を混入した と植上	一		
41	壺形土器	12.8			淡灰茶色	細砂を含む	一		
42	"	14.9		口縁外周ナギ、体部内面ナギ、外腹ヘタリ、外腹上部ナギ、下サカラ目 内：墨茶色～墨茶色 外：白質茶色～墨茶色	白質茶色	細砂を含む	一		

43	"	11.1		口縫内外面ナゲ、体側部ヘラ削り、外端ヘタチナ上げ	白淡茶色	細砂を含む よく詰っている	良好	S(2)	
44	壺形土器	12.0		" "	内：黄淡茶色 外：化粧土（白淡茶色）	かなりの細砂を含む	"	"	
45	底 部		6.1	外端ヘタチナゲ	内：白淡黄色 外：墨色	"	"	"	
46	"		5.2	口縫内外面ナゲ、杯内ヘタミガタ、断面内面上部ナギナ	黒灰色・暗茶色	水こし粘土に若干の細砂を含む	"	"	
47	萬杯形土器	21.6	23.0	口縫内外面ナゲ、杯内ヘタミガタ、断面内面上部ナギナ、下部ヘラ削り、外端ヘラ削り	内：暗赤茶色～暗茶褐色 外：暗赤茶色～暗茶褐色	多量の細砂を含む	"	"	
48	"	25.2		口縫内ナゲ、外端ヘタミガタ、ヘラ削り	白淡茶色	粗砂・細砂を含む（水こし粘土の中に）	"	"	
49	壺形土器	13.3		内面ヘタミガタ、外端ヘタミ所に凹痕と鉛筆文	"		S(2)地質土石面		
50	" (7)			内外面ナゲ仕上げ、4本の私リ付け裏文	内：闇紅白色・白淡茶色 外：闇色	多量の細砂を混入している	普通	"	
51	壺形土器	23.2		口縫前面3本の凹槽、内外面ヘタ削りのうちクシナゲ、外端ヘラ削り	白淡茶色	かなり細砂を混入した粘土十 字窓面	S(2)地質土石面		
52	壺形土器	12.7	16.7	口縫、頭部内ナゲ、体側内面ヘラ削り、外端ヘタミガタ、底部 あり	透眞白茶色～透明茶色 内：白淡茶色 外：白淡茶色～透明茶色	細砂をかなり多量に含む	"	土窓面	
53	"	9.0		口縫上部竹管穴、施錆跡複数、体側部ヘラ削り、外端ヘタミガタ 手	外層一郎黑ハ 内：白淡茶色	粗砂・繊物が多量に含み砂っぽい	普通		
54	"	31.3		内面端丸れナゲ仕上げ	内：白淡茶色 外：白淡茶色	多量の細砂を混入、 砂	S(2)地質土石面		
55	"	26.0		口縫外壁3本の凹みあり、内面ヘタ削りのちナゲ、外端ナゲ	白淡茶色	かなりの細砂を混入している	"	"	
56	壺形土器	13.8	6.0	内面ヘタ削り、扁部ナゲ、外端ナゲ、見通しの穴あり	黒茶褐色	かなり多量の細砂を混入して いる	"	S(2)地質土石面	
57	壺形土器	15.8	10.2	内面削テのち上巻ヘタ目、外端端部にクレ日	黒淡茶色、外端部茶色の部分 もあり	多量の細砂を含む	"		
58	器台形土器		21.9	内端ヘタ削り、ナゲ、外端ナシ目、數本の凹槽	内：白淡茶色 外：白淡茶色・黄淡茶色、淡茶色	細砂かなり粗大、 粗大	S(2)地質土石面		
59	"		25.6	内面ヘタ削り、下率ナゲ、外端クサ枝工具、7本の凹槽	白淡茶色	かなりの粗砂を混入、	"	"	
60	壺形土器		7.3	肩押えナゲ、點打け高台	"	水こし粘土に粗砂を含む	"		
61	壺形土器		7.2	片版ナミガタ、外端ナシ目、點打け高台	内：墨色 外：白淡茶色	若干の粗砂を含む	良好	D-12 no 1 (gr)	
62	小 三	8.0	1.1	内外面ナゲ仕上げ、壁面ヘタおこし	白淡茶色	水こし粘土であるが粗砂が多 い	普通	no 2 (gr)	
63	"	7.2	5.0	"	外：白淡茶色	粗砂を多量に含む多 い	"	"	

64	杯	身	11.1	4.5	内面至上面チヂ。外ド平へり	滑特灰色	若干砂粒を含んでいる	良好	包含層
65	小形砂土器		2.8		内面ナメ。外面ト半ナメ。下面ハケ状工具によるナメ	滑特灰色。外のド平の黑色	粗砂(0.1mm以下)を混入	"	水路側面
66	椭 形 土 器	14.7	6.5	6.7	滑厚えのち土ナメ。内面	外：素面白色 内：素面。底：黑色	水こしも粘土を用いている	"	底
67	"	15.1	6.5	6.4	"	外：素面。底：黑色	粗砂粘土に若干の砂粒を含む	"	メイン水路。内面底部下
68 小	皿	10.3	2.6	5.8	内外面ナメ仕上げ	滑特灰色	"	"	包含層
69	"	10.1	2.7	4.6	"	明滑素色	若干砂粒を混入している	D-12 (地水路)	
70	"	10.05	2.4	4.1	"	淡灰本色	かなり粗砂を含む	"	
71	"	9.9	1.8	6.55	"	内：素面白色。底土：暗茶褐色 外：素面本色	"	"	表段
72	"	10.0	2.0	6.2	"	暗茶褐色	粗砂から含む	"	
73	"	7.9	"	"	"	乳白色	水こし	"	底面
74	"	6.5	0.95	7.0	"	白滑素色	水こし、水っぽい	"	
75	椭 形 土 盆				"	内：素面白色(内上)。底茶褐色(内下)	かなり粗砂を含む	"	D-19 SHB2
76	"				"	内：素面～墨褐色(内) 外：暗茶褐色(外)	粗砂砂をかなり含む	"	
77	"				"	内：素面	かなり粗砂を含む	良好	
78	"				"	黑褐色	粗砂砂をかなり含む	"	
79	"				"	内：墨褐色 外：素面	多量の砂粒(最大2 mm)を含む	"	S1H03
80	"				"	内：素面	かなり粗砂を含む	"	S1H02
81	"				"	内：墨褐色 外：墨火色	若干砂粒を含む	"	
82	"				"	滑特灰色	粗砂砂をかなり含む	"	S1H03
83	"	14.0			内面ナメ。外面ハケナメ	内：素面白色 外：素面	かなり粗砂を含む	"	S1H02
84	椭 形 土 器	16.0			内面ナメのちハケ。外面ハケ	白滑素色	かなり粗砂を含む	"	
85	砂 瓶 席				"	滑特灰色	粗砂砂を多く含む	普通	
86	"				"	内：素面白色 外：素面	多量粗砂を含む	"	
87	椭 形 土 盆	9.9			内面内小面施釉え。弱凹の外面部ナメ	内：素面	かなり粗砂を含む	"	S1H03
88	"	15.2			体部内面ハケあり。外面、底部内面はナメ	内：素面	粗砂砂をかなり含む	"	
89	"	21.2			"	上部二外腹ナメ	かなり粗砂を含む	"	

90	變形土器	19.4		内側面ナデ仕上げ 裏面内面へラ削り、上半ナダ、外面ナダ	白黄色~稍黄色 外：白色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	かなり擦耗を含む 擦耗を含む 若干の擦耗（0.1mm以下）を含む 若干の擦耗（0.5mm前後）を含む	良好	SH300	
91	"	18.6		内側全体へラ削り、上半ナダ、外面ナダ	白黄色 外：白色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	若干の擦耗（0.1mm以下）を含む 若干の擦耗（0.5mm前後）を含む	"	"	
92	"	18.2		内側全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	白黄色 外：白色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	若干の擦耗（0.1mm以下）を含む 若干の擦耗（0.5mm前後）を含む	"	"	
93	"	15.0		"	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	若干の擦耗（0.1mm以下）を含む 若干の擦耗（0.5mm前後）を含む	"	"	
94	"	18.0		"	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、外面ナダ（底縁2本）	若干の擦耗（0.1mm以下）を含む 若干の擦耗（0.5mm前後）を含む	良好	SH312-1	
95	土 玉			表面面にへラ削りによる軽度変形	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
96	"			内側全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH312-2	
97	底 瓢			内側全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
98	脚 部			内側全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
99	高杯形土器			内側全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
100	底 瓢			内面クレ目が残る	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側削り、底部へラ削り	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
101	分断形土器Gn			内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303-2-3	
102	鉢 形 土 器	21.8	17.6	7.0	内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303 西側（中央北隅）
103	高杯形土器			内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側へケリ（裏付箇所）	細部多く擦耗入 かなり擦耗を含む 細部多く擦耗入	良好	SH303	
104	"	22.0		内面全体へラ削り、颈部削り、杯十底ナダ仕上げ	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	(2次) SH303 中段右（中央北隅）	
105	"	16.5		内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	SH303	
106	林 形 土 器	17.0		内側全体へラ削り、颈部ナダ、内面全体へラ削り	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、颈部ナダ、内面全体へラ削り	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	SH303	
107	盆 形 土 器	22.5		内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	SH303	
108	"	18.7		内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体へラ削り、外側上半ナダ、下半へミガタナダ	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	SH303	
109	"			内面全体ナダ（？）	白黄色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体ナダ（？）	細部多く擦耗入 細部多く擦耗入	良好	SH304 中段右（南側）	
110	盆 形 土 器	13.7	5.4	ハクリのため不規	黄茶色~赤茶色 外：深灰色 内：深灰色 内面全体ナダ（？）	多量の擦耗を含む 擦耗を含む	良	"	
111	高杯形土器	16.8		内側全体へラ削り、杯内ナダ、底部へラ削り	丹塗り（朱漆色） 外：深灰色 内側全体へラ削り、杯内ナダ、底部へラ削り	水こしへ仕上げを含む 水こしへ仕上げを含む	良好	"	
112	"			外側へラミガタ、杯内ナダ、底部へラ削り	外：深灰色 内側全体へラ削り、杯内ナダ、底部へラ削り	水こしへ仕上げを含む 水こしへ仕上げを含む	良好	"	

115	高杯形土器	23.4	内面削	黄淡黄色	かなり粗砂を含む	良好	"
114	"	20.8	内外へラミガキ、下面部カット。外腹上ナメ。中へラミ削り、下根	淡赤黃色	"	"	"
115	高形土器	37.2	内外へラミガキ、嘴部に"S"字點付青帯文、竹管文	白淡黄色	水こしき土に若干の粗砂を混入したものの	用地外出土	"
116	高形土器	13.9	内面へラミ削り、外腹ナメ。一部分にハケ目あり	白淡黃色・黒褐色	多量の粗砂を混入	普通	土器刷り-1
117	"	19.6	内面へラミ削り、口縁部ナメ	黄赤褐色	数多量(多く)付近入	"	"
118	"	15.3	口縁内側へラミ削り	白淡黄色	多量の粗砂を混入	普通	"
119	高形土器	13.1	"	内・外・白淡黄色	"	普通	"
120	高形土器	16.4	口縁内側ナメ。体部内面へ削り、外腹ナメ。施部位ナメ	茶褐色	"	"	"
121	高形土器	14.4	体部内面へラミ削り、口縁内側ナメ。外腹ナメ	暗黃褐色	若干粗砂混入	良好	D-19 土器刷り-1
122	高形土器	14.9	体部内面へラミ削りのちナメ仕上げ。外腹上ナメ、体部ヘケ目	内面部分黒色 口縁部の一部白淡黃色	若干小石(1~2mm)を混入	"	外剥離部で2次焼成の 鐵打着
123	高形土器	17.5	体部内面へラミ削り。口縁内側ナメ。外腹ナメ	黄褐色・淡茶色	多量の粗砂混入	普通	土器刷り-1
124	高	杯	17.2	10.3	杯・脚部分共にヘラミガキ、口縁内側ナメ	水こし粗砂を混入している。	良好
125	台形土器	6.8	体部内面削れヌ、外腹と内縁内削へラミガキ。脚外側ヘラミガキ	淡茶色 淡綠色(?)	かばな形細孔を施入したもの	"	(2次)土器刷り-2(SK.)
126	合体燒粘土器	11.3	4	内面ヘケナメ。外腹はクレ付工具。指摩き。ナメによる仕上げ	淡茶色 淡綠色(?)	かなりの粗砂を施入した粘土	"
127	高形土器	12.0	4.9	3.7	ハクリ(ため不規)	多量の粗砂を混入	土器刷り-2
128	高杯形土器	20.4	内面へラミガキのちナメ仕上げ。外腹裏縁へラミガキ。下半 はものへあき	白淡黄色 淡綠色の化粧土を施してい	水こし粗砂を混入していないものらしい。	やや不良	(2次)土器刷り-2(SK.)
129	林形土器	33.8	体部内面削り。口縁内面及び外腹全體ヘケナメ	茶褐色	かなりの粗砂を混入	良好	土器刷り-2
130	高形土器	17.7	口縁内側ナメ。体部外腹へ削り、内面へラミ削り	"	多量の粗砂を混入	下段 SK02	"
131	"	15.9	"、体部外腹へ削り、内面へラミ削り	内・外白淡茶色(?)	多量の粗砂を混入	良好	SK02
132	"	16.8	"、体部内面へ削り	多量の粗砂(1.5~2mm前後) を混入	多量の粗砂を混入	"	"
133	"	19.7	"	多量の粗砂を混入	普通	S3003	"
134	"	15.8	"、体部内面へ削り	茶褐色	かなりの粗砂を混入	良好	S3002
135	"	16.3	"	茶褐色	微細砂をかなり混入	"	"

136	變形土器	15.0	口輪外ナデ、体部内凹へラ剥り 体部内面に指痕	青蒼色	わざかに輪状突起入 多量の糞便跡を混入	良好	SOD10
137	"	8.8				"	"
138	鉢 形上 烧	7.7	4.2	2.5 内面へケ状工具、外壁断脚入	赤茶褐色	かなりの輪状突起入 糞便多量	"
139	"	12.45	7.0	3.5 内面へケ状工具、下部剥離入	茶淡褐色	かなりの輪状突起入 糞便多量	"
140	鉢	部		4.2 内面へラ剥り、外面へケ目	内:白淡蒼色、外:青紫褐色	多量の糞便跡を混入	"
141	高杯形土器	16.6		内面ナデ仕上げ	内:青紫色 外:白淡茶色	多量の糞便跡を混入 普通	"
142	"		18.0	内面糊いナケ目	内:淡蒼色、外:青紫褐色	かなりの輪状突起入 糞便常有	良好
143	變形土器	14.1		"輪"外ナデ、体部内面へラ剥り、外面ハケ目	青蒼色、體部黒褐色	かなりの輪状突起入 糞便常有	"
144	"	18.6		体部内面へラ剥り、外面ナデ	黄茶褐色	かなりの輪状突起入 糞便多量	D-13 pH3
145	底	部		6.8 " 外面糊いナケ目	白淡茶褐色 ~ 黑色 (L)	かなりの輪状突起入 糞便常有	"
146	高杯形土器	21.6		内面ナデ。外面上部ナデのちハヤ、下部へラ剥りのちナデ	淡蒼茶褐色	多量の糞便入	"
147	盆 形 土 器	10.6		内面糊えのちナデ、外面へラ剥りのちナデ	白黄茶褐色、黒・シ	糞便多く含む	SOD11
148	變形土器	27.4		内面ナデ。外面糊えのちナデ	白淡茶色	多量の糞便跡入	"
149	"			手形色 (下) 手形各部位色 (上)	糞便多量入	良好	"
150	"			青蒼茶褐色	かなりの糞便跡入	"	"
151	"			内面ナデ仕上げ	青茶褐色	多量の糞便跡入	普通
152	"			"	玉ね色	かなりの糞便跡入	"
153	"			"	白淡茶色	かなり多くの糞便入	"
154	"			手形茶褐色	糞便多量入	"	"
155	"			淡蒼茶色 (内板上)	かなりの糞便跡入	"	"
156	"			内面ナデ仕上げ	青蒼茶褐色	若干糞便入	"
157	"			内面糊えナデ仕上げ	黒褐色、黑色 (小)	かなり糞便入	"
158	"			内面ナデ	黑褐色	かなり糞便跡入	"
159	"		6.7	灰褐色面へラ剥え。	糞便多量、糞便色	"	"
160	"		7.8	外正面ミガキ、内面はハクリして青緑	淡蒼色	多量の糞便入、0.2~1 mm	"
161	"		7.4	内面糊えナデ仕上げ、外面下部ナデ	淡蒼色、黑色 (L)	かなり糞便位入	SOD1 (下)
162	變形土器			内面糊えナデ	内面淡茶褐色	多量の糞便入、3 mm前後	普通

No.	形状・土器	内面ナガのちナダ	焼成色(ト) 焼成色(チ)		多量の粗砂充填入 かどり多量の粗砂充填入、 かどり粗砂混入	良好	SD05
			白	黒			
163	壺形・土器	"	"	"	かどり多量の粗砂充填入、 かどり粗砂混入	"	"
164	"	"	"	"	多量の粗砂充填入、 かどり粗砂混入	"	"
165	壺形・土器	"	"	"	かどり粗砂混入	"	"
166	"	"	"	"	かどりの粗砂充填入	"	"
167	"	"	"	"	多量の粗砂充填入	"	"
168	鉢形・土器	12.8	ハクリしているため不明	黒灰褐色、油灰褐色	かどりの粗砂充填入	普通	"
169	壺形・土器	21.9	内面ナガせ上げ、外面ヘラ削りで不明 内面粗砂充填のちナダ	白淡黄色	多量の粗砂充填入	"	"
170	壺形・土器	"	"	黒褐色、油灰褐色	多量の粗砂充填入	良好	SD07
171	"	"	"	白淡黄色	粗砂多く混入	"	"
172	"	"	"	白淡黄色	多量の粗砂充填入	"	"
173	壺形・土器	"	"	白淡黄色	若干粗砂混入	"	"
174	壺形・土器	"	内面ナガせ上げ	白淡黄色	かなり粗砂混入	"	SH02
175	"	"	"	白淡黄色(部分) 淡褐色	かなり多くの粗砂混入	"	SD02
176	合掌挿土器	5.4	内面へ割りのちナダ、外面ナダ、底部へラ削り	赤褐色、黒灰褐色(部分) 内・外淡黄色、灰白色～黒 色(一部)	多量の粗砂充填入、 粗砂を多量に含む水こし粘 土を用いている	良好	SD07
177	皿形・土器	15.0	4.5	7.2 内外共にナダ仕上げ、へらおこし	内外粗砂混入	良好	包含物
178	壺形・土器	15.3	"	"	かなり粗砂混入	普通	D-35(下端外側)
179	"	"	"	赤褐色	粗砂かなり混入	"	"
180	"	"	"	粗砂褐色	粗砂多量	普通	"
181	"	"	"	内外粗砂混入 口：黑褐色 基部褐色	多量の粗砂混入、 粗砂多く混入	"	水田層
182	壺形・土器	"	"	基部褐色	かなり粗砂混入、 粗砂かなり混入	"	"
183	"	"	"	内：黑色 外：褐色	多量の粗砂混入、 粗砂多く混入	普通	"
184	壺形・土器	"	"	白淡黄色、黒灰褐色(外) 内：暗灰色	かなり粗砂約2~3mm程入	良好	水田層上部
185	" (底面)	"	7.6	内外ナダ仕上げ、へらおこし	底面褐色	水田層	"
186	"	"	7.8	へら削り	底面褐色	粗砂かなり多く混入、 粗砂多く混入	"
187	壺形・土器	19.4	体側削りへラ削り、外底粗砂ナダ、底面削り	底面褐色、赤褐色	かなりの粗砂混入、 粗砂多く混入	良好	底

188	鑿形土器	12.4	20.8	4.3	口縁部外側ア、外面部面ナデ、体部ヘラカギ (施青器台?)	茶褐色 淡黄褐色	若干細砂混入、 粘土質	良好	通り
189	鉢形土器	12.5		"	内面ヘラ削り、外面ハケ目 内面ナデ、体部内面ヘラ削り、T工具	粘土質 粘土色	多量の細砂混入、 かなり粘砂混入、 粘土質	普通	"
190	鑿形土器	12.0						良好	"
191	鑿形土器	12.8			外腹クレ状工具のナデ 口縁外側ナデ、体部内面ヘラ削り、外腹ナデ (ハケ)	灰褐色 白褐灰色 黑褐褐色 高砂色 (少)	ごく片手細砂混入、 片手細砂混入、 かなりの細砂混入、 粘土質	D-35 S-102	
192	"	13.6						良好	"
193	"	19.0		"				"	"
194	"	17.0		"				普通	"
195	"	14.4		"		白褐灰色 带灰条纹色 (Y)	ごく少量の細砂混入 (1mm以下)	良好	"
196	"	7.3				内面黑色 白色	ごくわずかに細砂混入	"	"
197	"	13.0			口縁部外側ナデ、体部内面ヘラ削り、外腹ハケ目 内面黑色	黑褐色 内外:黑色 内下:黑灰褐色	細砂多く混入、 かなり多くの細砂混入	"	"
198	"	17.4		"				"	"
199	底 高杯形土器		10.4		内面ヘラ削りのナデ、外腹ヘラ削り、下部はのちナデは上げ 内面表面共にナデ性上げ	淡黄褐色 带灰条纹色	多量の細砂混入、max 3 mm	"	"
200	高杯形土器	20.2		"		带灰条纹色	多量の細砂混入、 若干細砂混入、 粘土質	良好	"
201	"	21.9		"	外腹下部ヘラ削り	户黄褐色 白褐灰色	若干細砂混入、 粘土質	"	"
202	高台形土器		25.4		内面ヘラ削り、下部ナデ、外腹上半クレ、下半ナデ 口縁部外側ナデ、体部内面ヘラ削り	带灰条纹色 (外下) 带灰条纹色	かなりの細砂混入、 粘土質	S-100	
203	高形土器	15.9						良好	"
204	"	14.6		"				"	"
205	"	17.2		"				"	"
206	"	26.4			内面頂点にヘラ削り 内底ナデ	黑褐褐色 白褐黄色	多量の細砂混入したもの 細砂多く混入、 粘土質	良好	"
207	曲形土器	11.0		"				D-21 S-101	
208	"	7.2						良好	"
209	"	14.3			内面上部ナデ、下部ヘラカギ、外腹ハケ目、下部ヘラカギ 内底ナデ	黑褐褐色 黑褐色	かなり細砂混入、 粘土質	"	"
210	"					表: 黑色、裏: 淡灰褐色	若干の細砂混入、 粘土質	"	"
211	"	13.3				口縁部外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り 内底ナデ (ハケ)	かなり細砂混入、 粘土質	"	"
212	"	22.2				带灰条纹色	かなり細砂混入、 粘土質	"	"

				内外共にヨコナデ	白底赤褐色	細砂かなり混入	良好	D-21 Series:
213	樹形土器	25.6		口縁内側外方にナデ、体部内面ヘラ削り、外面ト半ヘラミガキ	黄赤茶色	多量の細砂混入(褐色が多い)	普通	-
214	"	15.8		口縁内側外方にナデ、体部内面ヘラ削り、外面ト半ヘラミガキ	黄赤茶色	かなりの細砂混入	良好	-
215	樹形土器	23.3		口縁内側外方にナデ、体部内面ヘラ削り、外面ケシ状工具	赤褐色～墨褐色	かなりの細砂混入	良好	-
216	"	18.4		口縁内側外方にナデ、体部内面ヘラ削り、外面ハケ目	赤褐色～墨褐色 端部黄色(上) 端部黑色(下)	かなりの細砂混入	良好	-
217	樹形土器	9.5	4.55	外面ヨコナデ	内：金褐色 外：墨褐色 壁部淡茶色	細砂多く混入	普通	-
218	"	9.0	6.6	上面少外ヨコナデ、体部内面削ナデ	白底淡茶色	若干の細砂混入	良好	-
219	樹形土器		2.7	内外共にヨコナデ	白底淡茶色	多量の細砂混入	普通	-
220	"	8.0		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ハケ目	赤褐色、射出色 端部暗褐色	細砂多く混入	良好	-
221	樹形土器	14.0		内外共にヨコナデ、内面強削ヘラ削り	赤褐色、射出色 端部暗褐色	かなり粗砂の2mm前後混入	良好	-
222	"	13.4		内外共にヨコナデ、内面強削ヘラ削り	赤褐色、射出色 端部暗褐色	かなりの細砂混入	良好	-
223	樹形土器	13.7		内外共にヨコナデ	白底淡茶色	かなりの細砂混入	良好	-
224	"	19.3		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ハケ目	口縁色(若干淡茶色もあり)	-	普通	-
225	樹形土器	13.8		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外他クシ状工具のナデ	赤褐色	かなり多くの細砂混入	普通	-
226	"	15.9		口縁少外方にナデ、体部内面ヘラ削り	赤褐色 端部黄色(下)	多量の細砂混入	良好	-
227	"	15.9		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り	赤褐色	かなり細砂混入	良好	-
228	"	20.5		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外他ナデ・ガキ	赤褐色	かなり細砂混入	良好	-
229	"	16.4		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ハケ目	口底色	かなりの細砂混入	普通	-
230	"	14.3		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ヨコナデ	暗赤茶褐色	多くの細砂混入	普通	-
231	"	14.6			黒淡青(茶)色	かなり多くの細砂混入	良好	-
232	灰	6.8		内面ヘラ削り、外面ハケ目、底部ヘラ切り・削え	内上：墨褐色 内下：淡黃色 外：墨茶色	かなり粗砂混入	良好	-
233	"		4.8	"	外側強めちハケ、底部へら切り・削え	暗赤茶褐色	多量の粗砂混入	-
234	樹形土器	11.5		口縁少外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ヨコナデ	内：白淡茶色 外：暗灰茶色	ごく若干粗砂混入	良好	-

235	林 形 土 岩	29.4	口縫小外ヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹カラ目、ハケ目 外：黄淡赤色 内：黄淡赤色	砂粒 (1.5~2 mm) 多く混入	良好	D-21 Shigt
236	"	27.5	" ・ 体側内面ヘラ・ヘミガサ、外腹側のちハケ 粘土テ 内上・外：白黄赤色	細粒多量に混入	普通	"
237	"	20.8	粘土テ " 体側内面ヘラ割り、外腹側ヘミガサ、体 内上・外：白黄赤色 内下部より：白淡赤色	かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入、 かなり多量の細粒混入	良好	"
238	"	17.0	" " 体側内面ヘラ 外腹側テ 内上・外：白淡赤色 内下部より：白淡赤色	かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入	普通	"
239	"	26.8	" " 体側内面ヘラ 外腹側テ 内上・外：白淡赤色 内下部より：白淡赤色	かなりの細粒混入、 多量の細粒混入、 多量の細粒混入	普通	"
240	"	14.7	" " 体側内面ヘラ 外腹側テ 内上・外：白淡赤色 内下部より：白淡赤色	かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入	普通	"
241	林 形 土 岩	14.0	" " 体側内面ヘラ 外腹側テ 内上・外：白淡赤色 内下部より：白淡赤色	かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入、 かなり細粒多量入	普通	"
242	角杯形土岩	19.2	" " 内面内側にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ	多くの細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入	普通	"
243	"	13.8	" " 内面側面にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ	複数細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入	普通	"
244	"	17.9	" " 内面側面にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ 内面側面にナデ	複数細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入、 複数細粒多量入	普通	"
245	脚	部	11.2	表面 表面黄色 (化生上) 表面 表面黄色 (化生上) 表面 表面黄色 (化生上) 表面 表面黄色 (化生上)	良好	"
246	"	22.3	内面ヘラ割り、下凹デ、外腹ヨコナデ 上縫小外ヨコナデ、体側指揮えのちヘミガサ、外腹ヘミガサ	かなり多量の細粒混入、 若干細粒を混入、 でっかい塊状地を引き	良好	"
247	林 形 土 岩	10.95	6.4	1.6 内面側面テ仕上げ	D-32 SS302 中央部 複 (多) 相 (少) 粒砂多量に 混入、 かなり細粒混入	SS302 (W)
248	带 形 土 西	13.8	" " 内面側面テ仕上げ	若干細粒を混入、 でっかい塊状地を引き	良好	SS302 (E)
249	"	12.6	口縫小外ヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹黒い貝口 上行	複 (多) 相 (少) 粒砂多量に 混入、 かなり細粒混入	良好	D-32 SS302 (W)
250	"	5.8	内面ヘラ割りのちナデ仕上げ、外腹ヨコナデ、全体をハケナデ 口縫小外ヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹黒い貝口	複 (多) 相 (少) 粒砂多量に 混入、 多量の細粒混入相殺若干少 なめ	良好	SS302 (W)
251	變 形 土 岩	13.2	" " 内面ヘラ割りのちナデ仕上げ、外腹ヨコナデ、全体をハケナデ 口縫小外ヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹黒い貝口	かなりの細粒混入、 かなりの細粒5~10選入	良好	"
252	萬杯形土岩	14.1	" " 内面ヘラ割り、外腹上半ナデ、下部ヘミガサ	かなりの細粒混入、 かなりの細粒5~10選入	良好	"
253	"	14.5	" " 内面ヘラ割り、外腹ヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹側面・脚部ヘミガサ、 脚部内面	かなりの細粒混入、 かなりの細粒混入	良好	SS302 (W)
254	變 形 土 岩	14.6	" " 内面ヘラヨコナデ、体側内面ヘラ割り、外腹側面・脚部ヘミガサ、 脚部内面	かなりの細粒混入、 かなりの細粒混入	良好	SS302 (W)
255	林 形 土 岩	35.0	6.8 内面側面ヒゲ目	複数細粒多量入、 多量の細粒多量入	良好	"
256	带 形 土 岩	35.45	" " 内面側面ヒゲ目	水こし若干の細粒混入	良好	SS302 (W)
257	高杯形土岩	24.2	" " 内面ヘミガサ、外腹ヨコナデハケ状工具、ヘミガサ	水こし若干の細粒混入	良好	SS302 (E)

258	變形土器	13.4		口縁外ヨコナデ、体面内面ヘラ削り	素面色	かなり多くの粗粒を混入	普通	S154(W) 中央部
259	高杯形土器	26.9		口縁外ヨコナデ、下唇外ハケ日	素面色	水こししなり粗粒混入	良好	S154(W)
260	變形土器	8.1		内面上ヨコナデ、体部ヘラ削り、外面ヘラ削り、外面ヘラ削り(?)	素面色(?)	水こし者子細粒混入	"	D-22 SD06
261	變形土器	12.2		口縁外ヨコナデ、内面体部ヘラ削り、外面ヘラミガキ	素面色	かなりの粗粒を混入	"	"
262	變形土器	12.0		内外共ヨコナデ	素面色(?)	"	"	S154(W) 中央部
263	"	13.0		内外面ヨコナデ、体面内面ヘラ削り	黒褐色	かなり粗粒混入	"	S154(W)
264	"	12.3		口縁外ヨコナデ、内面体部ヘラ削り、外面ヘラ削り	黒黄褐色	黒褐色かなり混入	普通	"
265	"	14.2	"	"	黒褐色	"	良好	"
266	"	16.0		口縁外ヨコナデ、体部ヘラ削り、外面ヨコナデ	素面色(少)	粗粒多く混入する	普通	"
267	變形土器	13.3		口縁外ヨコナデ、体部内面ヘラ削り、外面ヘラ削り(?)	素面色	かなりの粗粒を混入	良好	"
268	台形土器		8.3	内面ヘラ削り、外面体部ヨコナデ、裏面削除えちら子ナデ仕上げ	白素色(?)	かなり粗粒混入	"	"
269	変形土器	25.8		内面ヨコナデ、下唇内面ヘラ削り、外面ナタヘイケ日	白淡黄色	若干細粒混入	"	"
270	高杯形土器		9.0	内面ヘラ削り、外面ナタ	素面色	粗粒多く混入	"	"
271	"	21.5	11.3	杯底ヘラミガキ、外面ナタヘリ(?)	白淡黄色	かなり多量の粗粒を含む	"	S154 P.4
272	"	21.3	15.65	内面ヨコナデ、外壁内面ヘラ削り	素面色	かなり粗粒を混入	"	S154 pit
273	變形土器	14.2		内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り	素面青褐色	若干の粗粒を混入	"	D-43 SH08
274	杯		10.2	内面共ナタ仕上げ、ヘラミガキ	白灰色	若干粗粒混入	"	S154
275	變形土器	20.9	"	"	素面色、黒灰色	多量の粗粒を混入	"	D-22 SD02
276	變形土器	35.0	"	内面下半ヘラミガキ	内:素面色、外:白淡黄色	多量の粗粒を混入	"	"
277	變形土器	19.6		内外共ナタナデ、裏面内面ヨコナデ(?)	白淡黄色	かなりの粗粒を混入	普通	"
278	變形土器	14.9	"	"	内:白色、外:白淡色	かなり多めに粗粒混入	良好	"
279	"	16.5	"	"	白淡黄色	粗粒を(かなり)多く混入	普通	"

285	高杯形土器	11.3	内外腹共にナメ、部分的に斜めのハケ目模る	外：白質淡青色 内：白質淡青色 外：白質淡青色	水こし、若干の細砂混入、 かなり細粒混入、 多量の細砂が5mm以下を混入	良好	D-22 S102
286	器台（？）		内面へラ削り、外腹上半クレバ、下半ナメ	外：白質淡青色 内：白質淡青色 外：白質淡青色	水こし、若干の細砂混入、 かなり細粒混入、 多量の細砂が5mm以下を混入	好	"
287	底		底面へラ削り（？）、（セミ出あり）	外：白質淡青色 内：白質淡青色、削面也	細砂少々なみ混入	"	SD03
288	底	部	内外腹共にナメ仕上げ	外：白質淡青色 内：白質淡青色	多量の細砂が5mm以下を混入	"	SD03
289	底	土器	17.3	内外腹共にナメ	外：墨色 内：墨色	多量の細砂混入、 細砂多量に混入、	普通
290	底	形	19.0	口縁向外ヨコナギ、体縁内面へラ削り	外：墨色 内：墨色	細砂多量に混入、 細砂若干混入	普通
291	"	"	13.0	"	"	"	SD03
292	"	"	12.8	"	"	"	良好
293	底	杯	?	指ナギ（？）	水無手（？） 仕上（？）：茶褐色	若干粗砂混入、 かなり粗砂混入、 多量の細砂混入、 多量の粗砂混入、	"
294	底	部	4.8	内面へラ削りのち削ナギ、外腹底へケ日、底面へラ削こし	青灰青褐色	かなり粗砂混入、 多量の粗砂混入、	"
295	"	"	4.3	"	青灰青褐色	"	"
296	高杯形土器	21.6	内面底共にヘラミガキ	青灰青褐色	水こし、若干の細砂混入、 細砂少々混入、	良好	"
297	"	"	24.4	ヘラリのため不則	青灰青褐色	細砂少々混入、	"
298	底	形	12.5	口縁向外ヨコナギ、体縁内面へラ削り、外腹側・斜のナメ仕上げ	青灰青褐色	かなりの細砂混入、 細砂多量に混入	良好
299	"	"	9.8	内腹共にナメ	青灰青褐色	かなり粗砂混入	"
300	"	"	10.8	"	白質（？）茶色	水こし、若干粗砂混入	"
301	"	"	32.0	内外共に指ナメタクシ状上風にふるは上げ	白質青色、青灰青褐色	細砂少々混入、 かなりの粗砂混入（かたい）	"
302	"	"	19.0	内面からミガキ、外腹ナメ	青灰青褐色（？） 青灰青褐色	かなりの粗砂混入、 かなりの粗砂混入（かたい）	"
303	"	"	29.0	内腹ナメ	青灰青褐色（？） 青灰青褐色	"	"
304	"	"	11.6	口縁外腹ナメ、底面内腹ナメボリのちナギ、外腹側相えのちナメ仕上げ	白質淡青色	細砂若干混入（水こし）	"
305	台付椭形土器	12.8	6.8	内面ナメ仕上げ、外腹側相えのちナメ仕上げ	青灰青褐色	かなり粗砂混入を差入	"
306	底	形	14.8	内腹上半ヨコナギ、外腹下部ラミガキ（？）	白質淡青色	"	"
307	"	"	内面へラミガキ、外腹内面の上・下半ラミガキ、中腹ナメ	内：黒色 外：白質淡青色	粗粒（0.5～1mm）なり	"	"

			内面へラミガキ	外：白淡黄褐色 内：淡黃茶色	多量の細砂混入、 細砂がかなり混入、 淡黃色、 淡黃茶色	良好	D-22 S501
302 燐 彩 土 器	16.6		内外面共にナデ	口輪部内外ナデ、体部内面へラメり、外面へケ目	粗粒多量に混入	"	"
303 燐 彩 土 器	13.6		口輪部内外ナデ、体部内面へラメり、外面へケ目	黒茶褐色	かなり繊細な 粗粒多量に混入	普通	"
304 "	15.5		"	"	暗茶褐色	かなり繊細な 粗粒多量に混入	"
305 "	15.5		"	"	暗茶褐色	かなり繊細な 粗粒多量に混入	"
306 瓦 部	5.6		内面指揮えのちナデ、外面ハケ目、外面ド配、底部脚脚丸	淡茶褐色 瓦茶褐色(一部)	粗粒少量化かなり混入	"	"
307 高杯形土器	23.5		内面、外側下部ラミガキ、外面ド配、底部脚脚丸	白淡茶褐色	"	"	"
308 瓦 彩 土 器	19.7		口輪部内外ナデ、体部内面へラメり、外面上半ヨコナデ	自然茶褐色 茶褐色(少)	粗粒多量に混入	"	"
309 "	15.5		"	"	白淡茶褐色 (瓦茶褐色の化粧土)	少こし粗粒多量に混入	"
310 手 陶 土 器	7.2	8.5	2.6 指揮え、内外口輪部ヨコナデ仕上げ	白淡茶褐色 (瓦茶褐色)	多量の粗砂混入	"	P-9
311 燐 彩 土 器	14.1	16.1	5.9 口輪部内外ヨコナデ、体部内面ヘラメり、外面上半ハケ目、下半 ヘラメり	淡茶褐色(上) 淡茶褐色(下)	かなり繊細な 粗粒多量に混入	"	P-15
312 "	12.0		口輪内面へラミガキ、体部内面へラメり、外面ナデ仕上げ	自然茶褐色 (少) 茶褐色	多量の粗砂混入	"	P-16
313 "	8.4		内外面共にヨコナデ仕上げ	淡茶褐色 (茶褐色)	相手かなで多く混入	"	P-17
314 "	15.7		口輪部内面ナデ、体部ヘララメり、外面ナデ仕上げ	白淡茶褐色	多量の粗砂混入	普通	"
315 高杯形土器	23.5		28.0 内外ナデ仕上げ、外面上半ヨコナデ、下半ヨコナデのち内面貼 り付け	明茶褐色	多量の粗砂混入	かなりの粗砂を含む	"
316 "			8.9 内面へラメり、外側・底部脚脚丸	淡茶褐色	多量の粗砂混入	普通	P-18
317 瓦 部	16.0		内外面共にナデ仕上げ	内：明茶褐色(下地) 外：一次成膜の模様	かなり繊細な 粗粒多量に混入	良好	P-32
318 燐 彩 土 器	12.5		口輪内面、外面はナデ仕上げ、体部内面へラメり	外：白淡茶褐色	"	"	P-23
319 "	15.5		口輪部内ナデ、体部内面へラメり、外壁ハサウエ工具	内下：明茶褐色 外下：二次成膜の模様	かなり繊細な 粗粒多量に混入	"	P-25
320 "	17.0		"	黑褐色	若干粗粒多量に混入	"	P-27
321 "	15.7		"	外壁黒色のちナデ仕上げ	かなり粗粒多量に混入	"	"
322 高杯形土器	20.1		内面上半ナデ、下半へラメり、外壁ヘラメり	黑茶褐色 (内下) 淡茶褐色	少こし粗粒多量に混入	"	"

324	錫 錫形土器	11.8	内面クリッジ目、外面上・下部ヨコナデ、押出突起いケ目	白淡黄褐色	かなり細胞を埋入	良好	P-27
325	錫形土器	17.2	口縁内部ヨコナデ、外面ヘリ丸の押え	上：淡黃褐色 下：淡綠褐色	若干細胞が入 細胞から多く透入	"	P-30
326	"	10.6	口縁外側ナデ、体部内面へラ削り、外面下部へラ削り	黒茶褐色	細胞から多く透入	"	P-31
327	錫形土器	18.2	小面ヘリ削り、外面上半ナデ仕上げ、下半ナデのちミカナ裏の仕上	淡綠褐色	かなり細胞を埋入	"	"
328	手型土器	3.1	1.65 相割え	黒茶褐色 射赤色	若干細胞が入 細胞から多く透入	"	P-42
329	錫形土器	13.4	口縁内部・外側ヨコナデ、体部内面へラ削り	淡綠褐色	ごくわずかに細胞混入	"	"
330	高杯形土器	14.0	内面粗面・粗い木状工具によるナデ仕上げ、外底下部へラ削り	射赤色 青色	若干細胞が入 細胞から多く透入	"	P-46
331	錫形土器	14.1	内面ナデ、外底上半ナデ、下半ヘラ削りのちクシ日	白淡黃褐色	水こし (?) かなり細胞混入	"	P-48
332	高杯形土器	22.7	内面ナデ仕上げ、外底上半ナデ、下半ヘラ削りのちクシ日	淡茶褐色	かなりの細胞浮遊を混入	古酒	P-54
333	錫形土器	12.0	内外ナデ仕上げ、体部内面へラ削り	黒灰褐色 黑褐色	細胞が入る	良好	P-56
334	高杯形土器	34.6	口縁外ヨコナデ、杯底穴外ヘリミガキ	射赤色	細胞が入る	良好	P-56
335	"	33.8	18.4 内外全体ヘリミガキ、縫引削りのちナデ仕上げ	淡黃褐色	細胞込む	"	P-59
336	"	27.4	14.6 杯底外ヘリミガキ、縫引削り、下半への削り	白淡黃褐色 青色	多量の細胞が混入	普通	"
337	錫形土器	13.65	16.0 体部内面ト裏丸いケ目、下半ヘラ削り、記録削れ、外底ヘタ目	内：淡黃褐色 外：薄茶色一頭赤茶色	多量の細胞を埋入	良好	包含層
338	"	—	内面ヘケ目、外縁タキ目	射赤色 灰白色	若干の細胞を含む	"	"
339	高杯形土器	12.5	8.6 柄斜ナデ、脚部削りナデのちナデ仕上げ	白淡黃褐色	かなり細胞を含むもの である	普通	包含層
340	"	17.15	10.35 内面ナデ仕上げ	射赤色 白色	水こし粘土 細胞から多く含む	良好	"
341	高台付錫	12.1	4.15 内面削り	白淡黃褐色 射赤色	かなり多くの細胞が混入 0.5mm以下(?) (細胞)	普通	D-30 SH1
342	錫形土器	—	— 口縁外削れ	射赤色 白淡黃褐色	多量の細胞が入 かなりの細胞混入	"	"
343	"	—	— 外底ナデ仕上げ	射赤色 青灰色	細胞多量に混入 SH1	SH1	SH1
344	"	—	— 外底ナデ仕上げ	射赤色 青灰色	細胞から多く混入	"	SH1
345	"	—	— 外底ナデ仕上げ	射赤色 青灰色	かなりの細胞混入	"	SH1
346	"	—	— 内面ヘリミガキ	射赤色 青灰色	かなりの細胞混入	"	SH1
347	"	—	— 体部内面削れのちナデ仕上げ	射赤色 青灰色	かなりの細胞混入	"	SH1
348	"	—	— 体部内面削れのちナデ仕上げ	射赤色 青灰色	多量の細胞を混入	良好	SH1 pit 1

			断木褐色	かなりの根状茎を認入 良好	普通 D-30 61801 p1-p4	
350	墨形土器		体部内面凹削えのちナガれ上げ。外面部 体部前面ナデ仕上げ。外面部輪	栗褐色（上）、暗栗褐色 栗褐色	かなり相移版入 好	
351	"		"	栗褐色	"	
352	"		"	栗褐色、栗褐色	若干の根状茎を認入 好	
353	"		内面ナガレ仕上げ	栗褐色	多量の根状茎入 好	
354	"		"	内面裏剥えのち上部へタカギ、口縁剥落キテ目 内面ナガレ仕上げ	栗褐色 栗褐色 栗褐色（外）	かなり相移版入 良好
355	"		"	栗褐色	かなりの根状茎入 良好	
356	"		土器片利用	白黄色 栗褐色 栗褐色 栗褐色	多量の根状茎入 相移かなり良 かなりの根状茎入 水なし下の根状茎入	
357	丸輪 帽		5.2 外底部ヘタガキ	栗褐色	良好	
358	底		4.6 内面部ナグ。底部ナグ。輪形ヘラおこし	栗褐色（少） 栗褐色	水なし下の根状茎入 良好	
359	"		"	白黄色	"	
360	"		5.2 " " - 外面下端剥え、底部ヘタおこし	栗褐色	水なし（もう少し） 良好	
361	"		16.5 内面ヘタ削り、外面部押えのちヘケナデ	栗褐色 栗褐色 栗褐色	多量の根状茎入（0.2~3mm） 良好	
362	"		9.6 内面ヘタ削りのちナグ。外底部ナデ、底部ナデ、底部ヘタ削りのちナデ	内面暗灰色 栗褐色	かなり多くの根状茎入 良好	
363	"		7.8 内面部ナグ仕上げ。底部ヘタナグ。底部ヘタ切り・ナダ 7.2 内面ヘタ削りのちナグ。外底部タガキ、底部ヘタ切り・ナダ	栗褐色 栗褐色 栗褐色	多量の根状茎入 良好	
364	"		"	栗褐色	"	
365	"		5.4 内面ナグ。体部内面ヘタ削り、外底部ミガキ	栗褐色 栗褐色	多量の根状茎入 良好	
366	墨形土器	16.4	47.7 11.0 陶面ナグ。体部内面ヘタ削り、外底部ミガキ	白黄色 栗褐色	相移版多量に見入 良好	
367	"	17.5	41.6 10.2 " " " - 底部ヘタガキ	白黄色 栗褐色	かなり相移版入 良好	
368	"	12.0	36.3 10.0 体部内面ヘタ削り、外底部タガキヘケ日。圓窓にヘラ先の剥落 9.1 銀色丸頭シボギリ、体部内面ヘタ削り、外底部ミガキ	白黄色 白黄色	若干の根状茎入 良好	
369	"	15.3	31.8 9.1 刻形外周延縫6本、ヘタ先の剥落、体部内面ヘタ削り	栗褐色 栗褐色	かなりの根状茎入 良好	
370	"	10.9	"	"	"	
371	鉢形土器	17.5	18.7 9.2 体部内面ヘタ削り、外壁高いケ日。底部ヘタ削りのちナデ 門跡内面コナフ。体部内面ヘタ削り、外底部コナデ	内面白茶色 外側白茶色	水なし下にかなりの根状茎を 底好	
372	棒形土器	17.6	"	淡黄色 淡黄色	若干（ごく）相移版入 良好	
373	高杯形土器	25.2	内面ヘタガキ、外面上はヨコナデ、中はヘラ削り、下はヘラ ヒゲ	栗褐色 栗褐色	相移版かなり良 良好	

374	高杯形土器	18.5	口幅中面下端切口目、ヘラ削り、外腹内面へきり、體形粗陥である	内外底部に白淡黃色 外腹底部に赤茶色	かなり粗陥(非常に粗い)	良好	D-22 F-59		
375	變形土器	17.9	46.3	12.0	体面中面へきり、底部ヘラ削り、外腹上部ハケ目、中腹下部 ヘラ削り	かなり粗陥(約3mmを深入)	"	"	
376	變形土器	12.2	26.8	8.2	側面内面ノギヤリ、外腹コナヂ、体面内面へきり、外腹ヘタ ミガキ	かなり粗陥を深入	"	D-30 SH43	
377	變形土器	6.4	13.6	外腹内面整形、内面ノギヤリ	黒色(5%) 白淡黃色	相当地點入(かなり)	"	"	
378	變形土器	10.6	21.0	6.7	体面内面へきり、外腹ハケ目、下部粗陥足	かなり粗陥(0.5mm~1mm)	"	"	
379	"	12.4	29.0	8.4	体面内面へきり、外腹上部ハケ目、下部ヘラ削り	多量の粗陥(0.5mm以下) 順入	"	"	
380	■ 経土器	14.2	31.8	8.4	" " " 外腹内面削り、輪部に削痕 輪部底面の赤茶色	若干粗陥を深入	良好	"	
381	"	15.5	27.4	8.0	外腹上部ハケ目、下部ヘラ削り	多量の粗陥を深入	"	"	
382	"	11.7	23.9	7.8	外腹内面のちナテ仕上げ、輪部ヘラ削り	かなり粗陥を深入	"	"	
383	"	11.1	24.5	7.8	外腹内面のちナテ仕上げ	"	"	"	
384	"	12.0	24.6	7.4	外腹内面のちナテ仕上げ、下部ヘラ削り	かなり粗陥を深入	"	"	
385	"	15.4	32.1	8.8	外腹ヘラ削り、下部ヘラ削り	かなり粗陥を深入	"	"	
386	"	14.5	33.6	8.4	体面内面へきり、下部ナテ仕上げ、外腹ヘラ削り	かなり粗陥を深入	"	"	
387	"	16.4	37.4	10.1	付け ト署ナテ仕上げ、外腹ハケ目根る、底端丸 底端赤茶色	相当地點入	"	"	
388	"	18.8	39.7	8.3	体面内面へきり、外腹ヘラ削り、外腹ヘラ削り	多量の粗陥を深入	"	"	
389	"	15.0	29.0	7.5	外腹ヘラ削り、輪部のちナテ仕上げ	かなり粗陥を深入	"	"	
390	"	15.9	31.4	7.8	外腹ヘラ削り	相地各處に粗入	"	"	
391	"	12.4	"	"	底部、輪部、外腹明色 輪部、輪部(内面)	かなり粗陥を深入	"	"	
392	"	14.2	32.6	8.5	外腹上部ハケ目根る、下部ヘラ削り 底部(下部)	粗陥をかなり深入(多く)	"	"	
393	"	15.6	31.6	8.0	外腹上部ハケ目、下部ヘラ削り、外腹内面 輪部	多量の粗陥を深入	"	"	
394	"	12.6	28.9	7.6	外腹ヘラ削り	相地多處に深入	"	"	

395	蝶 形 十 菱	17.3	29.8	7.4	体形内面へラ割り、外面ハケ凹	黒褐色、黒茶褐色	かなり細かい凹凸入	良好	D-30 SII33
396	"	16.0	28.5	7.2	"	外面上半ハケ、下半ヘラガサ	粗糲褐色（少數の縦	"	"
397	"	14.7	27.1	5.6	"	"	粗糾褐色、黒褐色	"	"
398	"	15.4	24.2	5.8	"	"	粗糾褐色、白茶褐色	良好	"
399	"	15.3	27.2	6.6	"	外圍はハケのチナゲ仕上げ	粗糾褐色（少）	良好	"
400	"	14.3	24.8	5.4	"	外面はハケのチナゲ仕上げ、底部ヘラ削り	白茶褐色、白茶黃褐色	"	"
401	"	15.3	27.2	6.6	ヘラ削り	外面上半ハケ、下半ヘラ削りのちナゲ、底部	淡褐色～黑茶褐色	かなり細かい凹凸入	"
402	"	14.4	23.8	6.8	"	外面ハケテ開き、底部ヘラ削り	白茶褐色	多量の細かい凹凸入	"
403	"	17.1	36.6	6.2	"	外面上半ハケナゲ、下半ヘラカキ（？）	白茶褐色、黃褐色	良好	"
404	"	15.1	33.25	5.4	"	外面ハケナゲ、底部ヘラ削り	淡褐色（部分）	かなり細かい凹凸入	"
405	"	16.4			"	"	黃褐色、茶褐色	"	"
406	"	11.6			"	外面上半ハケ、下半ヘラカキ	中等茶褐色、黑褐色（二次色斑付着）	良好	"
407	蝶 形 土 壽	16.86	33.0	9.2	内面ヘラ削り、外面ハケナゲ	白茶褐色、茶褐色	多量の細かい凹凸入	良好	D-19 土呂留
408	"	14.4	25.3	4.6	"	"	粗糾褐色（下部）	"	"
409	蝶 形 上 壽	22.4			内外両ナゲ	内：白茶褐色	若干細かい凹凸入	良好	"
410	"	19.4			口縫部内外ナゲ、体側内面ヘラ削り	淡褐色	多量の細かい凹凸入（1~2 mm）	"	上部留
411	蝶 形 土 壽	15.6			内面ヘラ削り、外面ハケナゲ	暗黄褐色	粗糾褐色	良好	"
412	蝶 形 土 壽	18.0	15.4	7.1	内面脂腺のちハラミガサ、外面ヘラミガサ部分的にハラ目あり	黄褐色、茶褐色	多量の細かい凹凸入	良好	"
413	蝶 形 土 壽	13.0	19.3	5.2	体側内面上半ヘラ削りのちナゲ、下半ヘラ削り、外面ハケのナゲ仕上げ	茶褐色、淡褐色	多量の細かい凹凸入	良好	D-20 SII33
414	"	16.1	19.4	6.0	体側内面ヘラ削り。外面ハケナゲ仕上げ	淡褐色、茶褐色	多量の細かい凹凸入	良好	「こしき」SII33
415	"	15.4	18.0	4.6	"	白茶褐色の縫合部	少々茶褐色の縫合部	良好	"

416	彫形土器	湯	13.9	10.2	5.5	体側内腹へテ割り、外腹側ナメ開き模様(?)	開口部。外腹側	細目砂を混入。(多)	良	D-30 SH-03
417	"	95	17.2	4.8	"	・外腹側部のちハケ目。こしきの未整品	晴天赤色、深赤色	"	"	"
418	"			5.9	"	・外腹ナメ仕上げ、下部ハケ目	(晴) 深赤色 青赤色(?)	かなりの砂が混入する。1m	良好	"
419	"	11.0				体側内腹開脚え、外腹開脚え	内腹開脚え(深赤色)	粗粒砂多く混入。	良好	"
420	彫形土器	器	13.4			体側外腹へテ割り、外腹ハケのちナメ仕上げ	黒茶青色。茶褐色	かなりの量の粗粒砂入。	良好	"
421	彫形土器			10.3		体側内腹へテ割りのちナメ仕上げ、外腹ハケのため不明	淡黄青茶色	粗粒砂の混入あり	良好	"
422	高杯形土器		15.4	13.7	9.5	内腹面へテ割り	灰灰褐色	粗粒砂混入。(多)	良好	"
423	"		19.2			内腹ナメ仕上げ、外腹不明	白沫青色、深青色(少)	粗粒砂多量。粗入。	"	"
424	"		10.2	14.6		ハリリのため鑿痕不明	黄赤色。赤茶褐色	粗粒砂多量。粗入。	良好	"
425	彫形土器	器	40.2	25.1	10.6	体側内腹へテ割り、外腹ハケ目、下部へテ割り、底部へテ割り	白沫青色。深茶色	粗粒砂かなびん入。	良好	"
426			34.3	22.3	11.2	"	黄灰青色。(黑色%下部)	多量の粗粒砂入。	"	"
427	"	33.1	22.96	11.8	"		内腹深赤色。外腹下部少々黒色～黒灰色	細目砂を混入。	"	"
428	"	29.4	21.7	8.8	上げ	・外腹上部ヨコナデ。以下はハケのち捲ナデ仕	白沫青色。茶褐色(?)	多量の粗粒砂入。	"	"
429	"	31.6				・外腹は浅ハケ目	茶褐色。暗茶褐色(部分)	かなり粗粒。砂粒入。	"	"
430	"	13.7	12.65	6.4	いろ	・外腹開脚も。底部に2ヶ所穴をうがって	白沫青色。茶褐色(?)	粗粒砂多く混入。	"	"
431	"	18.6	10.5	5.7	"	・外腹下部ヨコナデ。下部は脚ナメのちハケ開脚	白沫青色。深赤茶色	粗粒砂を混入。(多)	良	"
432	"	19.8				・外腹不明	白沫青色。深黄赤色	粗粒砂かなびん入。	良好	"
433	合付抹形土器		24.4	21.1	12.7		白沫青色～墨灰淡色	細目砂を混入。	良好	"
434	"	22.0	?	?	"	・外腹下半ハケ目	白沫灰青色	粗砂(多) 粗砂ち干泥入。	"	"
435	"	17.5	15.75	9.0	"	体側内腹開脚えのちハミガキ。外腹ヨコナデ	白黄～墨灰色	細目砂を混入。(多)	"	"
436	"	20.4	16.9	8.8		底部はめ込み	墨灰色。(部分)	かなり粗粒砂入。	"	"
437	"	16.7	10.5	7.5		体側内腹へテ割り、外腹不明。底台裏面へテ割り、瓶部はめ込み	白沫青色。深赤色	粗粒砂混入。(多)	良	"
438	"			10.5		内腹へテ割り、外腹ナメ仕上げ。底部はめ込み	白沫灰青色～墨灰色	良好	"	"
439	高杯形土器		14.5			内腹へテ割りのちナメ。外腹へテ解えのちナデ。底部へテ割り	白沫灰青色～墨灰色	"	"	"
440	"		10.5			内腹へテ割り	白沫灰青色	"	"	"

441	高杯形土器	20.5		内面丸ナガのちへラミガキ、外腹上部ヨコナデ	白淡紫色、余褐色 白淡紫色、余色	粗砂粒かなり混入	良好	D 20 S 153
442	器形土器	98.5	22.6	26.1 内面シザゲで上面はヘア削り、外面ヘア削り、下部カナルのちヘア削りで下部で不規、下部カナルのちヘア削り	白淡紫褐色	かなり粗砂粒混入	良好	"
443	"	22.5	21.5	22.1 内面ト半トラノリのちナギ、下部ヘア削り、下部ヘア削りのちナギ、外面ト下部ヨコナデ	黒色(一部) 深紫褐色	"	"	"
444	钵形土器	25.2		体内部内面ヘア削り。外面ヘア削り	かなり粗砂粒混入	良好	S 1404 P 4	
445	圓形土器	16.5	27.3	6.0 " " 外面に部分的にヘア削り	細砂多量に混入	良好	S 1403 P 4 に接する 6.5K 下層	
446	"			内面丸ナゲ、口縁外端部に斜け突起(-一部分残る)、芯削	多量の砂粒(0.5~3 mm)混入	普通	S 1403 P 7	
447	"			" " 口縁外端部に斜け突起(-一部分残る)、芯削	かなり粗砂粒混入	良好	"	
448	高杯形土器		8.8	内面ヘア削り(?)	白淡紫褐色	普通	S 1403 P 4 に接する 6.5K 下層	
449	圓形土器	18.4		体内部内面ヘア削り。外面トテ	粗砂多量に混入	良好	S 1404 SK	
450	K	13.8	4.9	内面ト半トラノリ。下部ヘア削り	石砂粒を混入する	良好	"	
451	"	13.0		" "	ごく軽十種組入	"	"	
452	"	12.9		内外共ナゲ	ごくわずかに粗砂粒混入	"	"	
453	"	15.4		" "	石砂粒を混入	"	"	
454	瓶形土器			内面2ヶ所2列の盛り付け突起、上部突起内に粗砂混入	黑色(一部) 白淡紫褐色	粗砂粒かなり混入	S 1501	
455	焼形土器	11.7		内外丸ナガのちナデ	青紫褐色	水こし石子の粗砂混入	S 1501	
456	"			内面ナゲ、外面に刃削	青紫褐色	粗砂混入	"	
457	"			内面ヘア削りのちナギ、外面に刃削	淡黄茶色	粗砂粒かなり混入	"	
458	"			内面ナゲナギ、外面に刃削	内淡黄褐色(白色)	粗砂粒かなり混入	"	
459	鉢形土器	19.1		内外削共に粗砂えのちナゲ仕上げ、外面に仕様土の盛り	赤褐色	粗砂粒かなり混入	"	
460	压	55		8.5 内外延丸にヘラミガキ	黄色(5%)、白淡紫褐色	水こし石子粗砂混入	"	
461	隼	腐		18.6 内外共に粗砂えのちナゲ仕上げ	灰褐色(0~3 mm)かなり混入	良好	"	
462	碗形土器	10.4	4.3	内外ナゲ仕上げ、點打け窓台	白淡紫褐色	水こし粗砂多量混入	S 1502	
463	"	11.6		" "	水こし粗砂多量	"	"	

464 小 磁	10.6	2.8	3.4	内外胎ナメテ、貼り付け高台	白沫黄色 黄赤茶色	水こし、若干粗砂混入、 若干粗砂混入	良好	SD02
465 " "	8.5	1.4	6.4	内外胎ナメテ、底面へク剥り	白沫茶色	水こし既往歴あり混入	"	"
466 " "	7.5	1.3	6.4	" "	白沫茶色	水こし既往歴あり混入	"	"
467 柄 形 土 器	15.0			内部丸いハサウエ目、外側指揮丸のちナメ	灰沫茶色	粗 砂	"	"
468 土 腹	24.9			内部丸いハサウエ目、外側指揮丸のちナメ	褐色(印外) 白沫灰褐色	かなり粗砂を混入	"	"
469 土 腹				長さ6cm、手盤ね	淡青褐色(少)、暗茶色(少)	細砂かなり混入	"	SD04
470 柄 形 土 器	13.8			内外共に管ナメ	白沫茶色	多量の粗砂混入	"	"
471 小 土 器	9.3	1.5	7.1	" " - 面部へラクラカシ	系沫灰褐色	かなり粗砂を混入	"	SD05
472 柄 形 土 器	16.8			ナメ仕上げ、高台は貼り付け	乳白色	微砂多量	良好(赤っぽい)	"
473 柄 形 土 器	" "			口縁は伝統になっている	内沫灰褐色	微砂多量	良好(白)	"
474 柄 形 土 器	13.2			内外共にナメ仕上げ	乳白色	微砂多量	良好(白)	"
475 柄 形 土 器				内部ナメ仕上げ(極度)	白沫茶色 茶沫茶色	多量の粗砂粒を混入、 粗砂かなり混入	普通	SD01
476 柄 形 土 器				内部ナメ仕上げ、外側に焼痕	黄茶系色、素淡褐色(少)	粗砂かなり混入	"	"
477 柄 形 土 器				内部クレ状(火風によるナメ仕上げ)、外面に焼痕	白沫灰褐色	粗砂かなり混入	良好	"
478 柄 形 土 器	15.3			体部内面へ剥り、口縁立ち上がりは貼り付け	白沫茶色	多量の粗砂混入	"	SD01
479 "				外面にガラスヒート焼成窯にてナメ	褐天青茶褐色	かなり粗砂粒を混入、 粗砂かなり混入	"	"
480 腹 形 土 器				内面は不明、外側はハケ状真、ヨコナメ(下駄)	白沫茶色	かなり粗砂を混入	普通	"
481 "				24.3 内面へ剥り、ナメ、外側に9本の形繩	黒沫茶色	"	良好	"
482 柄 形 土 器				内面ナメ仕上げ、外側焼痕	白沫黄色	多量の粗砂粒5~3mm程入	"	SD02
483 柄 形 土 器	29.3			体部内外共にヘタ剥りのナメ仕上げ	黄茶系色、墨茶色	粗砂かなり混入、 粗砂多量	"	SD03
484 "				口縁三外形の金等と体部に付属	墨茶系色、暗赤茶色	粗砂粒(0.1~3 mm) 多く混入	良好	"
485 茶 形 土 器				内外面共にヘタ剥り	白沫黄褐色	かなり粗砂混入	良好	"
486 小 土 器	8.5	1.4	5.5	内面共にナメ仕上げ、ヘタ剥り	青沫茶色	"	"	SD04
487 " "	7.6	1.4	5.4	" "	黒沫茶色	多量の粗砂を混入	"	"
488 柄 形 土 器	14.9			内面上半へラクラカシ、下半シモギリ。外腹中間に割突。下はケダ目	内外共・青沫茶色	かなりの粗砂を混入	"	SD07(裏下駄)

489	鑿 形土器	18.1	内外共にヨコナナ。外側に二次地成の縦付着	白底黄赤茶色	粗沙かなり混入、 こし若干細砂混入、 白土・白灰黄色	良好	D-30 S1007
490	高杯形土器	16.6	内面内輪ヨコナナ。下部ヘミガタ。幣内面ヘク四脚、化粧土 あり	余赤色	かなりの粗砂混入、 こし若干細砂混入、 白土・白灰黄色	好	"
491	造 形土器	10.4	内面ヨコナナ。外側は鏡のナチのち鏡吹文	余赤色	かなりの粗砂混入、 こし若干細砂混入、 白土・白灰黄色	S1008	
492	鑿 形土器		内面ヘコ割りのちナチ上げ、外側には鏡	無青褐色	多量の粗砂混入、 粗砂かなり混入、 白土・白灰黄色	好	"
493	"	17.0	体部側面ヘク削り、外面ヘケ日	黒土ト白底黄赤茶色	粗砂かなり混入、 水こし若干の粗砂混入、 白土・白灰黄色	好	"
494	造 形土器	9.6	口縁内輪ヨコナナ。外面7本の凹彎、体部内面ヘコ割り、外 面ヘク削り	白底黄赤茶色	粗沙多量に混入、 水こし若干の粗砂混入、 白土・白灰黄色	S1009	
495	鑿 形土器	14.3	体部側面ヘク削り、外面ヘケ状工具によるナチ仕上げ	白底黄赤茶色	粗沙多量に混入、 水こし若干の粗砂混入、 白土・白灰黄色	好	"
496	"	19.3	" " 外面には鏡斜のヘケ状工具の跡	"	"	"	"
497	"	20.3	体部側面ナチ (施錆跡ある)、外面ヘケ日	無青褐色、無鉛褐色 白底色、青茶色は部分	粗砂多く混入、 水こし若干の粗砂混入、 白土・白灰黄色	"	"
498	高杯形土器	24.8	内面ヘミガタ、外面上半ヘケ状工具のナチ。下半ヘミガタ 内外共にナチ仕上げ	鐵赤色	若干粗砂が混入、 若干粗砂が混入、 白底黄赤茶色	好	"
499	"		6.4	内面ヘミガタ、外面上半にナチ仕上げ	無青褐色	若干粗砂が混入、 白底黄赤茶色	"
500	"	14.0	内面ヘミガタ、外面上半にナチ仕上げ、若干残り、ヘミガタによ る仕上げ	黒色、暗赤褐色	かなり粗砂が混入、 粗砂かなり混入、 白底黄赤茶色	好	"
501	脚 形		14.5	内面ヘミガタ。下部ナチ、外面にはヘケ状工具の跡を残る	無青褐色	粗砂かなり混入、 水こし若干の粗砂混入、 白底黄赤茶色	"
502	鑿 形土器	25.7	体部内面側面がみのちナチ仕上げ、外側には鏡、口縁端部にキサヒ日	無青褐色	かなりの粗砂が混入、 粗砂かなり混入、 白底黄赤茶色	S1010	
503	瓶		9.4	内面ヘコ削り、外縁ナチのち細かいヘコ削り	黒色、白底黄赤茶色 白底色、青茶色	多量の粗砂を混入、 粗砂多量に混入、 白底黄赤茶色	"
504	"	9.0	内面側面ナチ仕上げ、外縁はヘクリのため不明	黒色 (外) 白底黄赤茶色	粗砂多量に混入、 粗砂多量に混入、 白底黄赤茶色	"	"
505	鑿 形土器	26.0	内面ナチ仕上げ。	黒褐色	多量の粗砂を混入、 粗砂多量に混入、 白底黄赤茶色	S1014	
506	"		内面ナチ仕上げ、外縁は鏡、口縁端部にキサヒ日	黒灰褐色	粗砂多量に混入、 粗砂多量に混入、 白底色	"	"
507	"	8.2	貼り付け部にキサヒ日あり、口縁端部にもキサヒ日	白底茶色	かなり粗砂混入、 粗砂多量に混入、 白底茶色	S1006	
508	小 土 壺	1.6	内側ナチ仕上げ、底部はヘラおこし	白底茶色	良好	土壤層 1	
509	"	8.1	" "	白底茶色	好	"	"
510	土 製 壺		指ナチによる網撚、底部には網目に穴を開けている	無青褐色	粗砂多量に混入、 粗砂多量に混入、 白底茶色	壇区 p1 壇上部 北西部	
511	鑿 形土器		内面ヘミガタ、外縁リ本の丸棒と口縁端部にキサヒ日	淡青茶淡褐色	かなりの粗砂を混入、 粗砂多量に混入、 白底茶色	良好	P-6

512 小 丸	6.7	2.6	6.1	内側輪にナダ、ヘラおこし	白黄系色 茶深褐色	水こし若干(ごく)細粒融入 若干細砂融入水こし	良好	P-9
513 " 9.3	3.0	6.0	"	ヘラ削り	"	"	"	"
514 乾 部		7.0	"	・ 脱り付け断面	白灰系色	かなり細粒融入	"	"
515 小 丸	1.6	6.4	"	・ ヘラおこし	白淡黃茶色、暗灰色(-部)	液(多)細(少)粒融入	良好	"
516 "	2.3	1.4	6.4	"	茶淡綠褐色	水こし幾多く融入	良好	P-18
517 高杯形土壌	13.8	11.3	12.9	種子はミガキ風のナダ、外壁ナダ、輪郭以下外墨ハケ状上昇 による露盤	黄色、茶褐色	細砂多く融入	普通	P-46
518 底 部	6.2	6.4	6.1	内外共に透骨入のナダ仕上げ、台面は貼り付け	黄味がかった白色	粗粒砂かなり融入	普通	P-14
519 槌形土 売	13.2	31.2	8.0	体形前面へ剥り、外壁へ剥り、ナダナダ等による調整仕上げ	淡褐色	粗粒砂少なず融入	良好	EN 土壌規則
520 頭 部			23.2	内部へ剥り、ナダ、外面には剥離	内: 白淡黃茶色 外: 白淡黃茶色	かなりの粗粒融入	"	"
521 槌形土 売	17.0			体形前面へ剥離、外壁上部ナダ。以下ヘラ削りのナダヘタナ 仕上げ	灰黃茶系(下部) 灰黃茶系(上部)	"	"	EN 土壌規則
522 "	17.0			体形前面へ剥り、外壁ナダによる仕上げ、口輪外壁6本の花柱 (ナダ子葉色をおびる)	"	"	普通	"
523 槌形土 売	17.2			内側面ナダ仕上げ、輪形外壁に貼り合い目	淡黃茶色(口) 淡黃茶色	粗粒多量に融入	普通	"
524 "				内面ナダの貼り付け突起、外壁上部ヘタナダ。下半ナダの内 輪削り	黄褐色 灰黃茶系褐色	多量の粗粒(0.5~3 mm)混入	良好	D-26 5501
525 "				内面削離え、外壁上半ヘタナダ、下半ハケの内貼り付け突起 ナダあり	白淡黃茶色	粗粒砂かなり融入	"	"
526 小形球形土壌	11.5	7.3	5.5	内外共にヘタナダ、底面へ剥り	内: 黄色 外: 灰褐色(暗灰色)	水こし粘土	"	"
527 槌形土 売	9.6	7.6	5.2	内外共にナダ、底面へ剥離	白淡黃茶色(上) 灰灰茶色(下)	"	"	"
528 槌形土 売				内面へ剥りのナダ、外輪底面、口輪底面にカサミ目 内側並列にヘタ削りのナダ	加基茶色	粗粒砂かなり融入	良好	"
529 "				5本の花柱、ナダ	ナダ茶色(少數部)	"	"	"
530 "				5本の花柱、ナダ	淡黃茶色(少) 淡黃茶色	"	"	"
531 "				5本の花柱、口輪底面にナダ	白黃色(少) 淡黃茶色	"	良好	"
532 "				内面へ剥りのナダ、外輪へ剥り、口輪底ナダナダ(口輪)	白淡黃茶色	粗粒砂かなり融入 砂粒約1~2mm多量に混入	良好	"
533 "				内外共にヘタ削りのナダ、本の内縫とナダ	灰淡黃茶色(上) 灰淡黃茶色(下)	"	良好	"
534 乾 部		10.2		内面ナダ仕上げ(?)、底部へ剥り	白淡黃茶底褐色	"	"	"
535 "		10.5		内面削離え、外壁ヘタナダ、底部へ剥りのナダナダ仕上げ	淡黃色、暗茶褐色 淡黃色	多量の砂粒0.5~2mm融入	良好	"

536	小形林形土器	16.9	7.6	内面上半ナガ、下半ヘラ倒り、外面部輪のち上部はナガ仕上げ 黄	淡赤褐色、淡褐色	ごくわずかに0.1mm以下凹入	良好	D-35枚 S501
537	高杯状土器	10.8		内外面共に幅広いヘタミガキ、口縁部はヨコカゲ、外面部輪 内面上部ヨコカゲ、下部ヘタミガキ（？）、外面上部ヨコカゲ、 内面下部ヘタミガキ（？）	淡赤褐色、表面無光澤 内面外輪に黄褐色（内）（外） 白黄色（内） 黄褐色（外）	粗造多量に點状凹入以下	普通	S504
538	"	14.3		杯内外、裏外面ヘタミガキ、縁部はハクリで凹凸	白黄色（内） 黄褐色（外）	粗造から粗大 かなり難形を含む	"	包含層
539	"	16.9	13.6	杯内外、裏外面ヘタミガキ、縁部はハクリで凹凸	淡赤褐色	かなり難形を含む	良好	包含層
540	"	16.1	12.3	杯内側ハナケ、外面部輪ナガ仕上げ、裏面内面ナガ、外面部輪のちナ デ	上内、等質黃色、外、石炭灰色 下内、等質黃色	多量の粗造凹入を含む	"	
541	"	15.1		内面ハナケ状加工によるナガ、外面部輪のちナガによる仕上げ 内面	淡黃褐色	多量の粗造凹入	普通	D-35枚 S504
542	"	14.7		口縁内側はナガ、と外面部輪にハケ且、他はハクリで不明 深巻はハクリのため不明	"	粗造が大部分（少しひれ）	"	"
543	"	15.9			"	多量の難凹、若干粗造凹入	"	"
544	底	高	3.0	内面ハクリで不平、外底はハケ目、指ナガ、民割ヘラおこし 斜体尾部（外）	剥落褐色（内） 斜体尾部（外）	若干粗造凹入	"	"

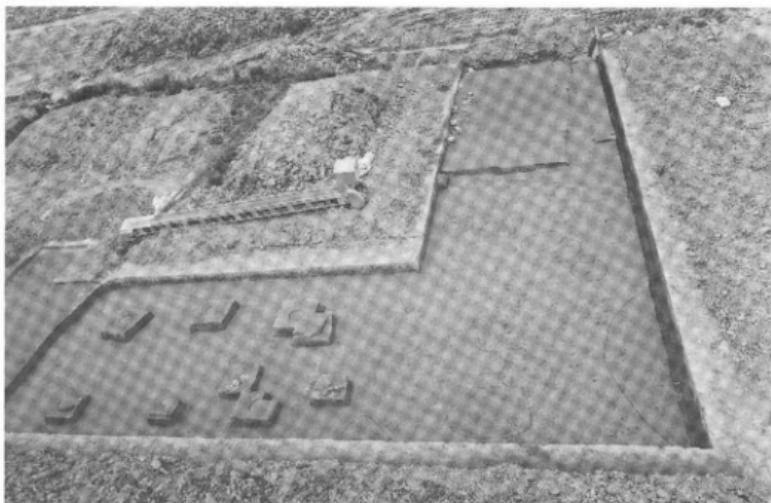


1. 調査前（北東丘陵上から）



2. 第2期工事区域（北西から）

図版2



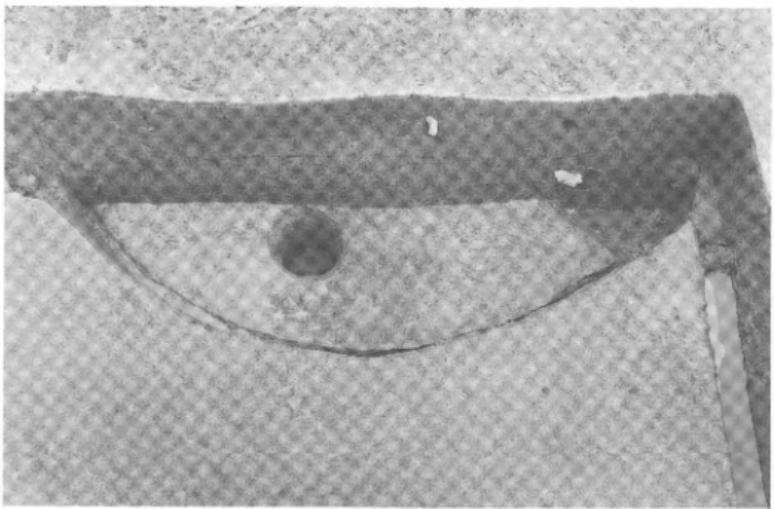
1. D12区遺構検出状況（東から）



2. D12区遺構検出状況（北から）

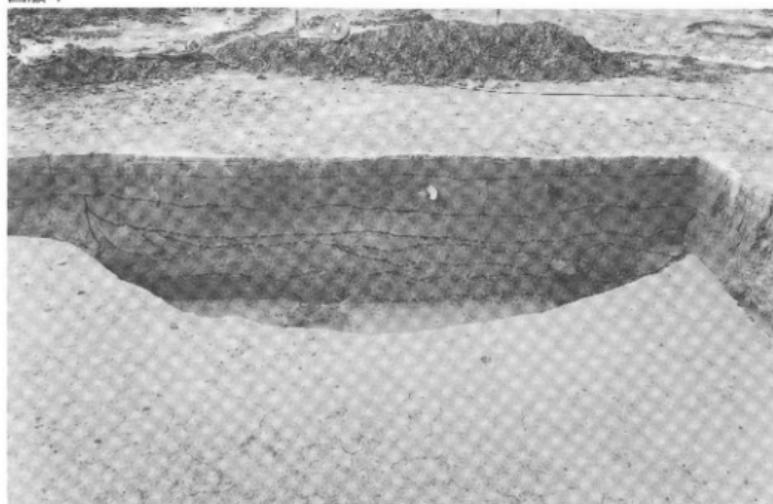


1. D12区 1号住居址完掘状況（東から）

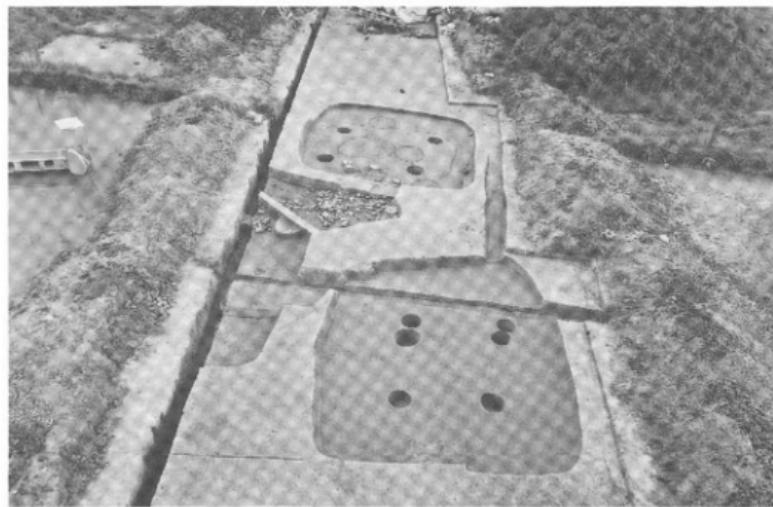


2. D12区 2号住居址完掘状況（南から）

図版 4



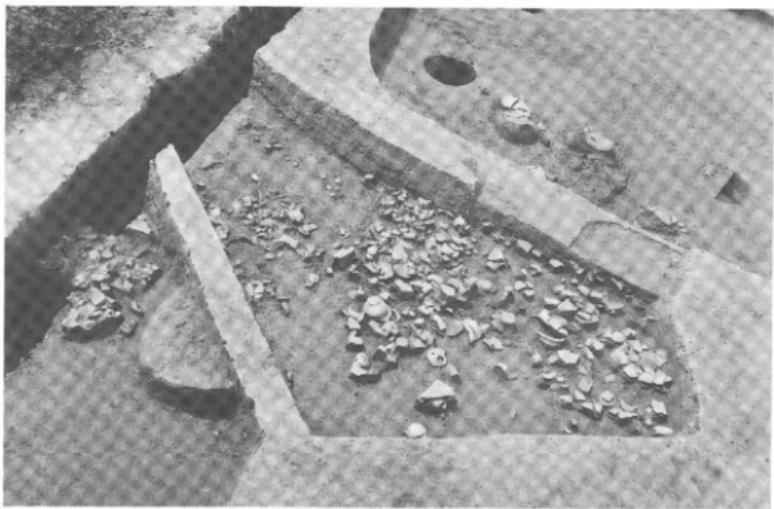
1. D12区 2号住居址北壁土層断面（南から）



2. D12区 3, 4, 5土器窯り完掘状況（北から）



1. D12区 5号住居址内遺物出土状況・南北土層断面（西から）



2. D12区土器窯全景（北西から）

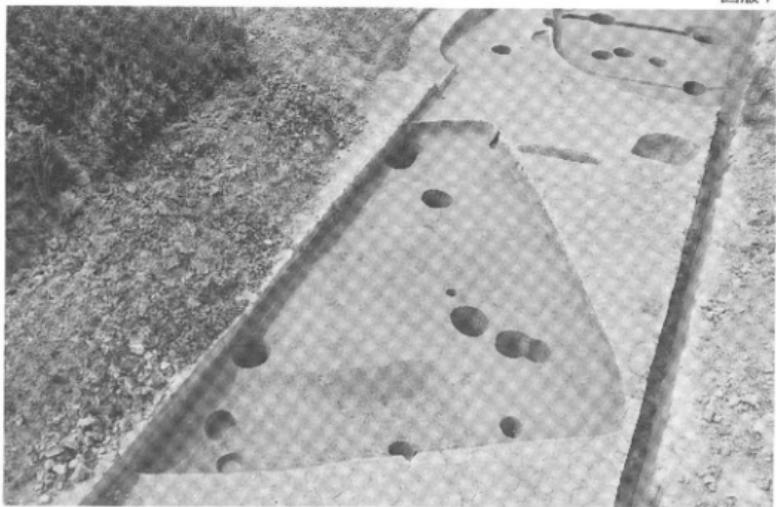
図版 6



1. D12区下層遺構検出状況（北から）



2. D12区 6号住居址炭化物検出状況（南東から）

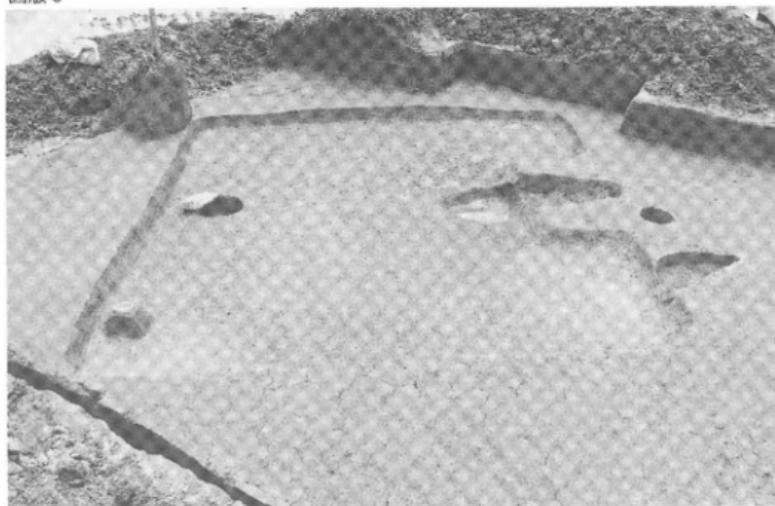


1. D12区 6号住居址完掘状況（南東から）

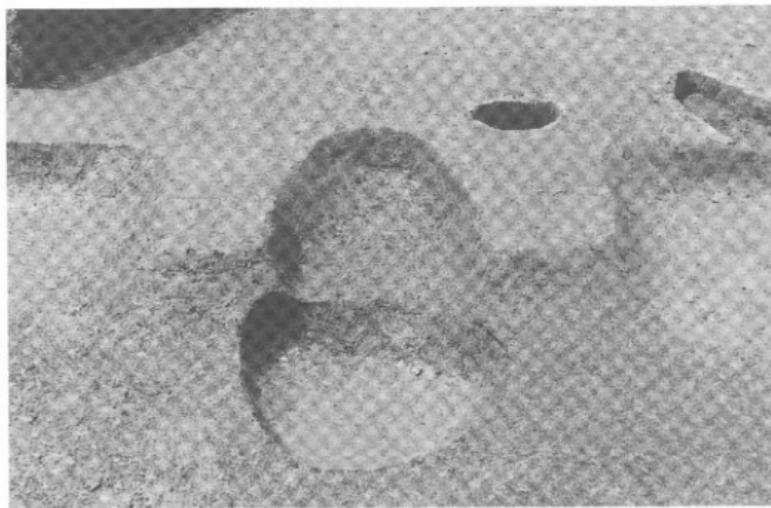


2. D12区 7号住居址検出状況（北東から）

図版 8



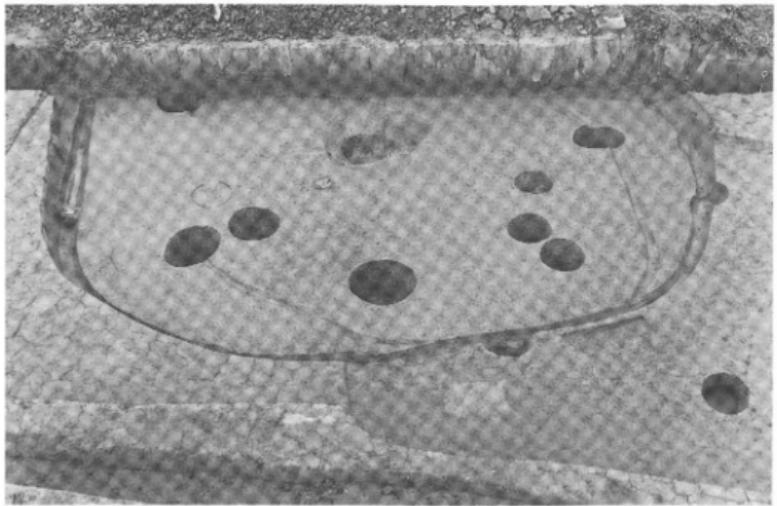
1. D12区7号住居址検出状況（北東から）



2. D12区住居址かまど検出状況（南東から）

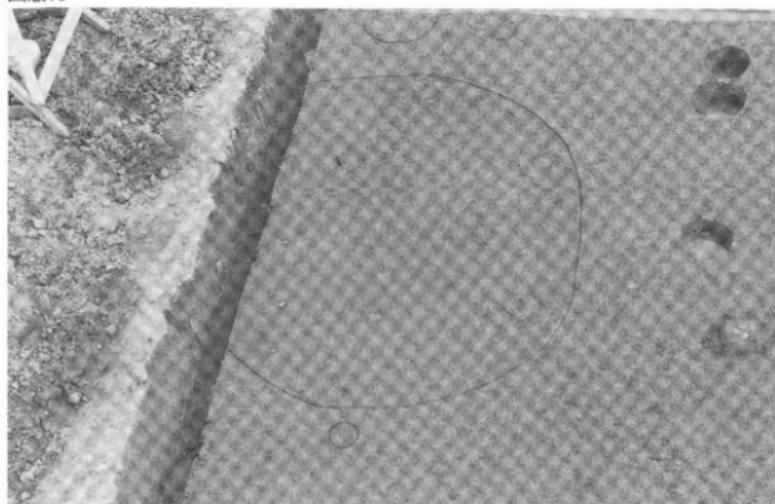


1. D12区井戸（下）8号住居址（上）完掘状況（北から）



2. D12区8号住居址完掘状況（西から）

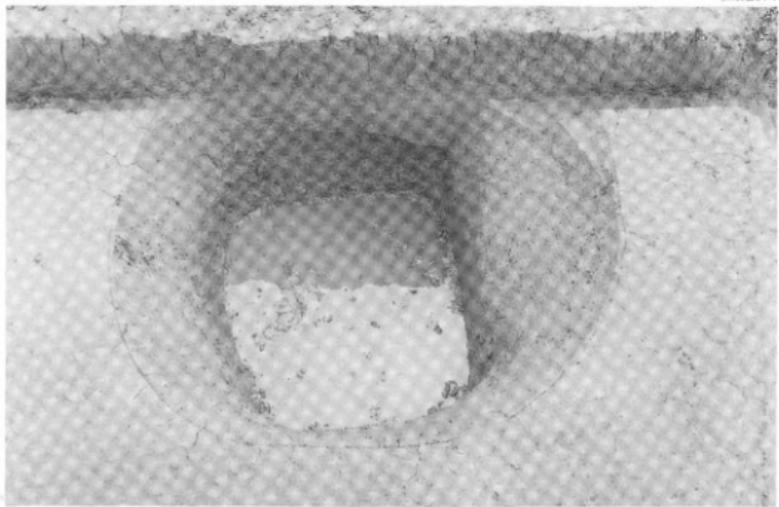
図版10



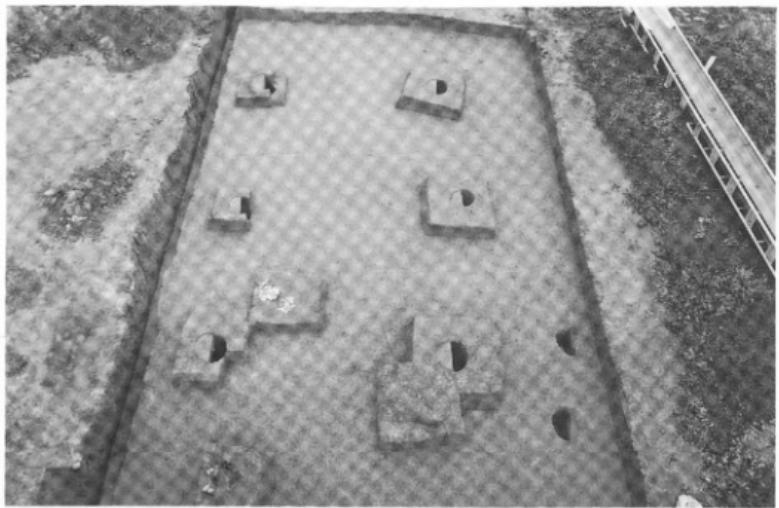
1. D12区井戸検出状況（北から）



2. D12区井戸南北土層断面（西から）



1. D12区井戸完掘状況（西から）

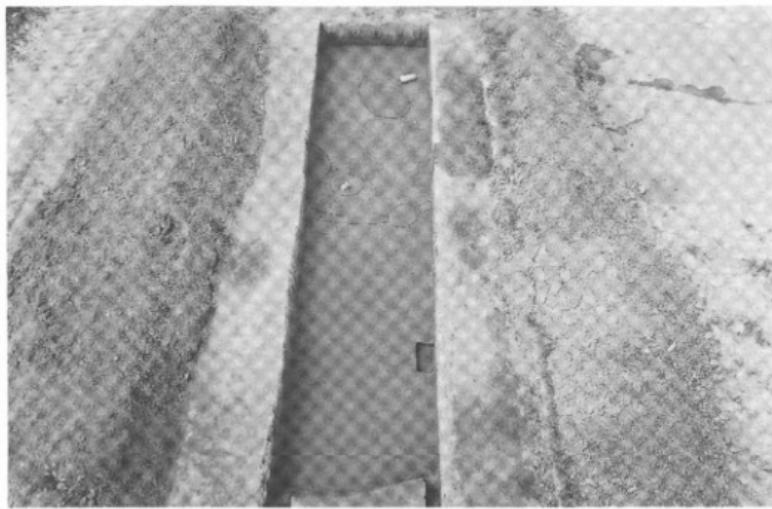


2. D12区建物全景（北から）

図版12



1. D12区下層遺構完掘全景（北から）



2. D19区（一次）遺構検出状況（東から）